

第 5 次芦屋市総合計画（後期基本計画）策定方針

1 はじめに

本市では、昭和 46 年（1971 年）に芦屋市総合計画、昭和 61 年（1986 年）に芦屋市新総合計画、平成 13 年（2001 年）に第 3 次芦屋市総合計画、平成 23 年（2011 年）に第 4 次芦屋市総合計画、令和 3 年（2021 年）に第 5 次芦屋市総合計画（以下「現行計画」）を策定し、芦屋のまちづくりを進めてきた。

令和 3 年に策定した第 5 次総合計画において、前期基本計画の期間が令和 7 年度（2025 年度）までとなっているため、令和 8 年度（2026 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの後期基本計画（以下「次期計画」）を、令和 6 年度（2024 年度）から令和 7 年度（2025 年度）にかけて策定する。

（これまでの総合計画）

計画名	計画策定年	将来像
芦屋市総合計画	昭和 46 年（1971 年）	自然の美、人工の美、人間の美が調和した 品位と風格のある個性豊かな住宅都市
芦屋市新総合計画	昭和 61 年（1986 年）	誇りと愛着を感じる 国際文化住宅都市
第 3 次芦屋市総合計画	平成 13 年（2001 年）	知性と気品に輝く活力ある 国際文化住宅都市
第 4 次芦屋市総合計画	平成 23 年（2011 年）	自然とみどりの中で絆を育み、“新しい 暮らし文化”を創造・発信するまち
第 5 次芦屋市総合計画	令和 3 年（2021 年）	人がつながり 誰もが輝く 笑顔あふれる住宅都市

2 市民アンケート結果を踏まえた策定

令和 5 年 6 月実施の「芦屋市のまちづくりについての市民意識調査」（以下「市民意識調査」という。）では、約 86.6%が芦屋市内で「住み続けたい」と回答しており、定住意向は依然と高い傾向にある。現行計画における、施策目標の 13 項目のうち、全体では、「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的意見は「⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」が 73.7 %で最も高く、「⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている」が 70.1 %、「⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる」が 63.2 %、「⑧日常の安全安心が確保されている」が 59.7 %と続いている。

一方で、「⑫人口減少社会に対応した行財政運営」、「⑬社会変化に対応できる組織」で、「やや不満」と「不満」と合わせた否定的意見が 4 割を超えており、また、「⑦災害に強いまちづくりが進んでいる」、「⑫人口減少社会に対応した行財政運営」については、「今後重要と考える分野」として評価されつつも、施策への評価が低いため、今後重点的な取組が求められる分野と評価されている結果となっている。

なお、自由記載においては、全般的に「まちづくり全体」、「子育て環境の整備」、「少子高齢化への対策」、「情報の啓発・広報」に関する意見が多くなっており、前回の調査に比して子育て世帯・若い世代への支援などに関する意見が目立った。

以上のような市民アンケートの結果を踏まえた本市の強みを活かせる分野や、ニーズはあるが市民満足度が低い分野などについて、特に意を用いて策定する。

3 総合計画策定の視点・考え方

現行計画をもとに現在までの状況と課題を洗い出し、策定後の社会状況の変化等も踏まえ、後期5か年を策定する。

(1) 基本的な方向性

現行計画の振り返りについては、施策評価・事務事業評価等を活用し、それぞれの取組状況を検証するとともに、各施策目標の達成に向け、現行計画に基づく事業実施における課題と今後の施策の方向性を明らかにしたうえで、後期基本計画へ反映させる。

策定にあたっては、現在の経済情勢を十分に踏まえるとともに、人口減少や少子高齢化、ICTの急速な発達、グローバル化の進展、未曾有の社会環境の変化も見据えた計画となるよう十分留意する。また、各施策分野の課題別計画と連携を図りながら、現行計画を活かしつつも、過去の常識にとらわれない柔軟な発想で計画策定を進める。

(2) 市民と行政との対話によるまちづくり

総合計画策定において、従来からの市民の意見を踏まえた課題認識を各関係機関と連携し、計画に取り入れるよう努める。また、総合計画審議会への市民委員の参画、市民意識調査、パブリックコメント、市政モニターの利用など市民参画に関する手続を活用するとともに、こどもも含めた市民と協働して計画に意見を取り入れられるよう策定を行い、まちづくりの推進を図る。

(3) 人材育成の場としての活用

若手・中堅職員が将来の芦屋の姿を思い描きながら新たに計画策定に携わることで、中長期的、俯瞰的、多角的な視点に立った未来志向の意識を醸成し、今後の社会経済情勢の変化を的確に捉えた政策形成能力の向上を図る。

(4) 実効性の確保

計画（Plan）を明確にし、実行（Do）を進めるだけでなく、その後の評価（Check）および改善（Action）につなげ、実施した事業が一層実効性のあるものとなるよう、取組の適切な改善を行うとともに、社会情勢の変化に応じて柔軟に見直せるよう次期

計画策定以降の計画に繋がる仕組みづくりを進める。

(5) 他の計画との関係

時代の変化を背景とする様々な課題、とりわけ基礎にある課題である人口減少、少子高齢化に対応する必要がある。そのため、持続可能な社会づくりを目指す必要があり、共通目標である SDGs の視点に加え、国や県の方向性も踏まえた本市の独自の創生総合戦略を考えていく必要がある。

また、本市における文化の視点は、あらゆる施策に広く関連しており、文化的要素を取り入れたまちづくりを展開していること、市民参画・協働の観点、市民と行政によるまちづくりにおいて今後ますます重要性を増していくものであるため、総合計画の施策全般に市民参画・協働の視点を加えた事業の推進が求められている。両計画は、総合計画と同じく持続可能な社会づくりを目指すものとして、総合的・一体的に議論することで、より整合性のある実効的な計画の策定が可能となる。

教育分野については、これまでの教育振興基本計画における基本施策を踏まえた整理を行い、教育指針との連携をより強化することで取組の推進を図っていく。

これらを含め、関連する様々な課題別計画、重点取組、指針等と機能的に連携を図ることにより、全体的な施策の円滑かつ効果的な推進に寄与するものとして策定する。

4 計画の構成と期間

次期総合計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」をもって構成する。

(1) 基本構想

市のまちづくりの最高理念であり、目標とするまちの将来の姿を描き、その実現に向けた施策を行うための基本的な考え方や方針を示すもの。

現行計画において、令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間として基本構想を策定（芦屋市総合計画に関する規則第4条）しているため、後期計画では引き続き同基本構想のもとで基本計画の策定を行う。

(2) 基本計画

基本構想を実現するために必要な施策とその方向性を総合的かつ体系的に示す基本的な計画で、具体的な事務事業の基礎とするもの。

効果的な推進に向け、中間年度で情勢の変化による見直しを行うため、基本計画の期間は前期5年、後期5年とし、前期を令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までとしており、今回策定する後期基本計画を令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までとする（芦屋市総合計画に関する規則第4条）。

(3) 実施計画

基本計画に定められた施策を効果的かつ効率的に実施するため、長期財政収支見込みを勘案したうえで、具体的な事務事業を明らかにするもの。

実施計画の期間は3年とし、1年を経過するごとに見直して毎年度策定する（芦屋市総合計画に関する規則第6条）。

5 策定体制

次期計画は、以下の体制で策定する。

(1) 市民意見

広く募集した市民委員と次期計画に盛り込むべき内容について協議する。また、市政モニターを利用し、機動的な意見聴取を行う。さらに、市民意識調査や対話集会、パブリックコメントなどの機会をとらえ、総合計画の基礎資料とする。

(2) 総合計画等推進本部（庁内組織）

市長、副市長、教育長、技監および部長級の職員で構成し、現行計画の検証、総括を受け、次期計画策定について協議する。

(3) 総合計画等推進本部専門部会（庁内組織）

策定委員会の下部組織として、室・課長級職員で構成し、次期計画策定について協議する。専門部会で構成し、構成員は各担当の室・課長級職員とする。

(4) 職員ワーキングチーム（庁内組織）

若手・中堅職員で構成し、現状の課題について協議、専門部会へ提言する。また、既存の枠にとらわれないアイデアを協議する。

(5) 行政アドバイザーチーム

まちづくりに関する知見を有する者のほか本市にある教育機関・民間事業者などで構成し、次期計画及び行政評価について迅速に助言を行う。

(6) 総合計画審議会（附属機関）

学識経験者、市議会議員、市民団体の代表者および特に市長が必要と認める者（公募市民）で構成し、次期計画について審議する。

(7) 事務局

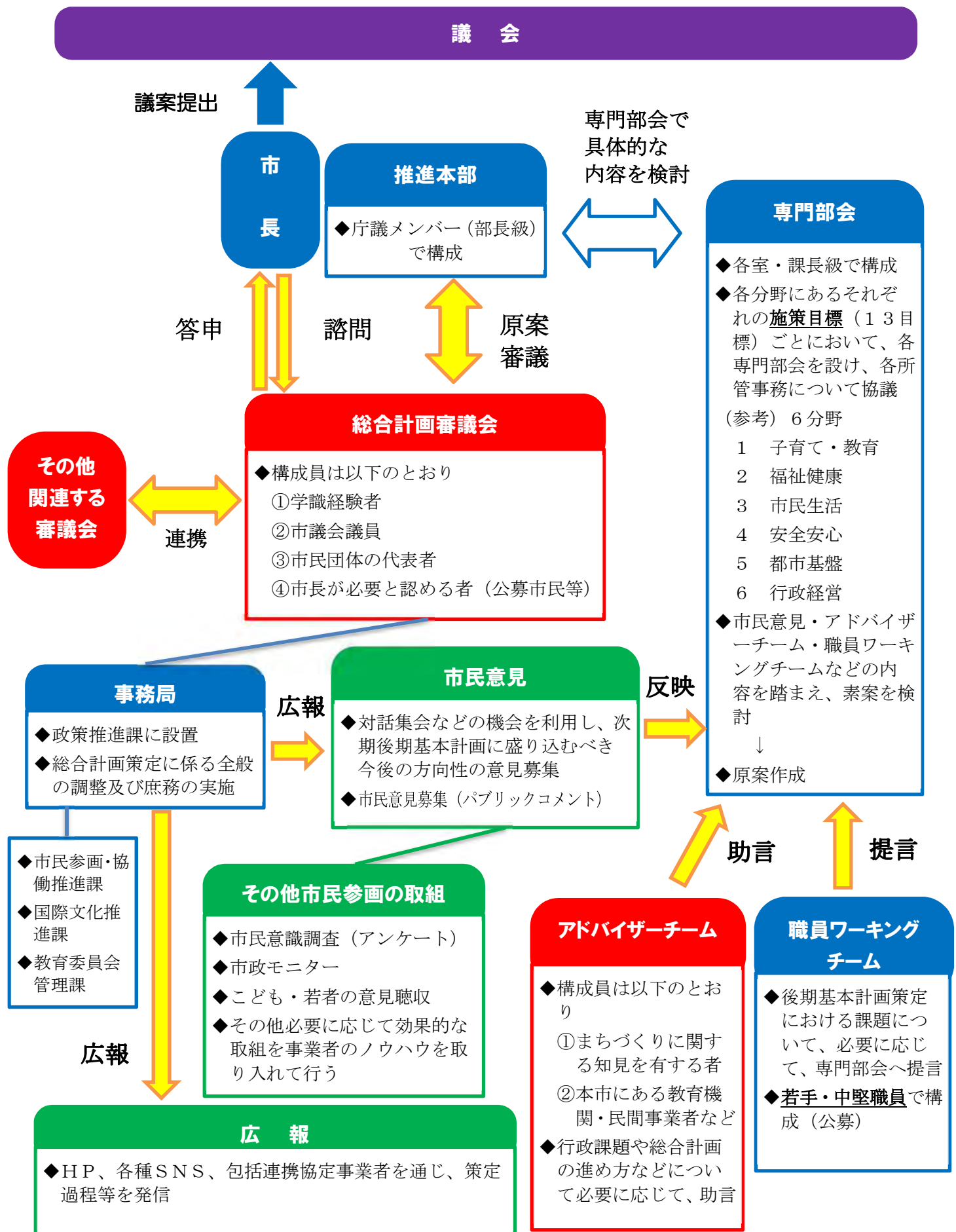
企画部市長公室政策推進課に設置し、総合計画策定に係る全般の調整および庶務を

行う。

(8) その他

上記のほか、課題に応じて関係機関に連携し、施策の実施・評価等を行う。

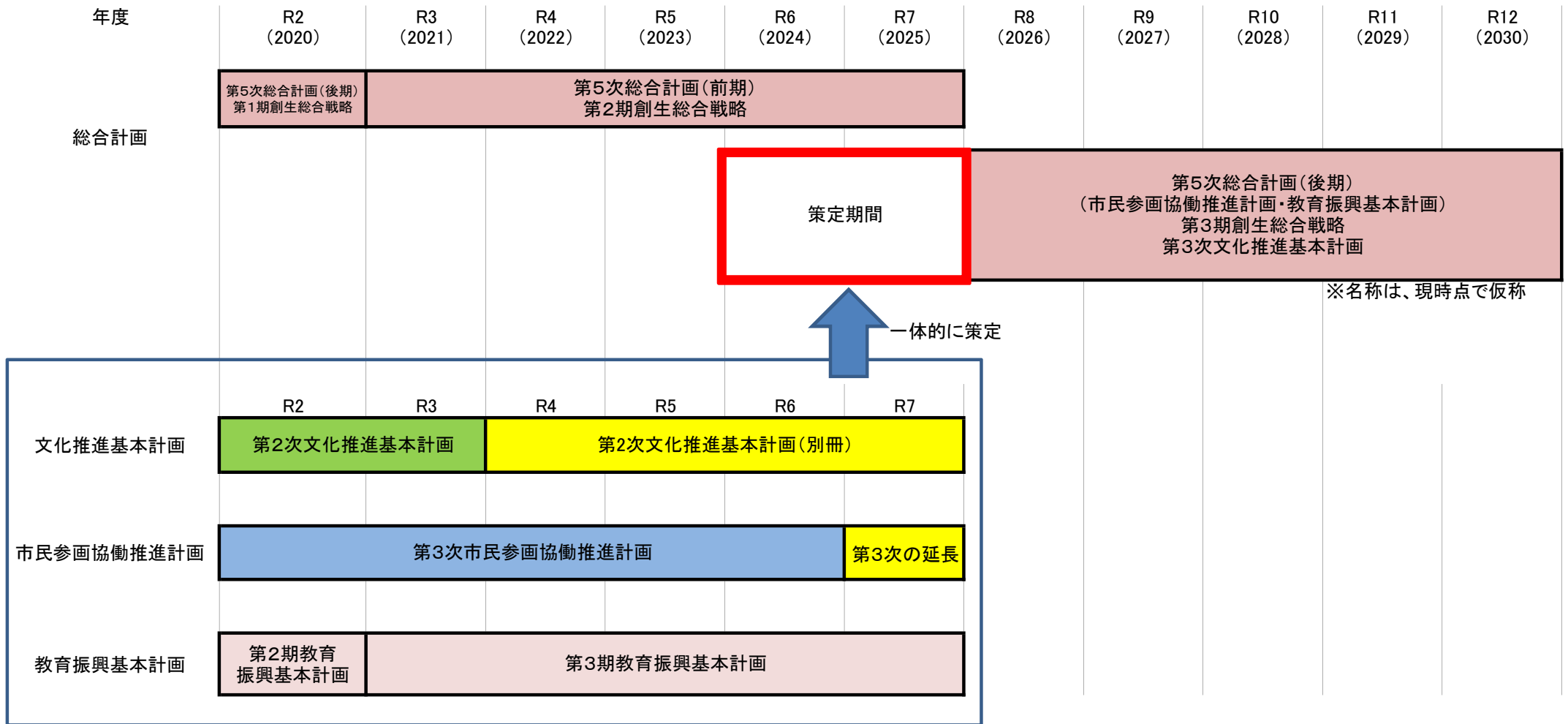
第5次芦屋市総合計画(後期基本計画) 策定体制



第5次総合計画後期基本計画策定スケジュール

[illegible]

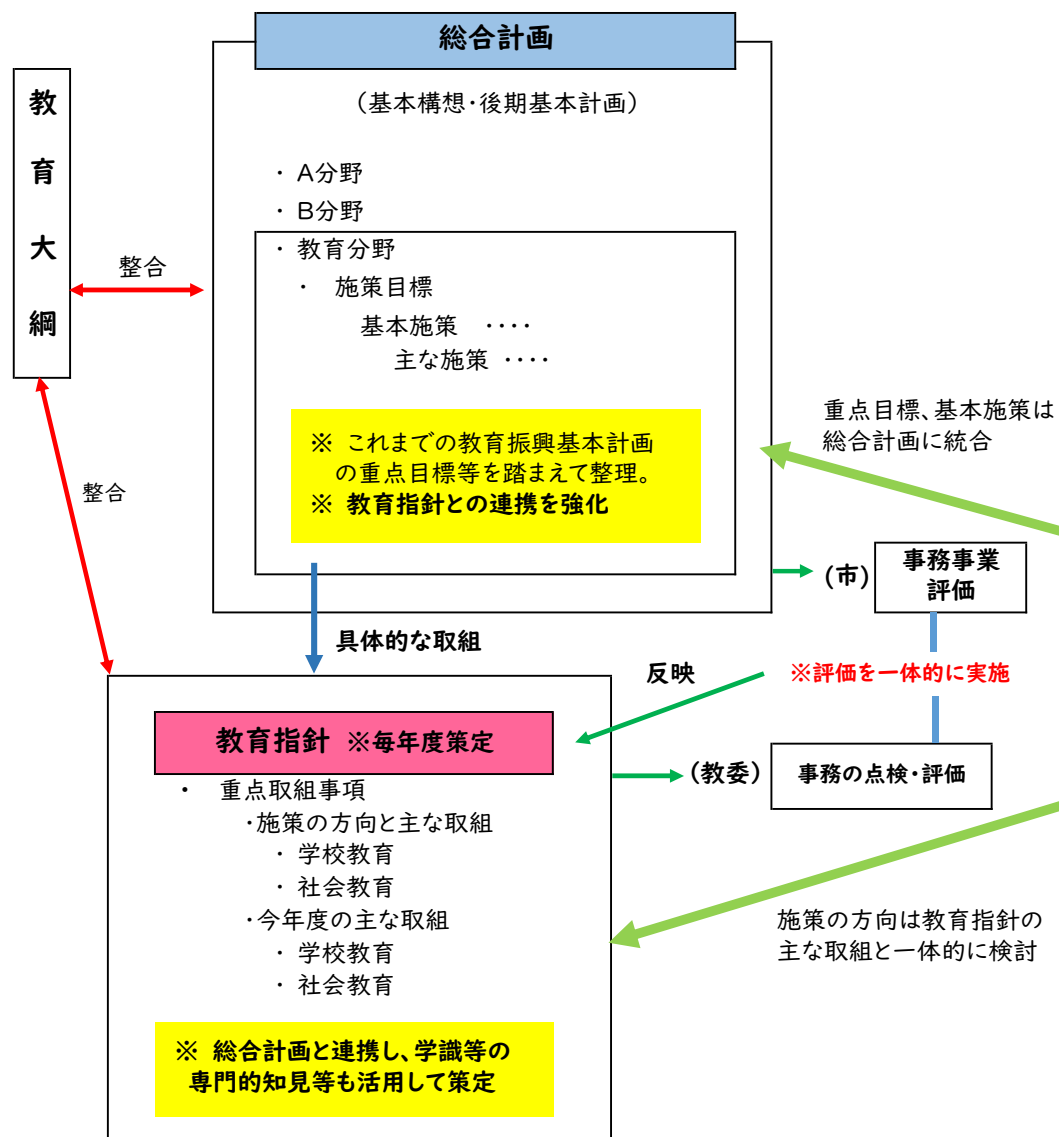
各計画に関する時系列



教育振興基本計画の総合計画（後期基本計画）への統合について

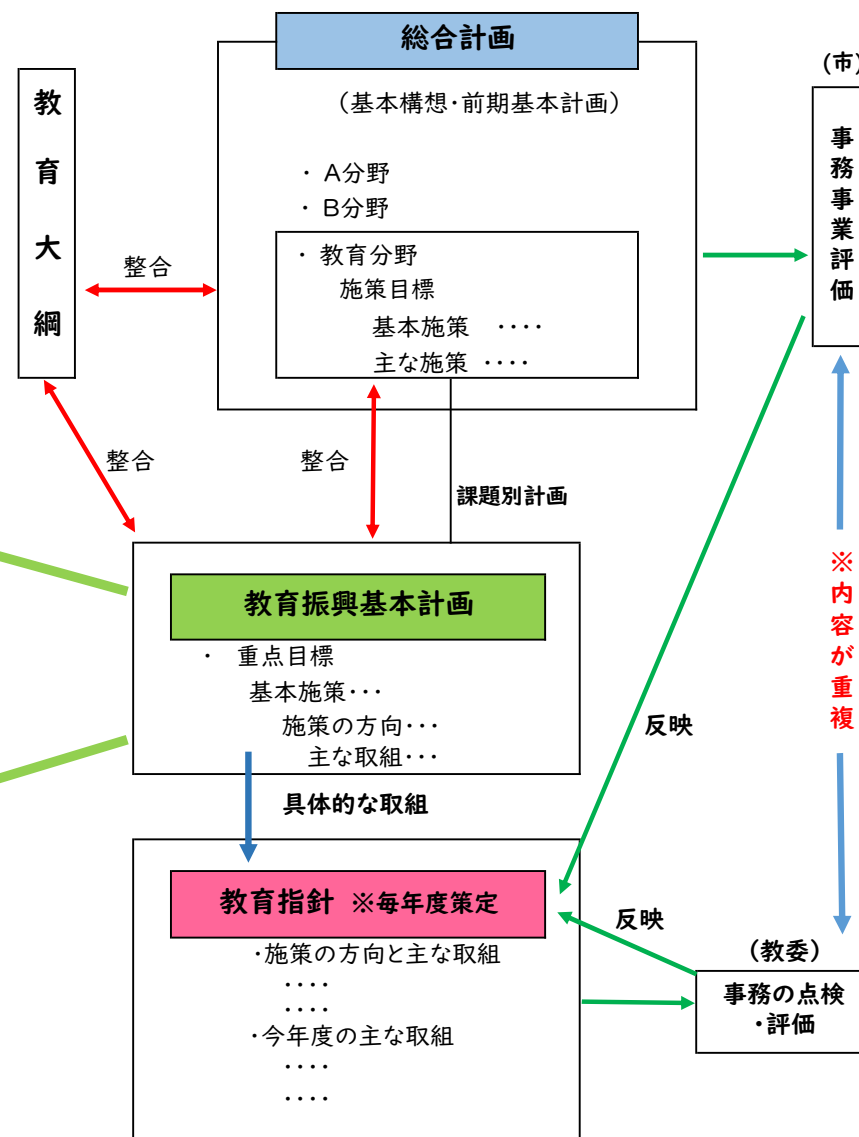
【改正後】

第5次総合計画（後期計画）と教育指針の関係



【現行】

第5次総合計画（前期計画）と教育振興基本計画・教育指針の関係



芦屋市のまちづくりについての
市民意識調査
調査結果報告書 概要版

令和6年1月

芦 屋 市

目 次

● 調査概要

1 調査の目的.....	1
2 調査方法.....	1
3 配布・回収.....	1

● 調査結果

1 お住まいの地域での生活や住みやすさについて.....	2
2 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて.....	5
3 市民マナー条例について.....	7
4 文化的なふれあいや学びについて.....	8
5 新型コロナウイルス感染症の影響について.....	10

報告書を読む際の注意事項

- ✧ 比率の合計は、小数点第二位を四捨五入している関係から、内訳の合計と一致しない場合があります。
- ✧ 「2つ以上を選択」の複数回答設問については、回答者数を母数として出現率を算出しているため、出現率の合計が100%を超える場合があります。
- ✧ 属性別のクロス集計のうち、年代別の「10歳代」（32件）、地区別の「奥池地区」（27件）については回答者数が少なく、誤差が大きいことから結果の利用には注意が必要です。

1 調査の目的

令和3年9月に策定した第5次芦屋市総合計画前期基本計画に係る各施策の進捗状況把握及び評価のため、「市民意識調査」を実施しました。

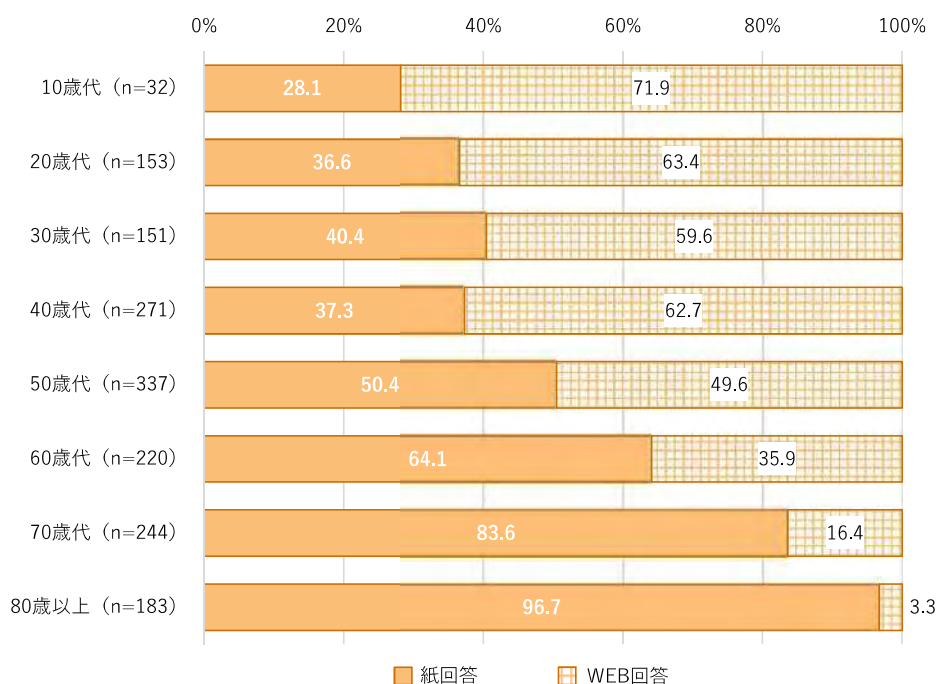
2 調査方法

調査対象	芦屋市在住の18歳以上の市民3,000人 (令和5年(2023年)6月1日現在の住民基本台帳登録者)
調査対象の抽出方法	過去の市民意識調査における年代別の回答傾向を踏まえ、想定される回答サンプル数の年代別・地区別の構成比が実際の芦屋市の人口構成に近似するように抽出サンプル数を想定した上で、住民基本台帳から無作為抽出しました。
調査方法	1. 郵送による配布・回収(督促状を1回送付) 2. パソコン・スマートフォン等によりWEBで回答 (郵送によるアンケート票にWEB回答の案内を印刷)
調査期間	令和5年(2023年)6月14日(水)～6月30日(金)

3 配布・回収

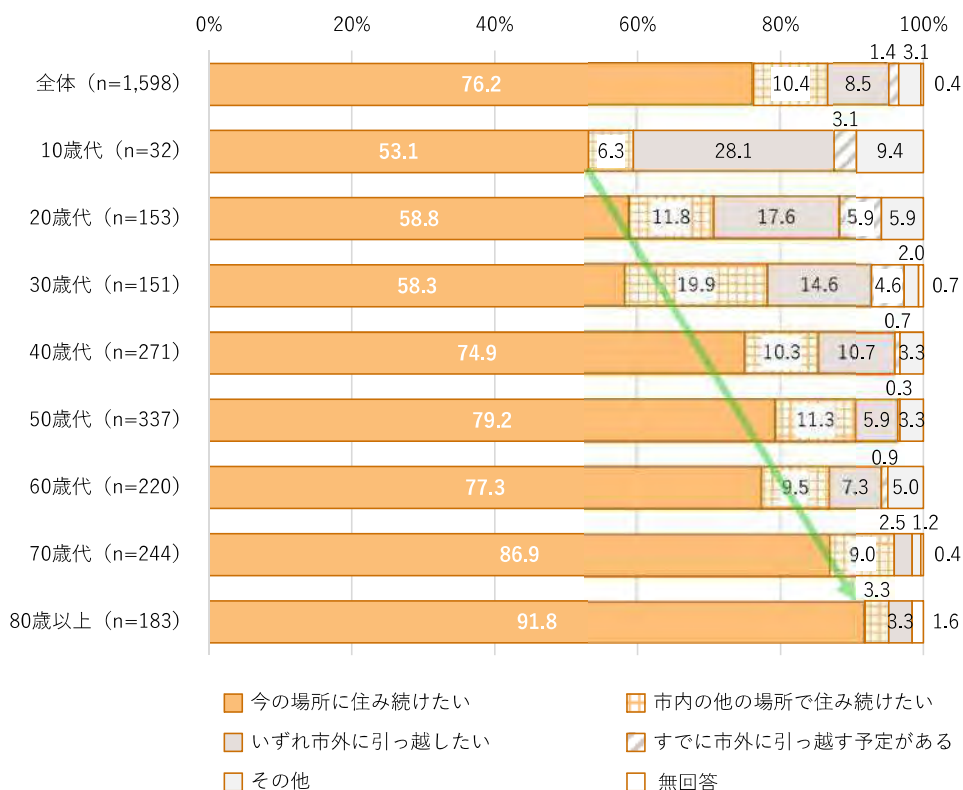
	件数	備考
① 対象者数	3,000	
② 有効配布数	2,997	未配達3件
③ 有効回答数	1,598	用紙回収: 926件(無効2件除く)、WEB回収: 672件
④ 有効回収率	53.3%	③ 有効回答数 ÷ ② 有効配布数

● 回答方法(年代別) ●



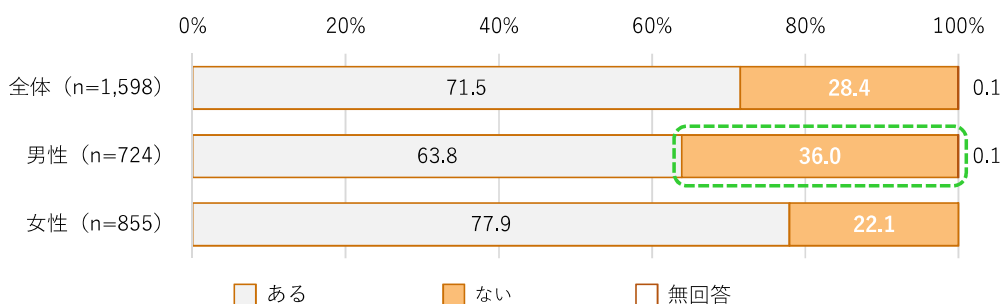
1 お住まいの地域での生活や住みやすさについて

- あなたは、（転勤等による移転予定の有無に関わらず）今のお住まいにずっと住んでいたいと思いますか。



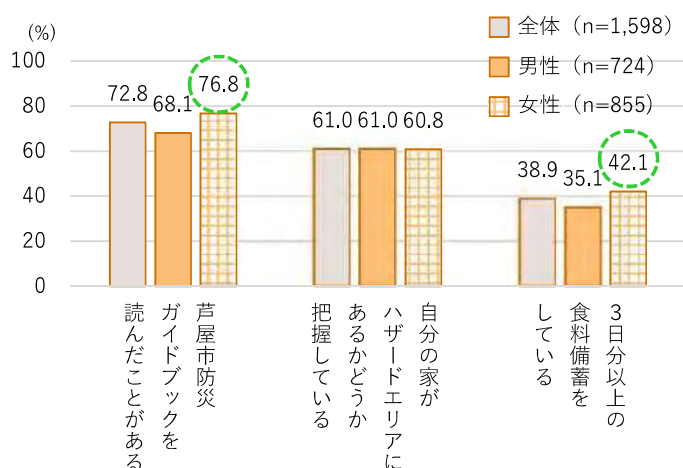
年代別では、「今の場所に住み続けたい」が10歳代から30歳代で6割未満となっていますが、概ね年代が高い程、定住意向が高くなる傾向がみられ、70歳以上で8割を超えています。

- あなたは、家族や親族以外で、日々の生活の中で困りごとが発生したときに相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所がありますか。



性別では、男性で「ない」が36.0%と女性より13.9ポイント高くなっています。男性が相談しやすい環境づくりを検討していく必要があります。

◆ 地震や津波、大雨、暴風など、自然災害の発生に対し、日頃から備えていることはありますか。



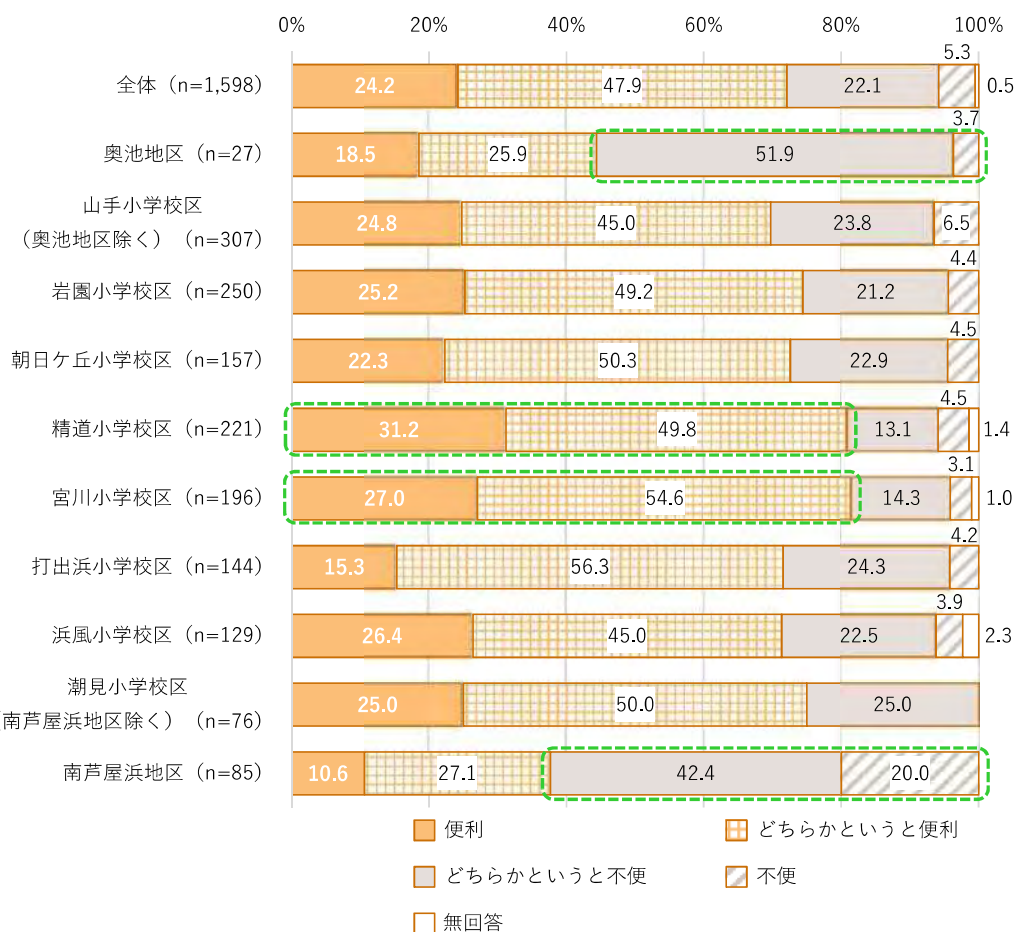
性別では、男女ともに「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が最も高くなっているものの、女性で76.8%と男性より8.7ポイント高くなっています。

また、「3日分以上の食料備蓄をしている」は女性で42.1%と男性より7.0ポイント高くなっています。

男性の行動促進に向け、周知に努めていく必要があります。

※ 全体数値での上位3位を掲載

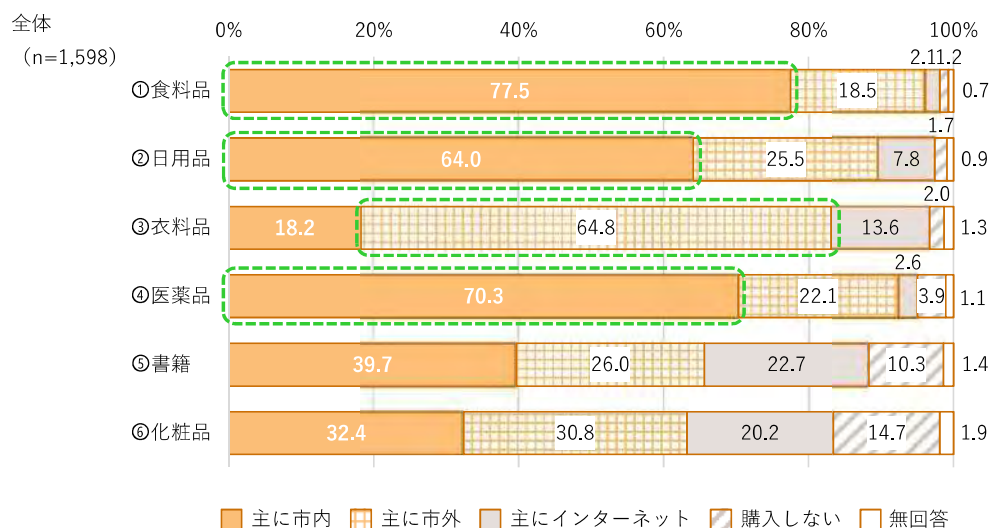
◆ あなたは、徒歩、自転車、自家用車、公共交通などの手段に関わらず、市内の移動の便利さについて、どのように感じていますか。



地区別では、市内の移動が『便利』（「便利」＋「どちらかという便利」）だと思う割合は、精道小学校区と宮川小学校区で8割を超えています。

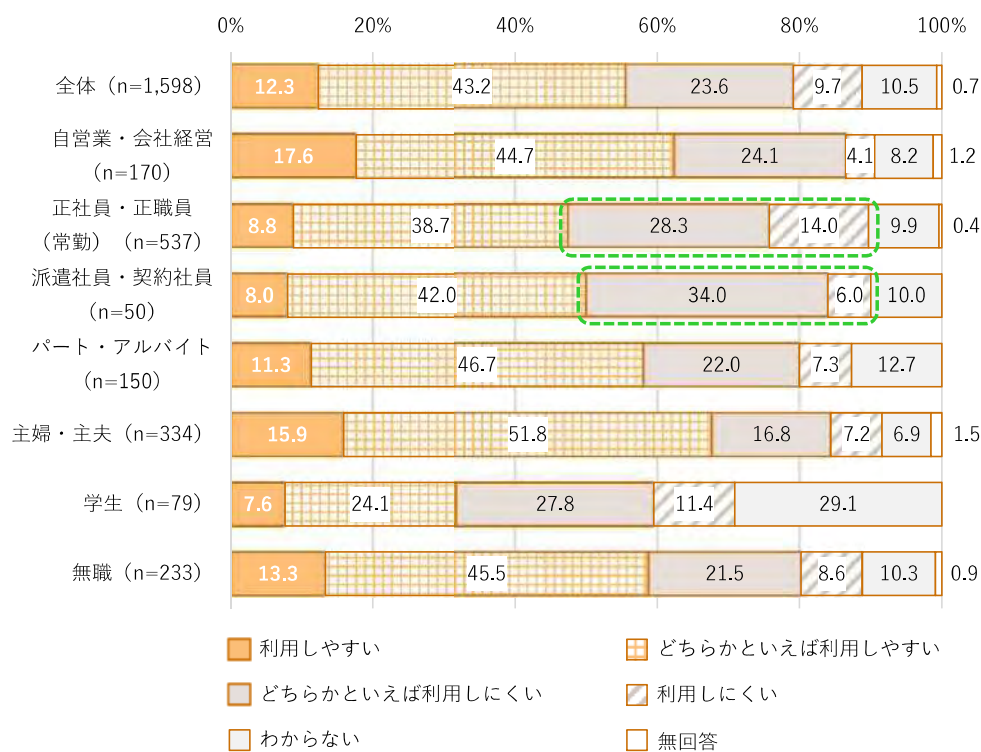
一方で、『不便』（「どちらかという不便」＋「不便」）だと思う割合は、奥池地区と南芦屋浜地区で5割を超え他の地区より高くなっており、市内中心部から遠い程、不便と感じる傾向がみられます。

◆ あなたは、下記の用品について普段どこで購入されていますか。



全体では、① 食料品、② 日用品、④ 医薬品は、「主に市内」が6割を超えており、調達頻度が高いものについては、市内での購入割合が高くなっています。

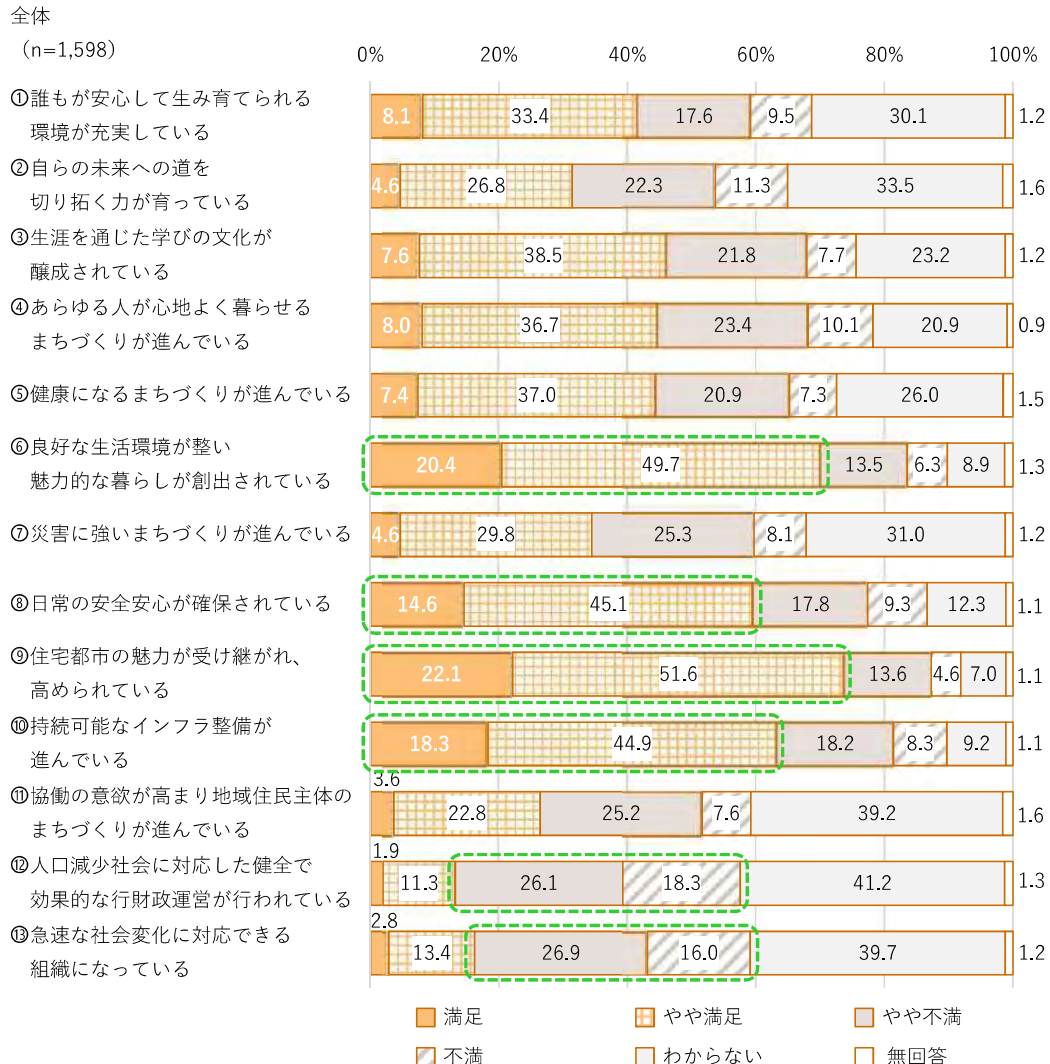
◆ あなたは、市役所への届け出や書類申請などの手続きについてどのように感じていますか。



職業別では、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員で『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」＋「利用しにくい」）が4割を超えています。日中は仕事があるため、市役所が開いている平日の時間に手続きをしづらいことが要因の1つと推察されます。

2 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて

- ◆ 下表に示す13の項目は、第5次芦屋市総合計画（令和3年度～令和12年度）の基本構想に掲げる施策の目標です。13項目それぞれについて、芦屋市の現状をどのように感じていますか。



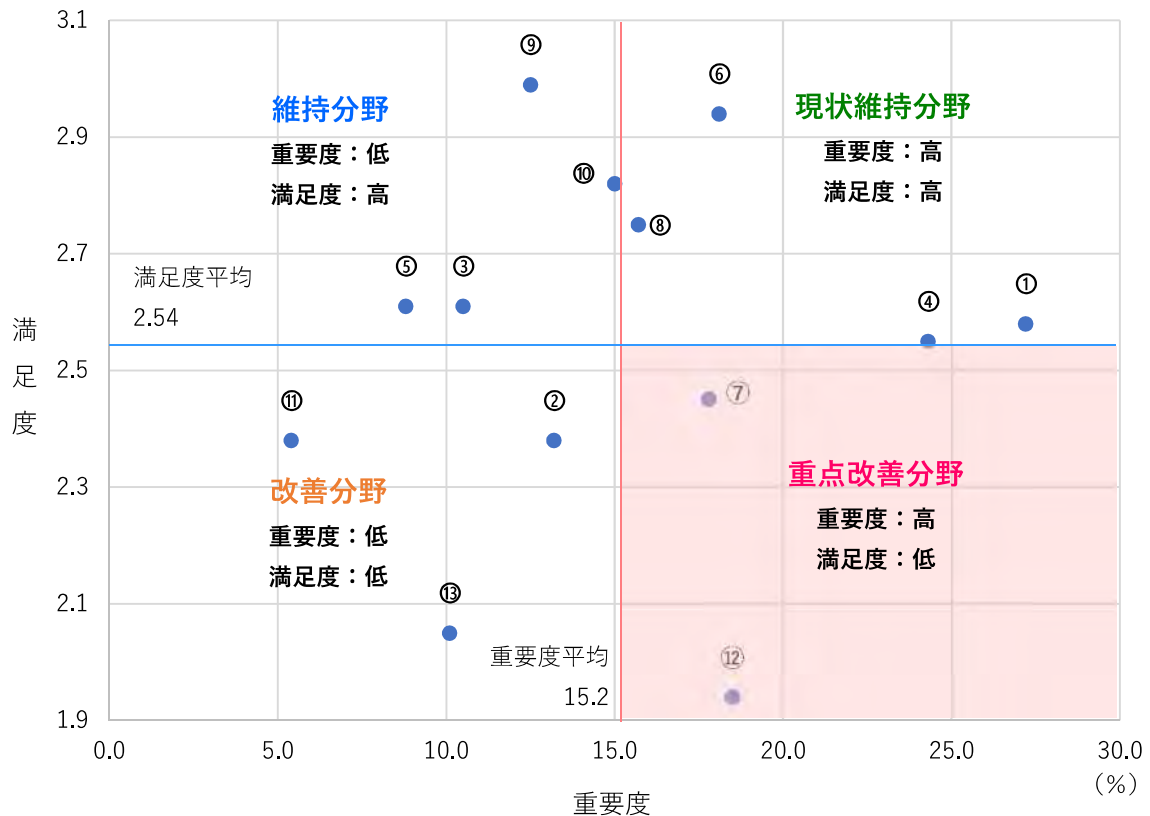
全体では、「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的意見は「⑨ 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」が73.7%で最も高く、次いで「⑥ 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている」が70.1%、「⑩ 持続可能なインフラ整備が進んでいる」が63.2%、「⑧ 日常の安全安心が確保されている」が59.7%と続いており、住宅環境としての評価の高さが読み取れる結果となっています。

一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的意見は「⑫ 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている」が44.4%で最も高く、次いで「⑬ 急速な社会変化に対応できる組織になっている」が42.9%と4割を超えており、少子高齢化・人口減少等の社会変化への対応力、今後を見据えた持続可能な行政運営への評価がやや低いことが読み取れる結果となっています。

■ 評点と重要度による散布図の提示

13 項目の施策目標について、

- ・ 縦軸を満足度とし、「満足」に4点、「やや満足」に3点、「やや不満」に2点、「不満」に1点の係数をかけ、母数（選択した回答者の数）で割って平均した評点を示しています。
- ・ 横軸を重要度とし、問 21（今後特に力を入れて取り組むべき施策）において 13 項目の中から選ばれた、今後重要と考える分野（3つ選択）の出現率を示しています。



満足度と重要度の散布図をみると、「⑦ 災害に強いまちづくり」、「⑩ 人口減少社会に対応した行財政運営」の2項目は満足度が低い一方で、重要度が高い項目となっています。⑦としては、主に防災対策の充実、啓発・広報の充実が、また、⑩としては、主に子育て世帯を含む若年層への支援が求められており、今後、重点的な取組が求められる項目となっています。



施策の目標を選んだ意見や理由

⑦ 災害に強いまちづくりが進んでいる

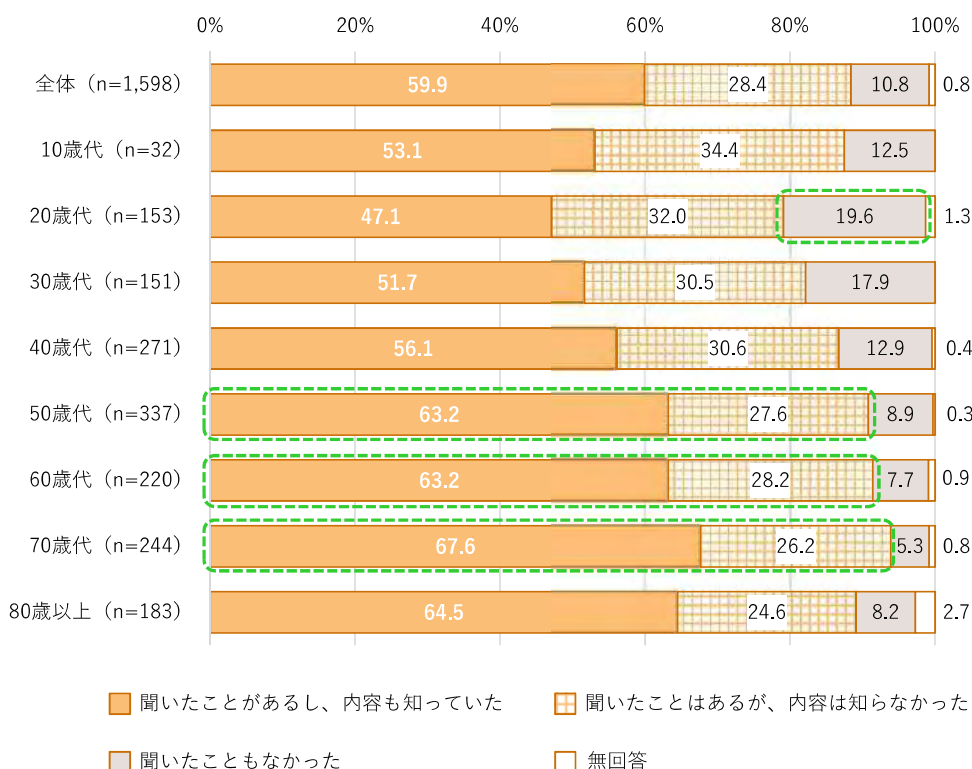
- 防災対策を充実させてほしい
- 啓発・広報を充実させてほしい
- 地震対策が必要
- 起こりうる災害および被災時の心配や不安

⑩ 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている

- 子育て世帯が住みやすい施策を充実させてほしい
- 若い世代が住みやすい施策を充実させてほしい
- 高齢化社会への対策をすべきである
- 人口減少社会への対策をすべきである

3 市民マナー条例について

- ◆ あなたは、芦屋市の「(通称) 市民マナー条例」(歩行喫煙の禁止、犬の放し飼いや糞の放置、指定区域内でのバーベキューなどの禁止)をご存知ですか。



年代別では、概ね年代が高い程、市民マナー条例について『知っている』(「聞いたことがあるし、内容も知っていた」+「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」)割合が高くなる傾向がみられ、50歳代から70歳代では9割を超えています。

一方で、概ね年代が若くなるほど「聞いたこともなかった」が高くなる傾向がみられており、20歳代では2割近くを占めています。多様な媒体を通じて周知に努めていくことが必要です。

? 市民マナー条例では何が決められているの？

市民マナー条例では、公共の場所等で次のことを禁止しています。

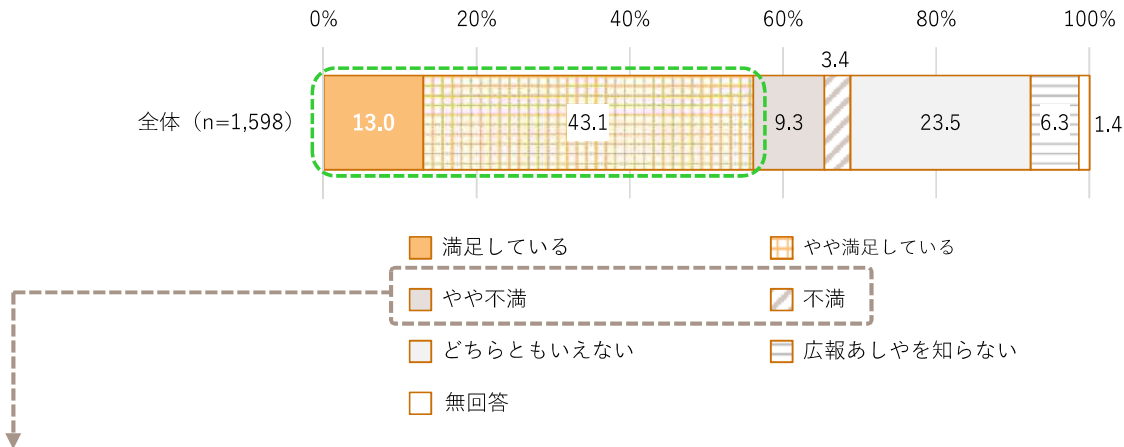
- ① 歩行中や自転車乗車中の喫煙(歩行喫煙等)
 - ② たばこの吸い殻や空き缶等のポイ捨て
 - ③ 犬の放し飼いやふんの放置
 - ④ 夜間花火(午後9時から翌朝午前6時まで)
 - ⑤ 落書き(他人が所有する建築物等への落書きも含む)
- ※ 他にも、区域を指定した違反行為(指定区域内での喫煙、バーベキュー、プレジャーボート等による航行)があります。
- ※ 違反行為には過料、罰金が科せられます。

詳しくはこちら



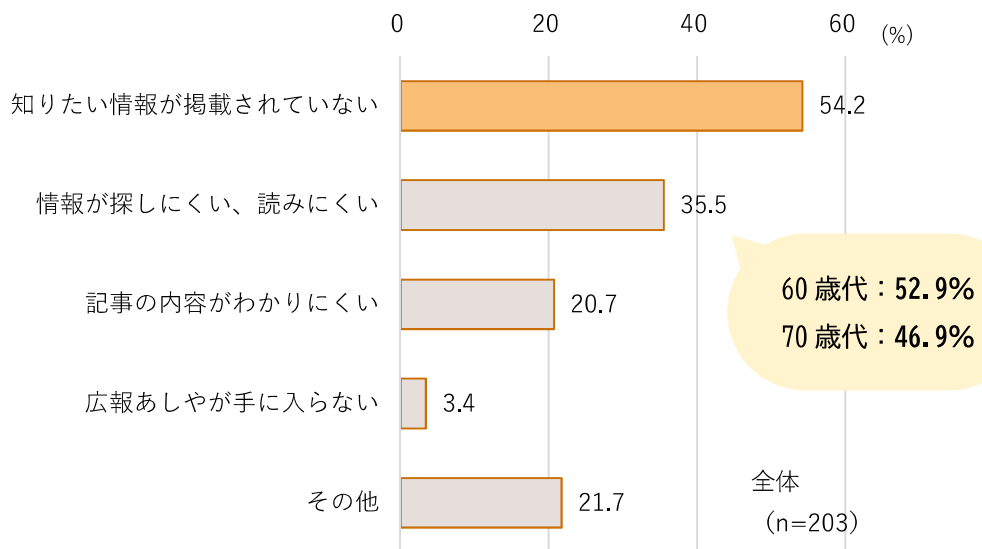
4 文化的なふれあいや学びについて

◆ あなたは、「広報あしや」に満足していますか。



(「やや不満」・「不満」と答えた方に)

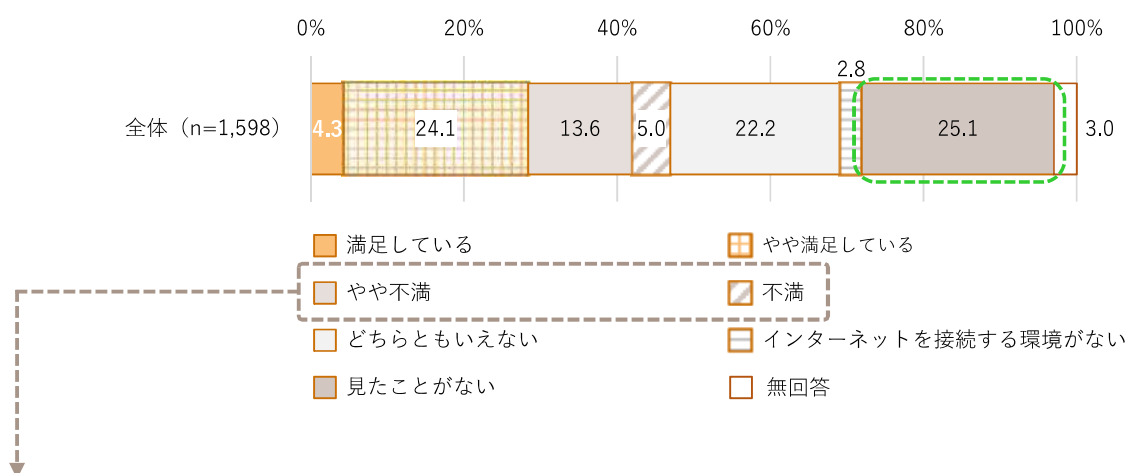
◆ 「広報あしや」について不満の理由は何ですか。



「広報あしや」の満足度については全体で『満足』（「満足している」＋「やや満足している」）が5割を超えています。

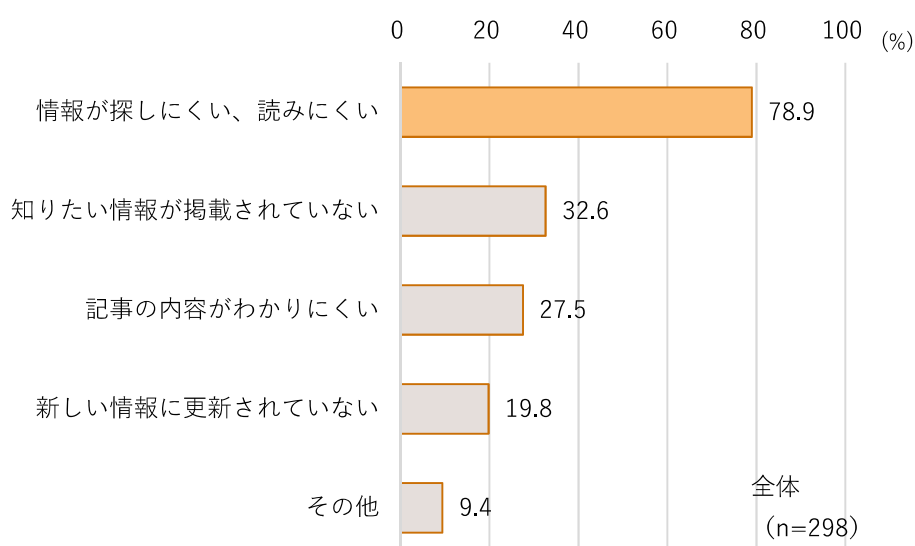
一方で『不満』（「やや不満」＋「不満」）と回答した人に不満な理由を尋ねたところ、「知りたい情報が掲載されていない」が5割を超えて最も高くなっています。また、年代別では60歳代と70歳代で「情報が探しにくい、読みにくい」が全体より10ポイント以上高くなっています。

◆ あなたは、「市のホームページ」に満足していますか。



(「やや不満」・「不満」と答えた方に)

◆ 「市のホームページ」について不満の理由は何ですか。



「市のホームページ」の満足度については約4人に1人が「見たことがない」と回答した結果となっています。

また、『不満』(「やや不満」+「不満」)と回答した人に不満な理由を尋ねたところ、「情報が探しにくい、読みにくい」が7割を超えて最も高くなっており、容易に検索できるよう改善が求められています。

5 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ◆ 今後、市に重点的に取り組んでほしい施策はありますか。

年代	1 位	2 位	3 位
10 歳代 (n=32)	安定した医療体制の確保 40.6%	子育て支援の充実 37.5%	スポーツや文化活動機会の充実 31.3%
20 歳代 (n=153)	安定した医療体制の確保 42.5%	行政手続きのオンライン化の推進 34.0%	子育て支援の充実 33.3%
30 歳代 (n=151)	子育て支援の充実 60.3%	安定した医療体制の確保 44.4%	学校教育の学習支援の充実 37.1%
40 歳代 (n=271)	安定した医療体制の確保 50.6%	子育て支援の充実 38.4%	学校教育の学習支援の充実 38.0%
50 歳代 (n=337)	安定した医療体制の確保 64.4%	感染対策に関する明確な情報発信 32.3%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 25.8%
60 歳代 (n=220)	安定した医療体制の確保 62.3%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 35.9%	感染対策に関する明確な情報発信 34.5%
70 歳代 (n=244)	安定した医療体制の確保 58.2%	感染対策に関する明確な情報発信 52.5%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 42.6%
80 歳以上 (n=183)	安定した医療体制の確保 60.7%	感染対策に関する明確な情報発信 48.6%	高齢者・障がいのある人の生活支援の充実 47.5%

30 歳代を除く全ての年代で「安定した医療体制の確保」が 1 位となっています。30 歳代では「子育て支援の充実」が 1 位となっています。

その他、10 歳代では「スポーツや文化活動の機会の充実」、20 歳代では「行政手続きのオンライン化の推進」、30 歳代と 40 歳代で「学校教育の学習支援の充実」、50 歳以上では「感染対策に関する明確な情報発信」、「高齢者・障がいのある人の生活支援の充実」が上位 3 位となっています。

主に若い世代でポストコロナに向けた取組や子育て支援でのニーズが高い一方で、高齢の世代になる程、感染対策を意識した生活支援のニーズの高まりがうかがえる結果となっています。

芦屋市のまちづくりについての市民意識調査 調査結果報告書

令和6年1月

目 次

1 調査概要	1
（１）調査の目的	1
（２）調査方法	1
（３）配布・回収	1
（４）性別・年代別回答状況	2
（５）地区別回答状況	3
（６）回答方法別	3
（７）標本誤差について	5
（８）分析についての注意点	6
2 結果の要約	7
（１）お住まいの地域での生活や住みやすさ	7
（２）芦屋市のまちづくりの目標の達成状況など	8
（３）市民マナー条例	8
（４）文化的なふれあいや学び	9
（５）新型コロナウイルス感染症の影響	9
（６）自由記述	9
3 アンケート調査結果	10
問１ 年齢	10
問２ 性別	11
問３ 職業	12
問４ 居住地区	13
問５ 定住意向	14
問６ 地域の活動や行事への参加状況	16
問７ 地域外の活動や行事への参加状況	18
問８ 日常的に子どもと接する機会の有無	20
問９ 家族以外での困りごとの相談相手・場所の有無	22
問１０ まちの緑の景観評価	25
問１１ まちの緑の景観を育成・維持する活動への参加頻度	27
問１２ 市内公園の利用頻度	29
問１３ 自然災害に対する日頃の備え	33
問１４ 地球温暖化防止に向けた取組	36
問１５ 市内での移動の利便性	38
問１６ 生活用品の購入場所	40
問１７ 理想と現実の夫婦役割分担	54
問１８ 市役所の手続きの利便性	63
問１９ 第５次芦屋市総合計画の各施策の満足度	66

問20	芦屋市の現状の評価	95
問21	力を入れて取り組むべき施策目標	97
問22	「市民マナー条例」の認知度	109
問23	芦屋市のまちは清潔で快適だと思うか	111
問24	マナー向上のために市が特に取り組むべきこと	113
問25	市内文化的資源の利用・見学経験の有無	117
問26	過去1年間での文化的活動の有無	119
問27	自分の学びのための学習会・セミナーへの参加頻度	121
問28	「広報あしや」の満足度	123
問29	「広報あしや」について不満な理由	125
問30	「市のホームページ」の満足度	127
問31	「市のホームページ」について不満な理由	129
問32	新型コロナウイルス感染症による困りごと・不安なこと	131
問33	感染拡大を判断する際に重視すること	135
問34	市に対して重点的に取り組んでほしい施策	138
4	自由意見	142
問35	自由意見	142
5	資料編（調査票）	147

1 調査概要

(1) 調査の目的

令和3年9月に策定した第5次芦屋市総合計画前期基本計画に係る各施策の進捗状況把握及び評価のため、「市民意識調査」を実施した。

(2) 調査方法

① 調査対象	芦屋市在住の18歳以上の市民3,000人 (令和5年(2023年)6月1日現在の住民基本台帳登録者)
② 調査対象の抽出方法	過去の市民意識調査における年代別の回答傾向を踏まえ、想定される回答サンプル数の年代別・地区別の構成比が実際の芦屋市の人口構成に近似するように抽出サンプル数を想定した上で、住民基本台帳から無作為抽出した。
③ 調査方法	1. 郵送による配布・回収(督促状を1回送付) 2. パソコン・スマートフォン等によりWEBで回答 (郵送によるアンケート票にWEB回答の案内を印刷)
④ 調査期間	令和5年(2023年)6月14日(水)～6月30日(金)

(3) 配布・回収

	件数	備考
① 対象者数	3,000	
② 有効配布数	2,997	未配達3件
③ 有効回答数	1,598	用紙回収: 926件(無効2件除く)、WEB回収: 672件
④ 有効回収率	53.3%	③ 有効回答数 ÷ ② 有効配布数

[過去の調査との回答状況の比較]

	配布数(未配達数)	有効回収数	有効回収率(%)
平成16年度(2004年度)調査	2,000(15件)	1,203	60.6
平成20年度(2008年度)調査	3,000(15件)	1,811	60.7
平成24年度(2012年度)調査	2,000(11件)	1,015	51.0
平成26年度(2014年度)調査	3,000(11件)	1,426	47.7
平成29年度(2017年度)調査	3,000(3件)	1,611	53.7
令和元年度(2019年度)調査①	3,000(11件)	1,377	46.1
令和元年度(2019年度)調査②	3,000(5件)	1,430	47.7

(4) 性別・年代別回答状況

従来のアンケートでは、若年層の回答率が低く、高齢層の回答率が高い傾向がみられるため、過去の年代階層別の回答率を考慮して、前回調査に引き続き、年代別の抽出数を設定した。結果として性別・年代別の構成比においては、概ね実際の人口構成に近似した回答が得られている。

性別	年代	母集団		配布数		回答者		性別	年代	母集団		配布数		回答者	
		実数	比率	実数	比率	実数	比率			実数	比率	実数	比率	実数	比率
男性	10歳代	942	1.2	82	2.7	18	1.1	答えたくない	10歳代	-	-	-	-	0	0.0
	20歳代	3,525	4.4	260	8.7	76	4.8		20歳代	-	-	-	-	2	0.1
	30歳代	3,691	4.6	185	6.2	67	4.2		30歳代	-	-	-	-	2	0.1
	40歳代	5,855	7.2	288	9.6	121	7.6		40歳代	-	-	-	-	2	0.1
	50歳代	7,162	8.9	350	11.7	171	10.7		50歳代	-	-	-	-	3	0.2
	60歳代	5,408	6.7	169	5.6	107	6.7		60歳代	-	-	-	-	2	0.1
	70歳代	5,575	6.9	151	5.0	102	6.4		70歳代	-	-	-	-	0	0.0
	80歳以上	3,541	4.4	85	2.8	62	3.9		80歳以上	-	-	-	-	0	0.0
	無回答	-	-	-	-	0	0.0		無回答	-	-	-	-	0	0.0
	計	35,699	44.1	1,570	52.3	724	45.3		計	-	-	-	-	11	0.7
女性	10歳代	872	1.1	46	1.5	14	0.9	無回答	10歳代	-	-	-	-	0	0.0
	20歳代	3,848	4.8	201	6.7	75	4.7		20歳代	-	-	-	-	0	0.0
	30歳代	4,430	5.5	178	5.9	81	5.1		30歳代	-	-	-	-	1	0.1
	40歳代	7,283	9.0	211	7.0	148	9.3		40歳代	-	-	-	-	0	0.0
	50歳代	8,609	10.6	254	8.5	162	10.1		50歳代	-	-	-	-	0	0.0
	60歳代	6,514	8.1	159	5.3	110	6.9		60歳代	-	-	-	-	1	0.1
	70歳代	7,185	8.9	184	6.1	142	8.9		70歳代	-	-	-	-	0	0.0
	80歳以上	6,439	8.0	197	6.6	121	7.6		80歳以上	-	-	-	-	0	0.0
	無回答	-	-	-	-	2	0.1		無回答	-	-	-	-	5	0.3
	計	45,180	55.9	1,430	47.7	855	53.5		計	-	-	-	-	7	0.4
1,2にあてはまらない	10歳代	-	-	-	-	0	0.0	計	10歳代	1,814	2.2	128	4.3	32	2.0
	20歳代	-	-	-	-	0	0.0		20歳代	7,373	9.1	461	15.4	153	9.6
	30歳代	-	-	-	-	0	0.0		30歳代	8,121	10.0	363	12.1	151	9.4
	40歳代	-	-	-	-	0	0.0		40歳代	13,138	16.2	499	16.6	271	17.0
	50歳代	-	-	-	-	1	0.1		50歳代	15,771	19.5	604	20.1	337	21.1
	60歳代	-	-	-	-	0	0.0		60歳代	11,922	14.7	328	10.9	220	13.8
	70歳代	-	-	-	-	0	0.0		70歳代	12,760	15.8	335	11.2	244	15.3
	80歳以上	-	-	-	-	0	0.0		80歳以上	9,980	12.3	282	9.4	183	11.5
	無回答	-	-	-	-	0	0.0		無回答	-	-	-	-	7	0.4
	計	-	-	-	-	1	0.1		計	80,879	100.0	3,000	100.0	1,598	100.0

※ 「10 歳代」は、実際の人口から 10～17 歳を除いた数値。令和 5 年 3 月 31 日現在。

(5) 地区別回答状況

地区別の構成比について母集団と回答者の比率を比較すると、概ね実際の人口に近似した回答が得られている。

地区	母集団		回答者	
	実数	比率	実数	比率
奥池地区	1,172	1.4	27	1.7
山手小学校区（奥池地区除く）	15,966	19.7	307	19.2
岩園小学校区	10,974	13.6	250	15.6
朝日ヶ丘小学校区	7,798	9.6	157	9.8
精道小学校区	11,166	13.8	221	13.8
宮川小学校区	9,781	12.1	196	12.3
打出浜小学校区	8,234	10.2	144	9.0
浜風小学校区	6,201	7.7	129	8.1
潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	4,692	5.8	76	4.8
南芦屋浜地区	4,895	6.1	85	5.3
無回答	-	-	6	0.4
合計	80,879	100.0	1,598	100.0

※「母集団」は、各地区の実際の人口から0～17歳を除いた数値。令和5年3月31日現在。

(6) 回答方法別

回答方法別の構成比を比較すると、市全体では郵送が約60%、WEBが約40%となっている。

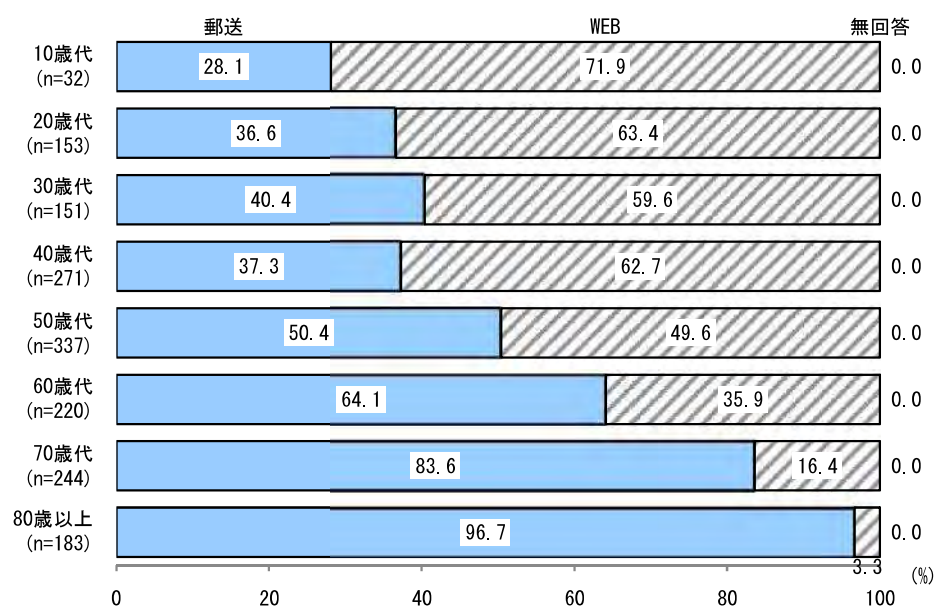
また、性別・年代別・地区別それぞれについて、属性別の合計を100としたときの回答方法別の比率を比較すると、年代別では、40歳以下において回答者のうちの約6割がWEB回答を行っており、年代が高い程、郵送回答が増える傾向がみられる。また、地区別では、浜風小学校区、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）以外の地区で40%以上がWEB回答を行っている。

	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
市全体	926	57.9	672	42.1	1,598	100.0

性別	郵送		WEB	
	実数	比率	実数	比率
男性	380	52.5	344	47.5
女性	536	62.7	319	37.3
1,2に当てはまらない	-	-	1	100.0
答えたくない	4	36.4	7	63.6
無回答	6	85.7	1	14.3

年代	郵送		WEB	
	実数	比率	実数	比率
10歳代	9	28.1	23	71.9
20歳代	56	36.6	97	63.4
30歳代	61	40.4	90	59.6
40歳代	101	37.3	170	62.7
50歳代	170	50.4	167	49.6
60歳代	141	64.1	79	35.9
70歳代	204	83.6	40	16.4
80歳以上	177	96.7	6	3.3
無回答	7	100.0	-	-

地区	郵送		WEB	
	実数	比率	実数	比率
奥池地区	14	51.9	13	48.1
山手小学校区（奥池地区除く）	173	56.4	134	43.6
岩園小学校区	148	59.2	102	40.8
朝日ヶ丘小学校区	87	55.4	70	44.6
精道小学校区	126	57.0	95	43.0
宮川小学校区	112	57.1	84	42.9
打出浜小学校区	84	58.3	60	41.7
浜風小学校区	80	62.0	49	38.0
潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	53	69.7	23	30.3
南芦屋浜地区	43	50.6	42	49.4
無回答	6	100.0	-	-



(7) 標本誤差について

○ 一般的に標本調査においては、信頼度 95% (※) のレベルでの結果を評価することが妥当とされており、信頼度 95%における標本誤差は次の式で算出される。今回調査の標本誤差については下表の通りとなっている。

○ 例えば回答者全体 (1,598 人) が回答している設問について、ある選択肢に回答した比率が 50%であった場合、回答比率の誤差範囲は±2.4% (47.6%～52.4%) の間にあることが推測できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

(※) 信頼度 95%：同一の調査を 100 回実施した場合、うち 95 回はこの誤差の範囲におさまるということ

N：母集団数 (令和 5 年 3 月 31 日時点の 18 歳以上の男女 80,879 人)

n：標本数

P：測定値 (回答の比率)

		母集団	n	p	5%または 95%	10%または 90%	15%または 85%	20%または 80%	25%または 75%	30%または 70%	35%または 65%	40%または 60%	45%または 55%	50%
回答者総数		80,879	1,598		±1.1%	±1.5%	±1.7%	±1.9%	±2.1%	±2.2%	±2.3%	±2.4%	±2.4%	±2.4%
性	男性	35,699	724		±1.6%	±2.2%	±2.6%	±2.9%	±3.1%	±3.3%	±3.4%	±3.5%	±3.6%	±3.6%
	女性	45,180	855		±1.4%	±2.0%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.0%	±3.2%	±3.3%	±3.3%	±3.3%
年 代 別	10歳代	1,814	32		±7.5%	±10.3%	±12.3%	±13.7%	±14.9%	±15.7%	±16.4%	±16.8%	±17.1%	±17.2%
	20歳代	7,373	153		±3.4%	±4.7%	±5.6%	±6.3%	±6.8%	±7.2%	±7.5%	±7.7%	±7.8%	±7.8%
	30歳代	8,121	151		±3.4%	±4.7%	±5.6%	±6.3%	±6.8%	±7.2%	±7.5%	±7.7%	±7.9%	±7.9%
	40歳代	13,138	271		±2.6%	±3.5%	±4.2%	±4.7%	±5.1%	±5.4%	±5.6%	±5.8%	±5.9%	±5.9%
	50歳代	15,771	337		±2.3%	±3.2%	±3.8%	±4.2%	±4.6%	±4.8%	±5.0%	±5.2%	±5.3%	±5.3%
	60歳代	11,922	220		±2.9%	±3.9%	±4.7%	±5.2%	±5.7%	±6.0%	±6.2%	±6.4%	±6.5%	±6.5%
	70歳代	12,760	224		±2.8%	±3.9%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.9%	±6.2%	±6.4%	±6.5%	±6.5%
地 区 別	80歳以上	9,980	183		±3.1%	±4.3%	±5.1%	±5.7%	±6.2%	±6.6%	±6.8%	±7.0%	±7.1%	±7.2%
	奥池地区	1,172	27		±8.1%	±11.2%	±13.3%	±14.9%	±16.2%	±17.1%	±17.8%	±18.3%	±18.6%	±18.6%
	山手小学校区	15,966	307		±2.4%	±3.3%	±4.0%	±4.4%	±4.8%	±5.1%	±5.3%	±5.4%	±5.5%	±5.5%
	岩園小学校区	10,974	250		±2.7%	±3.7%	±4.4%	±4.9%	±5.3%	±5.6%	±5.8%	±6.0%	±6.1%	±6.1%
	朝日ヶ丘小学校区	7,798	157		±3.4%	±4.6%	±5.5%	±6.2%	±6.7%	±7.1%	±7.4%	±7.6%	±7.7%	±7.7%
	精道小学校区	11,166	221		±2.8%	±3.9%	±4.7%	±5.2%	±5.7%	±6.0%	±6.2%	±6.4%	±6.5%	±6.5%
	宮川小学校区	9,781	196		±3.0%	±4.2%	±4.9%	±5.5%	±6.0%	±6.4%	±6.6%	±6.8%	±6.9%	±6.9%
	打出浜小学校区	8,234	144		±3.5%	±4.9%	±5.8%	±6.5%	±7.0%	±7.4%	±7.7%	±7.9%	±8.1%	±8.1%
	浜風小学校区	6,201	129		±3.7%	±5.1%	±6.1%	±6.8%	±7.4%	±7.8%	±8.1%	±8.4%	±8.5%	±8.5%
	潮見小学校区	4,692	76		±4.9%	±6.7%	±8.0%	±8.9%	±9.7%	±10.2%	±10.6%	±10.9%	±11.1%	±11.2%
	南芦屋浜地区	4,895	85		±4.6%	±6.3%	±7.5%	±8.4%	±9.1%	±9.7%	±10.1%	±10.3%	±10.5%	±10.5%

(8) 分析についての注意点

- 集計・分析においては、実数とともに、特記しない限り有効回答数（n=1,598）を母数とした出現率（％）を算出している。
- 比率の合計は、小数点第二位を四捨五入している関係から、内訳の合計と一致しない場合がある。
- 「2つ以上を選択」の複数回答設問については、回答者数を母数として出現率を算出しているため、出現率の合計が100％を超える場合がある。
- 属性別のクロス集計のうち、年代別の「10歳代」（32件）、地区別の「奥池地区」（27件）については回答者数が少なく、前項の通り誤差が大きくなっていることから結果の利用には注意が必要である。
- 報告書における「前回調査」は、令和2年7月に実施した市民アンケートを指す。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 表については、属性別のうち上位3位まで順に丸数字を振っている。また、分析のコメントを記載している箇所には色付けをしている。

2 結果の要約

(1) お住まいの地域での生活や住みやすさ

- 定住意向については、全体で「今の場所に住み続けたい」が7割を超えているものの、10歳代から30歳代では6割未満と、若い世代で定住意向が薄い傾向がみられる。
- 地域活動・行事への『参加している』（「よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）」＋「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」）割合については、全体で3割を超えているが、奥池地区、浜風小学校区、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）、南芦屋浜地区で4割を超え、高い傾向がみられる。
- 子どもと接する機会については、全体で「あいさつをすることがある」が4割を超え最も高いものの、20歳代では「全くない」が6割近くを占め、若い世代における地域とのつながりの希薄化が推察される。
- 家族以外での困りごとの相談相手・場所の有無については、男性で「ない」が3割を超え女性（22.1%）より高くなっていることから、男性が相談しやすい環境づくりが求められる。
- まちなみやまちなかの緑の景観については、全体で『良い』（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が9割を超え、高い評価となっている。
- まちなかの緑を育てたり維持する活動への参加については、全体で『年1回以上』（「月1回以上」＋「年数回程度」＋「年1回程度」）の割合が2割未満であるものの、60歳以上で2割を超え、比較的高齢の世代での参加率が高い傾向がみられる。
- 市内公園の利用頻度については、全体で「月1回以上」が3割未満となっているものの、子育て世帯が多いと推察される30歳代と40歳代で「月1回以上」が3割を超え、他の年代より高くなっている。
- 自然災害に対する日頃の備えについては、年代が高い程「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が高くなる傾向がみられ、60歳以上で8割以上の方が読んだことがあると回答している。また、女性で7割を超え男性（68.1%）より高くなっていることから、男性の行動促進に向けた周知が求められる。
- 地球温暖化防止に向けた取組については、全体で「買い物には、マイバックを持っていく」が9割近くを占め最も高く、女性は94.7%と男性（84.4%）より高くなっている。
- 市内での移動の利便性については、全体で『便利』（「便利」＋「どちらかというと便利」）が7割を超えている一方で、奥池地区・芦屋浜地区で『不便』（「どちらかというと不便」＋「不便」）が5割を超えており、市内中心部から遠い程、不便と感じる傾向がみられている。
- 生活用品の購入場所については、全体で食料品・日用品・医薬品で「主に市内」が6割を超える一方で、衣料品は「主に市外」が6割を超えており、市内における衣料品関連の商業施設が少ないことが要因の1つと推察される。
- 夫婦の役割分担については、全般的に「同程度・適宜分担」を理想とする割合が高いものの、現実では生活費は男性、家事・育児・子育てについては女性が主に負担している傾向がみられる。
- 市役所の手続の利便性については、20歳代と30歳代で『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」＋「利用しにくい」）が『利用しやすい』（「利用しやすい」＋「どちらかといえば利用しやすい」）を上回っている。職業別では、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員で『利用しにくい』が4割を超えており、仕事により平日に手続をしづらいことが要因の1つであると推察される。

(2) 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況など

- まちづくりへの評価では、全体で「㊦ 住宅都市の魅力」、「㊧ 良好な生活環境と魅力的な暮らし」、「㊨ 持続可能なインフラ整備」、「㊩ 日常の安全安心」などで肯定的意見（「満足」+「やや満足」）が高く、住宅環境としての評価の高さが読み取れる。一方で、全ての項目で前回調査時より肯定的意見が減少している。

【満足度上位5項目】

- ㊦ 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている
 - ㊧ 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている
 - ㊨ 持続可能なインフラ整備が進んでいる
 - ㊩ 日常の安全安心が確保されている
 - ㊪ 生涯を通じた学びの文化が醸成されている
- 一方で、「㊫ 人口減少社会に対応した行財政運営」、「㊬ 社会変化に対応できる組織」で否定的意見（「やや不満」+「不満」）が4割を超えており、少子高齢化・人口減少等の社会変化への対応力、今後を見据えた持続可能な行政運営への評価がやや低いことが読み取れる。
 - 「㊭ 災害に強いまちづくり」、「㊮ 人口減少社会に対応した行財政運営」の2項目は満足度が低く、重要度が高い結果となっている。㊭としては、主に防災対策の充実、啓発・広報の充実が、また、㊮としては、主に子育て世帯を含む若年層への支援が求められており、今後、重点的な取組が求められる項目となっている。
 - 芦屋市の現状については、10歳代、20歳代、80歳以上で『うまくいっている』（「とてもうまくいっている」+「どちらかといえばうまくいっている」）が6割を超え高いものの、30歳代で『うまくいっていない』（「どちらかといえばうまくいっていない」+「うまくいっていない」）が5割を超えており、年代別で評価に差がみられる結果となっている。
 - 力を入れて取り組むべき施策目標については、全体で「㊯ 誰もが安心して産み育てられる環境が充実している」が最も高く、特に10歳代から40歳代で3割を超えており、ニーズの高さがうかがえる結果となっている。

(3) 市民マナー条例

- 市民マナー条例の認知度については、全体で6割近くの人が内容まで知っているという一方で、概ね年代が若くなる程「聞いたこともなかった」が高くなる傾向がみられる。
- 芦屋市のまちは清潔で快適だと思うかについては、全体で『思う』（「大いに思う」+「どちらかといえば思う」）が9割近くを占め高い評価となっている。
- マナー向上のために市が特に取り組むべきことについては、全体で「子ども・地域・家庭へのマナー教育の実施」が最も高くなっている。

(4) 文化的なふれあいや学び

- 市内の文化的資源の認知度、利用・見学状況については、年代が高い程、認知度、利用・見学経験が高くなる傾向がみられる。
- 過去1年間での文化的活動の有無については、全体で5割近くの人が「鑑賞・活動を行った」と回答しており、特に女性で高い傾向がみられる。
- 自分の学びのための学習会・セミナーへの参加頻度については、全体で「年1回未満」と回答した人が5割を超えており、特に30歳以下の年代で6割を超えている。
- 「広報あしや」の満足度については、全体で『満足している』（「満足している」＋「やや満足している」）と回答した人が5割を超えており、特に女性で6割を超えている。
- 「広報あしや」について『不満』（「やや不満」＋「不満」）と回答した人に不満な理由を尋ねたところ、全体で「知りたい情報が掲載されていない」が最も高く、特に40歳代で6割を超え高くなっている。
- 「市のホームページ」の満足度については、全体で「見たことがない」が25.1%と、4人に1人は閲覧したことがない結果となっており、特に20歳以下では3割を超え、年代によって差がみられる結果となっている。また、80歳以上では「インターネットを接続する環境がない」が1割を超えており、年代によって情報の取得方法が異なることが年代による満足度の差の要因の1つであることが推察される。
- 「市のホームページ」について『不満』（「やや不満」＋「不満」）と回答した人に不満な理由を尋ねたところ、全体で「情報が探しにくい、読みにくい」が最も高くなっている。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス感染症による困りごと・不安なことについては、20歳代を除く全ての年代で「行動緩和による感染の拡大」が高いものの、40歳代で「子どもの学習機会の確保・学力低下」、70歳以上で「オンラインサービスや電子決済の普及等の急速なデジタル化についていけない」がそれぞれ高くなっており、年代ごとに困りごとの内容に差がみられる結果となっている。
- 感染拡大を判断する際に重視することについては、全体で「新規感染者数の推移」が最も高いものの、70歳以上では「芦屋市の対策内容や呼びかけ」が4割を超え高くなっており、市の情報発信へのニーズもより重視している結果となっている。
- 市に対して重点的に取り組んでほしい施策については、全体で「安定した医療体制の確保」が最も高いものの、10歳代で「スポーツや文化活動の機会の充実」、20歳代で「行政手続のオンライン化の推進」、30歳代と40歳代で「学校教育の学習支援の充実」、10歳代から40歳代で「子育て支援の充実」が高くなっており、主に若い世代でポストコロナに向けた取組や子育て支援でのニーズが高い傾向がみられる。一方で、50歳以上では「感染対策に関する明確な情報発信」、60歳以上で「高齢者・障がいのある人の生活支援の充実」がそれぞれ3割を超えており、高齢の世代になる程、感染対策を意識した生活支援のニーズの高まりがうかがえる。

(6) 自由記述

- 自由意見については、「まちづくり全体について」に関するご意見が最も多く、「㊦ 日常の安全安心」、「㊦ 良好な生活環境と魅力的な暮らし」、「㊦ 心地よく暮らせるまちづくり」、「㊦ 安心して産み育てられる環境」の順に続いている。

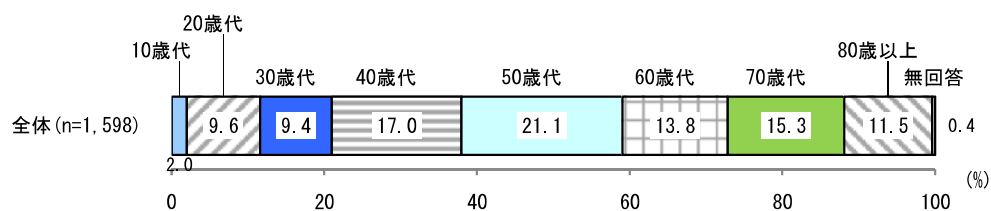
3 アンケート調査結果

I. あなた(回答者)ご自身についておたずねします。

問1 年齢

問1 あなたの年齢（令和5年4月1日現在）は、以下のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「50歳代」が21.1%で最も高く、「40歳代」が17.0%、「70歳代」が15.3%と続いている。



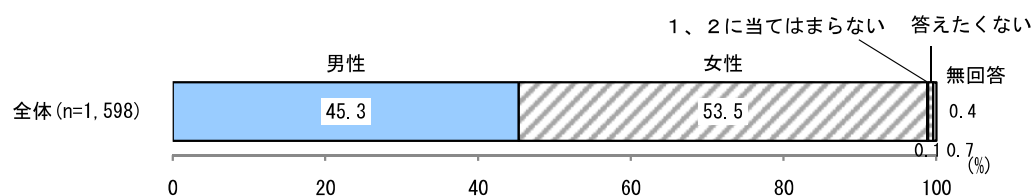
地区別では、朝日ヶ丘小学校区、打出浜小学校区は30歳以下の合計が25.0%以上、奥池地区、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）は、70歳以上が40.0%以上となっている。



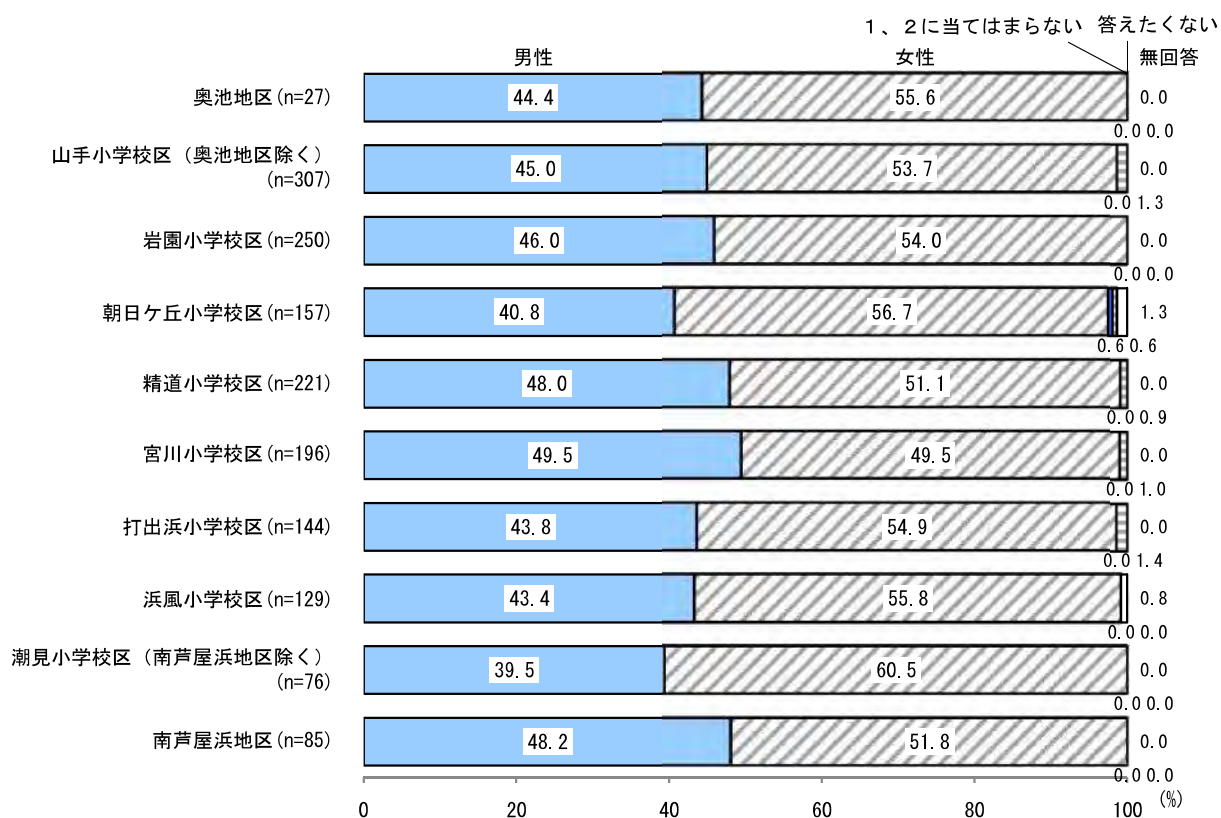
問2 性別

問2 あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「男性」が45.3%、「女性」が53.5%、「1、2に当てはまらない」が0.1%、「答えたくない」が0.7%となっている。



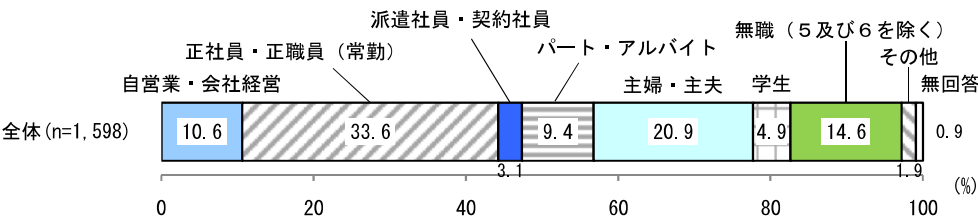
地区別では、「男性」は宮川小学校区で、「女性」は潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で最も高くなっている。



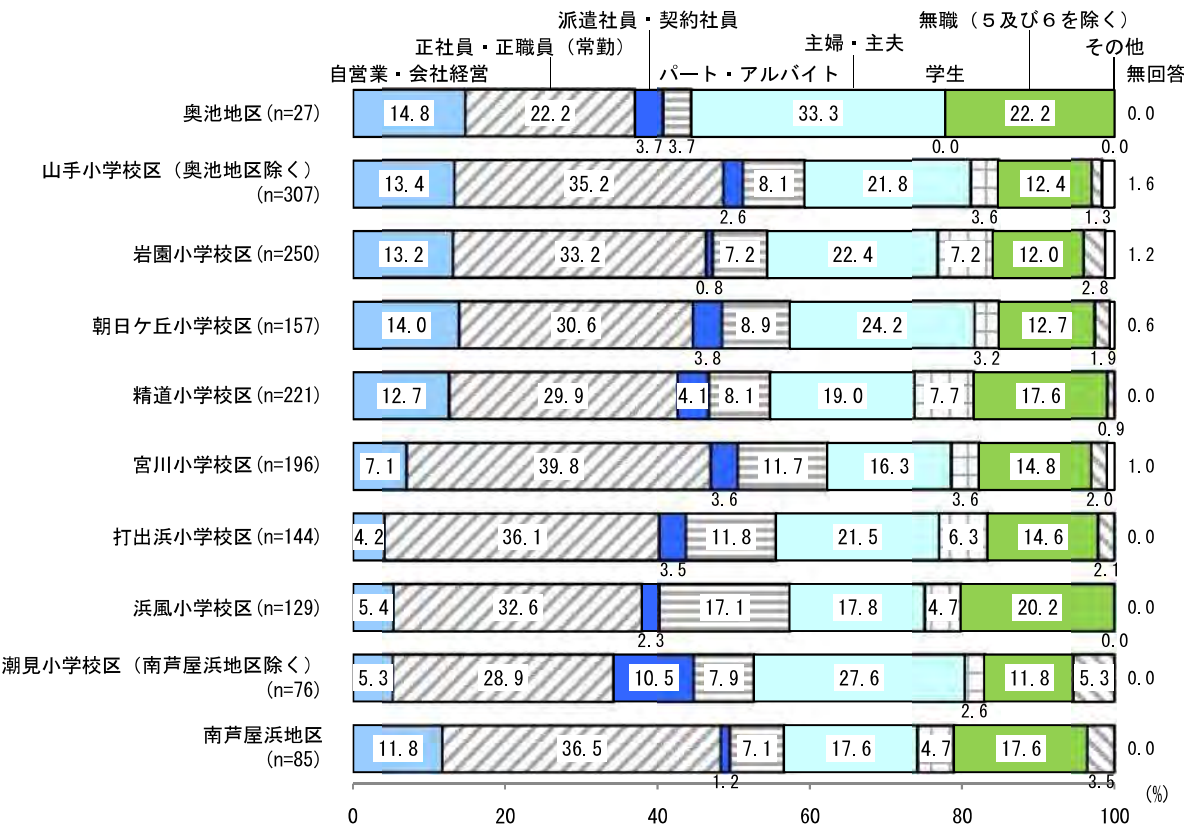
問3 職業

問3 あなたの主な職業等は何ですか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「正社員・正職員（常勤）」が33.6%で最も高く、「主婦・主夫」が20.9%、「無職（5及び6を除く）」が14.6%と続いている。



地区別では、奥池地区を除く全ての地区で「正社員・正職員（常勤）」が最も高くなっている。



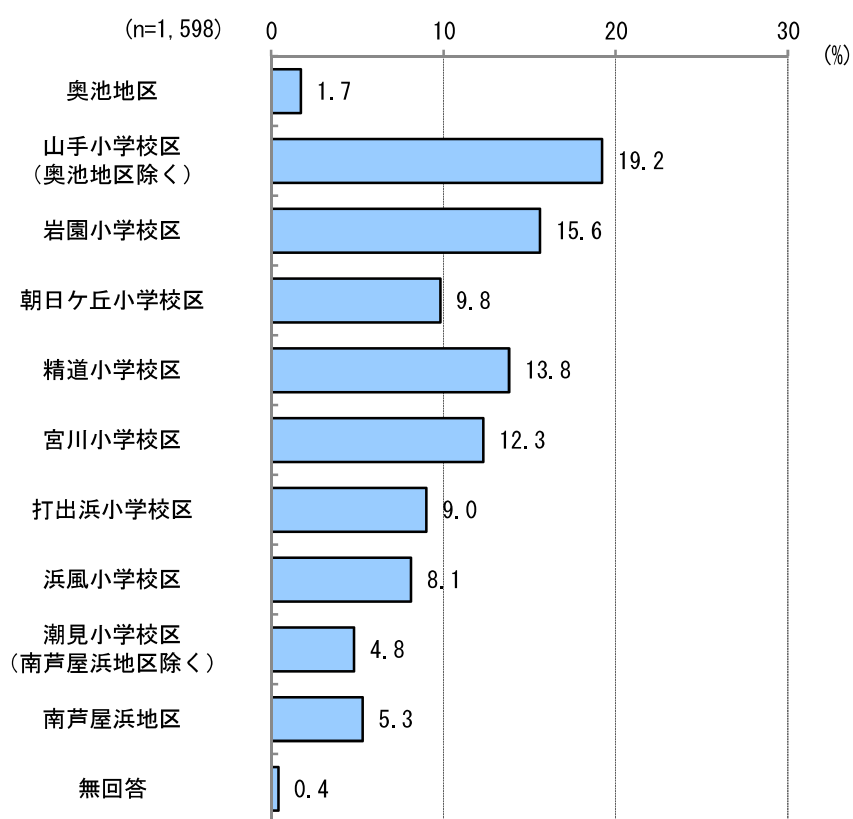
職業について「7.その他」延べ23件には、主に次のような回答がありました。

意見分類		延べ件数
職業について		23
	役員	5
	講師	4
	医師	3
	その他意見	11

問4 居住地区

問4 あなたは、現在、どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。

全体では、「山手小学校区（奥池地区除く）」が19.2%で最も高く、「岩園小学校区」が15.6%、「精道小学校区」が13.8%と続いている。

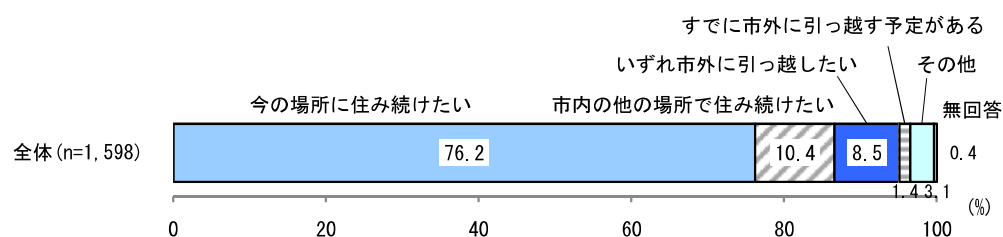


Ⅱ. お住まいの地域での生活や住みやすさについておたずねします。

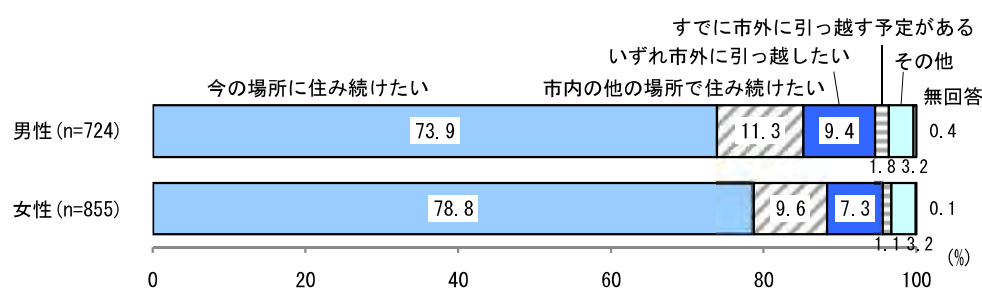
問5 定住意向

問5 あなたは、（転勤等による移転予定の有無に関わらず）今のお住まいにずっと住んでいたいと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

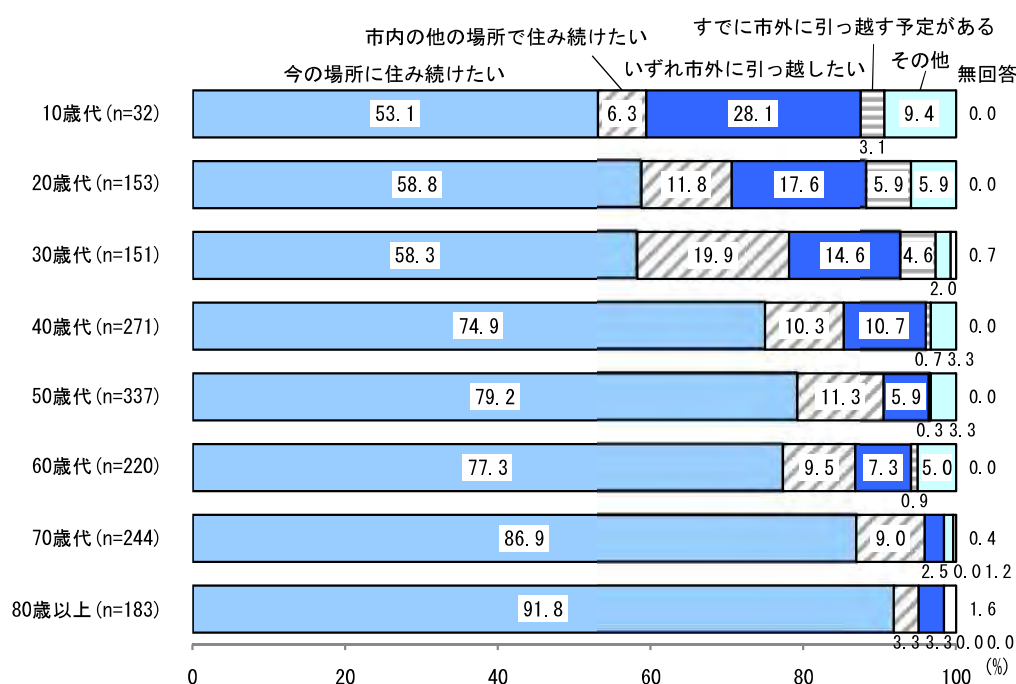
全体では、「今の場所に住み続けたい」が76.2%で最も高く、「市内の他の場所で住み続けたい」が10.4%、「いずれ市外に引っ越したい」が8.5%と続いている。



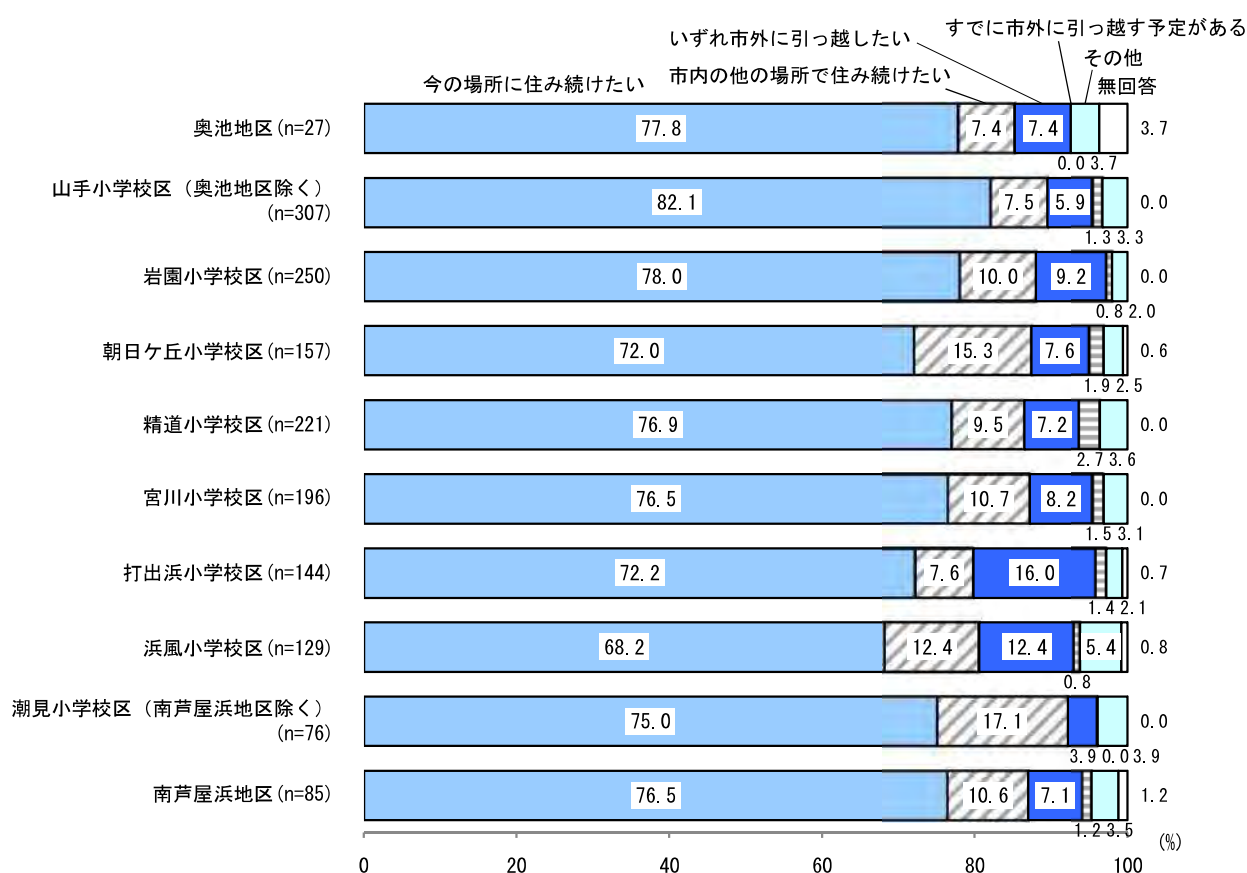
性別で大きな差はみられない。



年代別では、概ね年代が高い程「今の場所に住み続けたい」が高くなる傾向がみられ、70歳以上で8割を超えている。一方で、10歳代から30歳代では6割未満となっている。



地区別では、山手小学校区（奥池地区除く）で「今の場所に住み続けたい」が8割を超え最も高くなっている。また、『転出意向』（「いずれ市外に引っ越したい」＋「すでに市外に引っ越す予定がある」）は打出浜小学校区で17.4%と最も高くなっている。



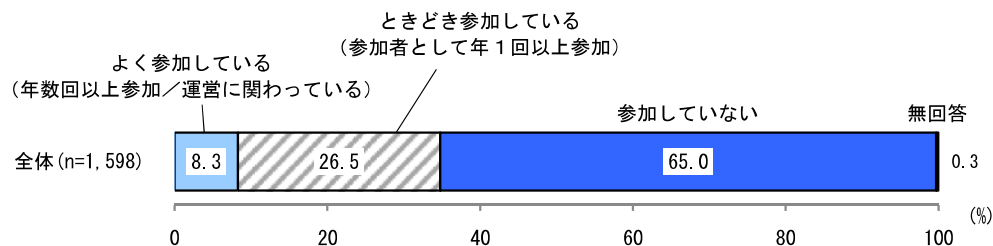
定住意向について「5.その他」延べ45件には、主に次のような回答がありました。

意見分類		延べ件数
定住意向について		45
	自身の事情による	11
	未定・わからない	9
	引越しを検討・迷っている	5
	その他意見	20

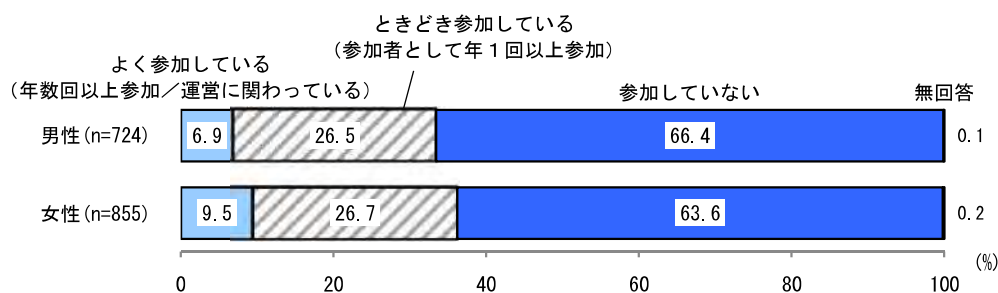
問6 地域の活動や行事への参加状況

問6 あなたは、地域の活動や行事に参加していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

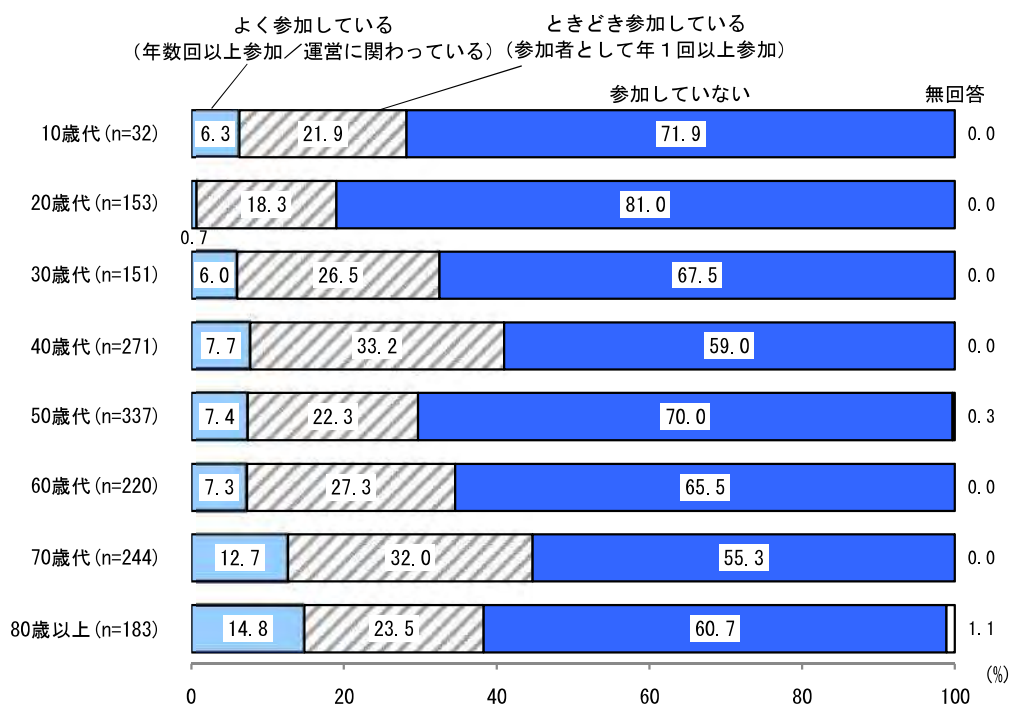
全体では、「参加していない」が65.0%で最も高く、「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」が26.5%、「よく参加している（年数回以上参加/運営に関わっている）」が8.3%と続いている。『参加している』（「よく参加している（年数回以上参加/運営に関わっている）」+「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」）は34.8%と3割を超えている。



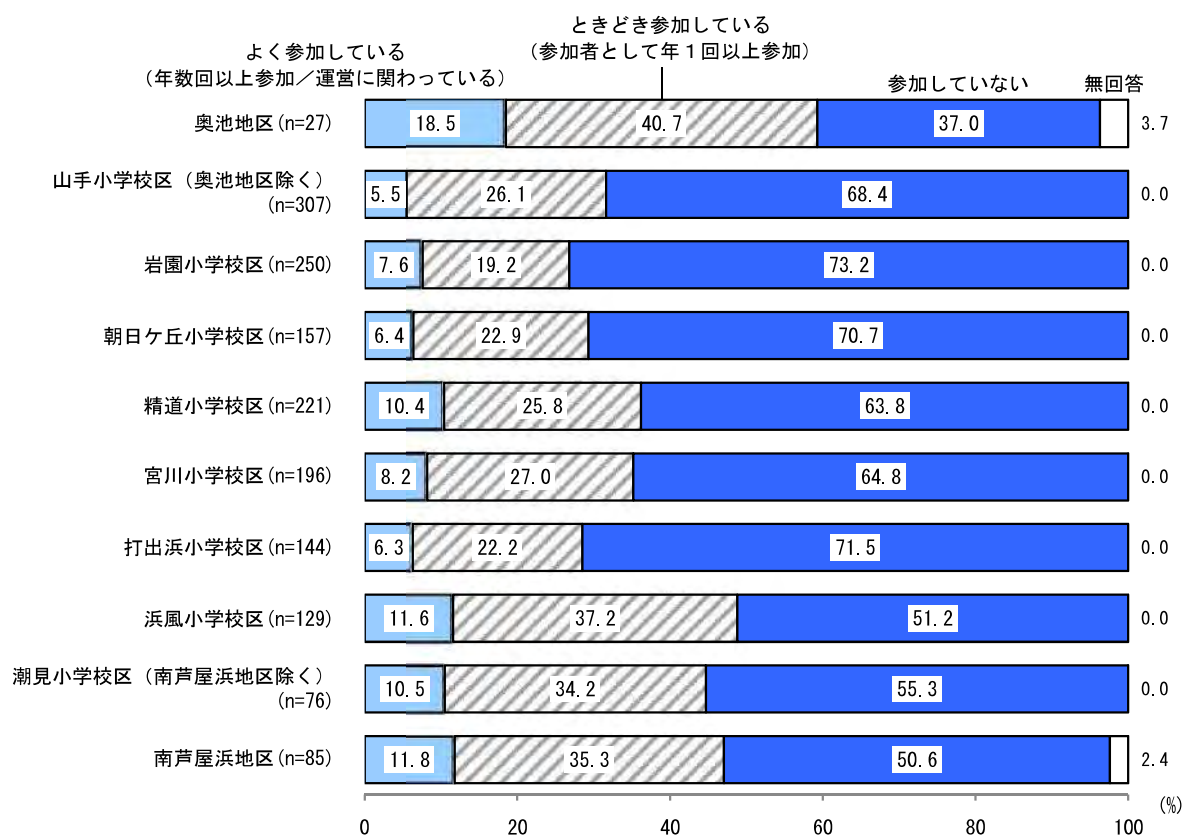
性別で大きな差はみられない。



年代別では、『参加している』（「よく参加している（年数回以上参加/運営に関わっている）」+「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」）が40歳代と70歳代で4割を超えている。また、「参加していない」は20歳代で全体より16.0ポイント高くなっている。



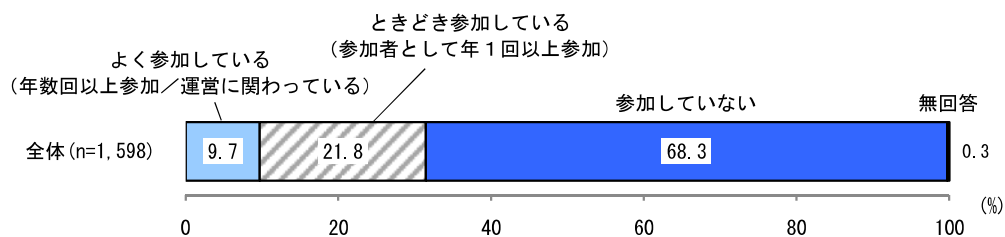
地区別では、『参加している』（「よく参加している（年数回以上参加/運営に関わっている）」+「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」）割合は奥池地区、浜風小学校区、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）、南芦屋浜地区で4割を超えている。一方で、岩園小学校区、朝日ヶ丘小学校区、打出浜小学校区で「参加していない」が7割を超えている。



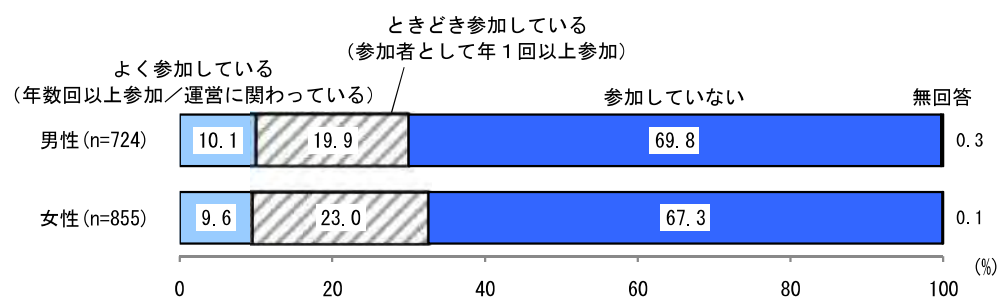
問7 地域外の活動や行事への参加状況

問7 あなたは、居住する地域にとらわれない活動や行事に参加していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

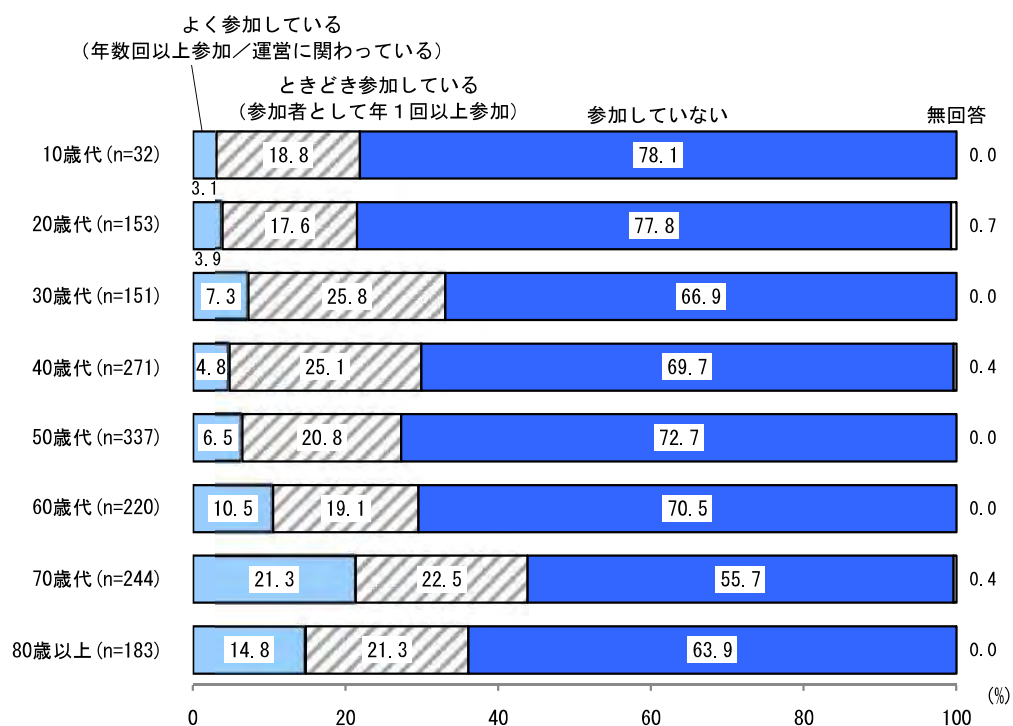
全体では、「参加していない」が68.3%で最も高く、「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」が21.8%、「よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）」が9.7%と続いている。



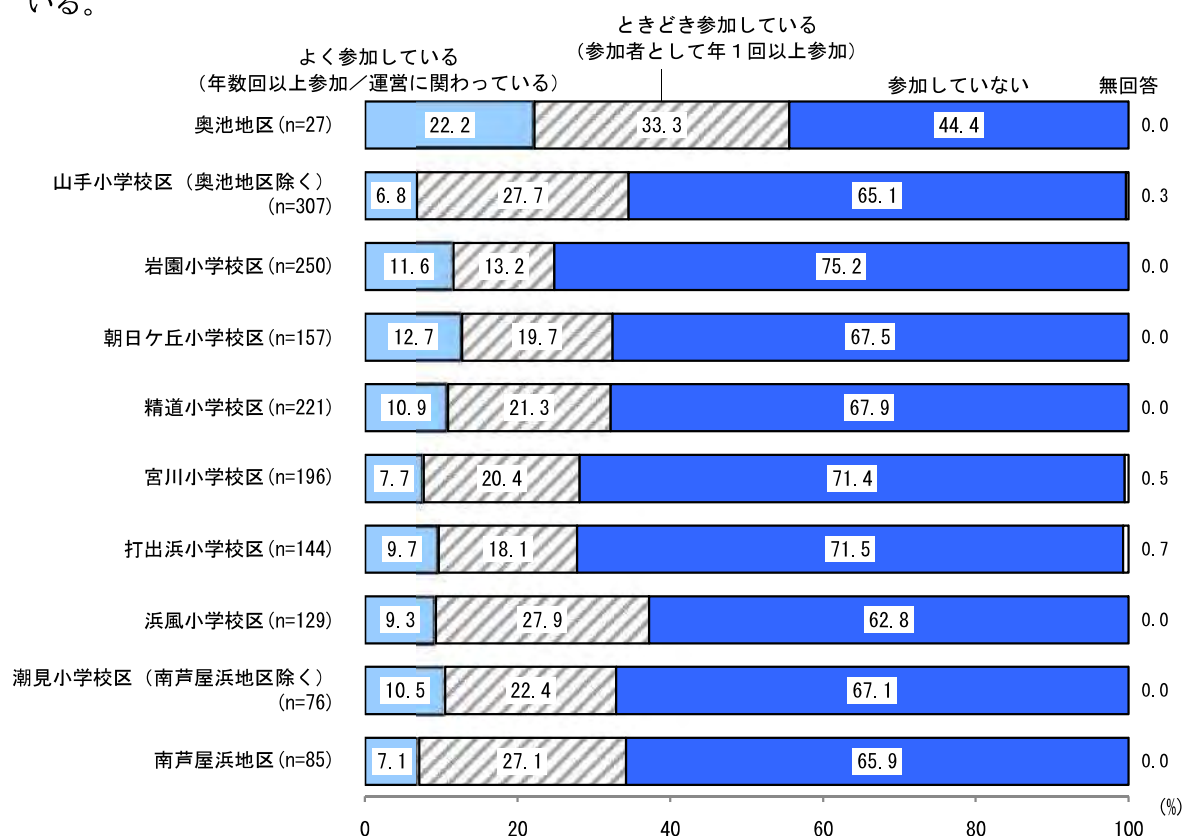
性別で大きな差はみられない。



年代別では、『参加している』（「よく参加している（年数回以上参加/運営に関わっている）」+「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」）割合は70歳代で43.8%と全体より12.3ポイント高くなっている。



地区別では、『参加している』（「よく参加している（年数回以上参加/運営に関わっている）」+「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）」）割合が奥池地区で55.5%と5割を超えている。一方で、岩園小学校区、宮川小学校区、打出浜小学校区で「参加していない」が7割を超えている。

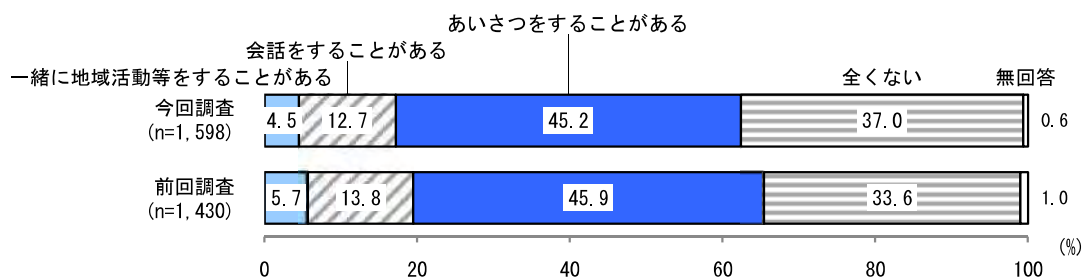


問8 日常的に子どもと接する機会の有無

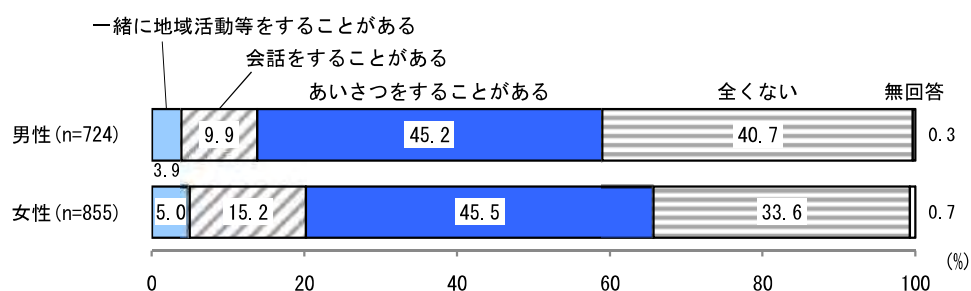
問8 あなたは、日常的に近所の子どもと接する機会がありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「あいさつすることがある」が45.2%で最も高く、「全くない」が37.0%、「会話をすることがある」が12.7%と続いている。

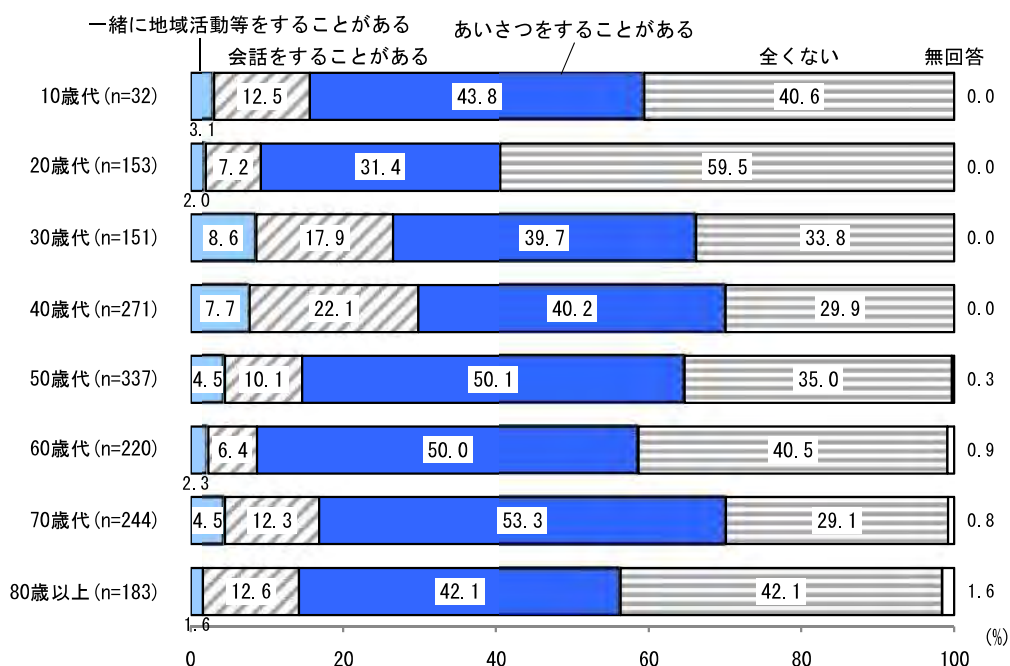
前回調査から大きな差はみられない。



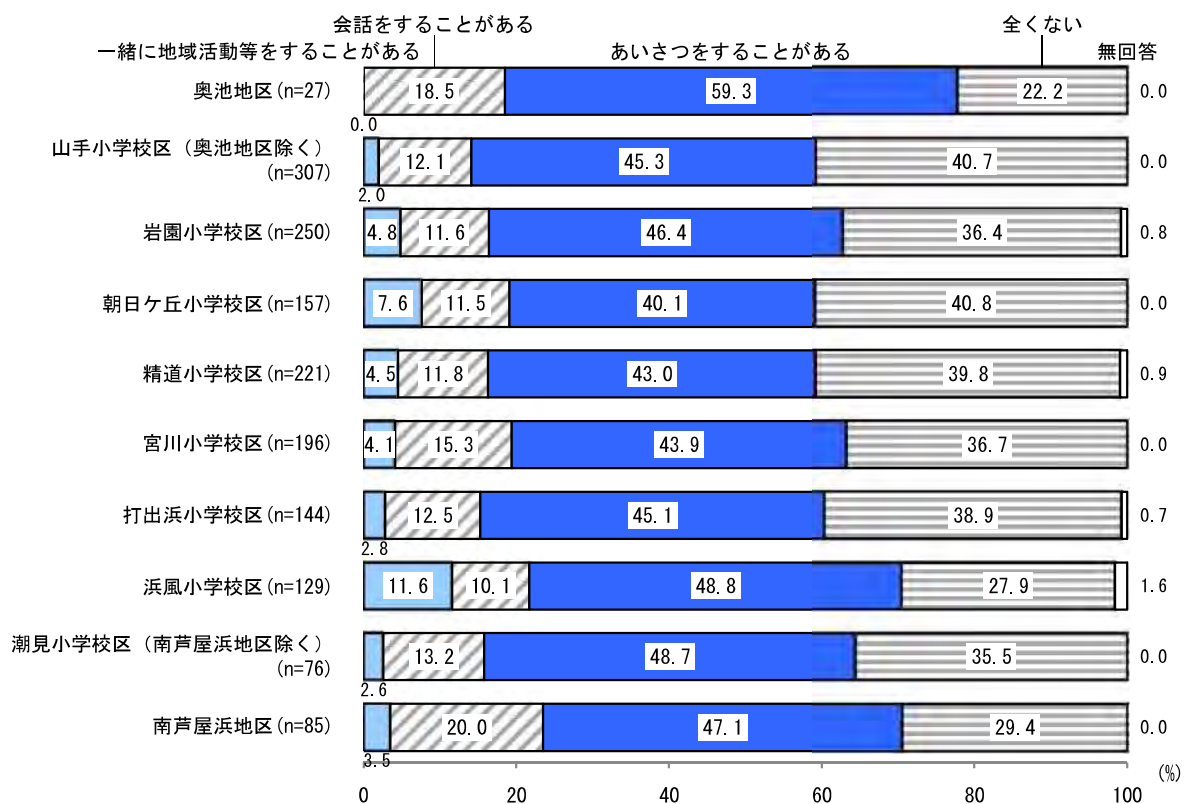
性別では、男性で「全くない」が40.7%と女性より7.1ポイント高くなっている。



年代別では、20歳代で「全くない」が59.5%と6割近くを占め、全体より22.5ポイント高くなっている。



地区別では、子どもと接する機会が『ある』（「一緒に地域活動等をするところがある」＋「会話をすることがある」＋「あいさつをすることがある」）割合が奥池地区、浜風小学校区、南芦屋浜地区で7割を超えている。

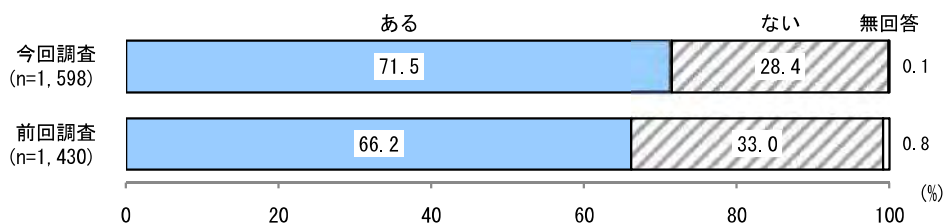


問9 家族以外での困りごとの相談相手・場所の有無

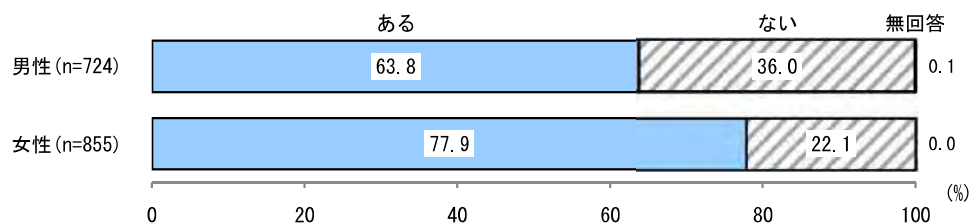
問9 あなたは、家族や親族以外で、日々の生活の中で困りごとが発生したときに相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所がありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「ある」が71.5%、「ない」が28.4%となっている。

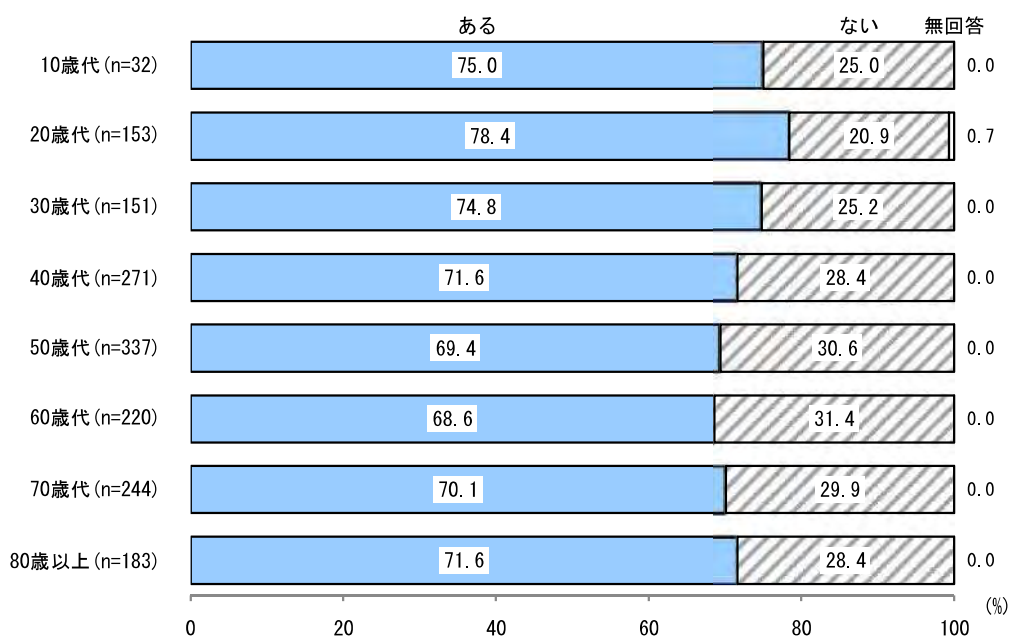
前回調査と比較すると、「ある」が前回調査より5.3ポイント増加している。



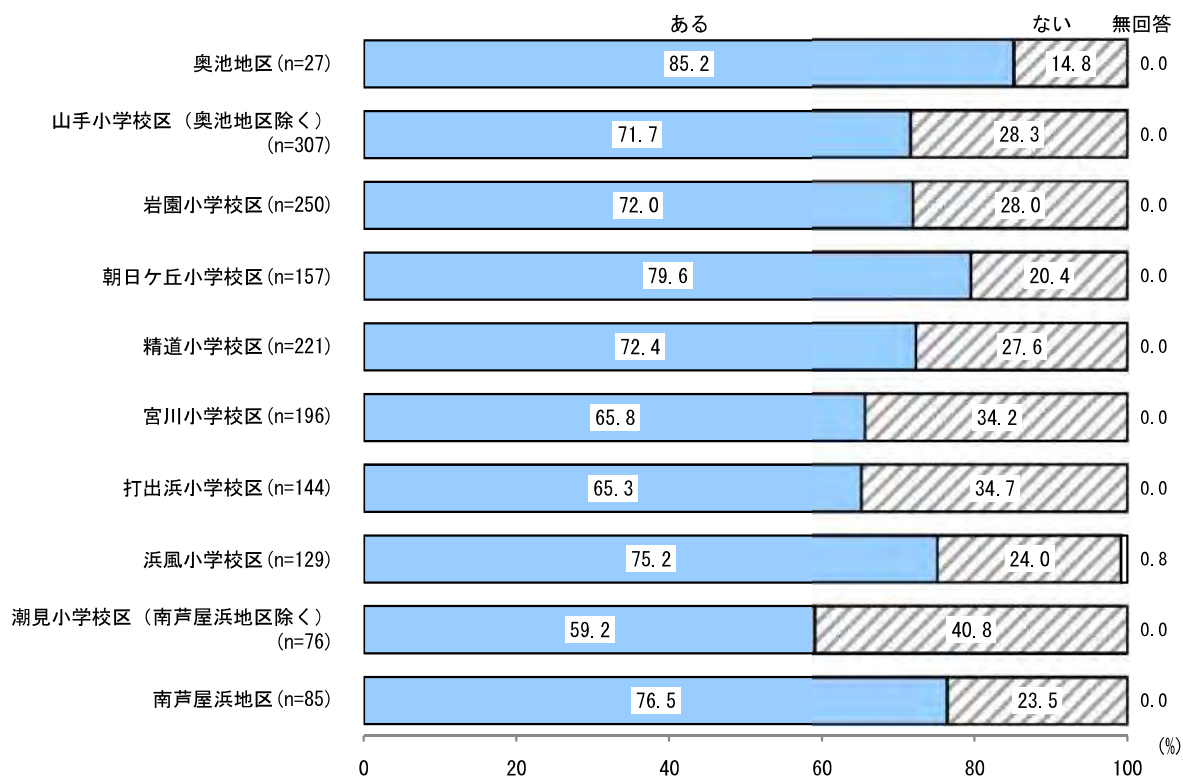
性別では、男性で「ない」が36.0%と女性より13.9ポイント高くなっている。



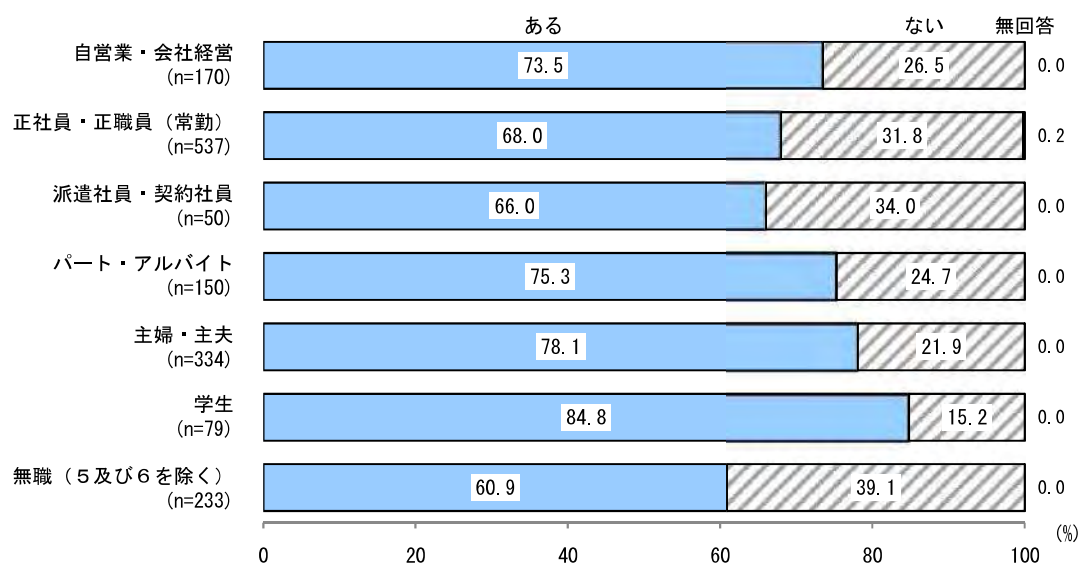
年代別では、20歳代で「ある」が78.4%と最も高くなっている。



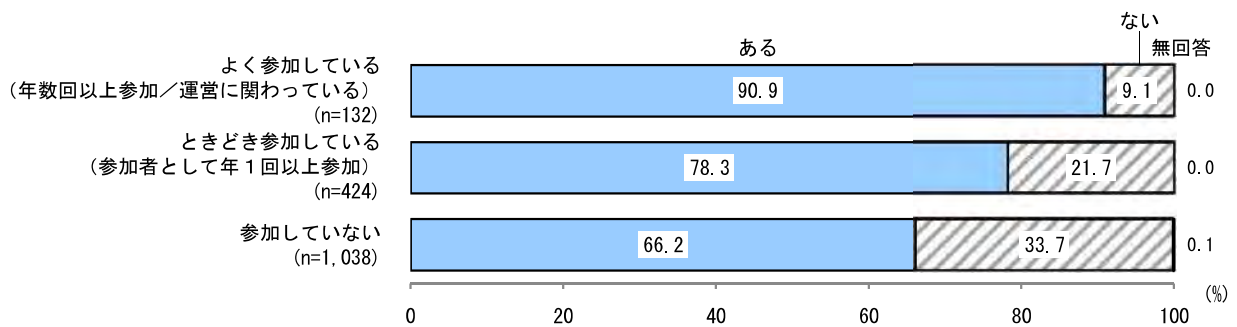
地区別では、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で「ない」が全体より 12.4 ポイント高くなっている。



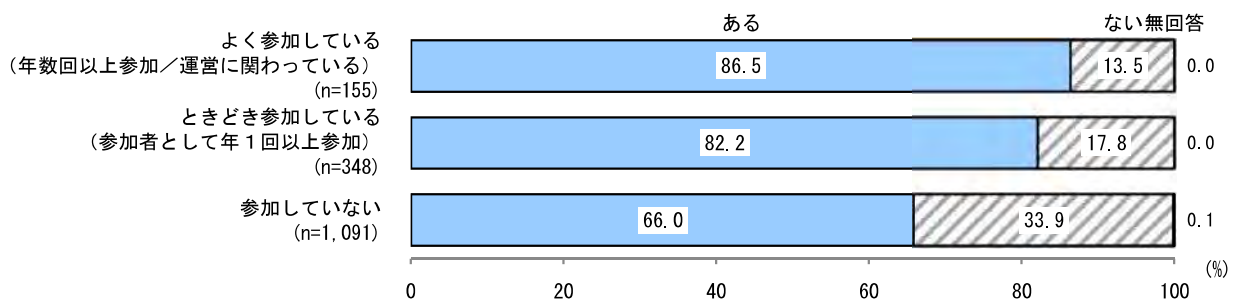
職業別では、主婦・主夫、学生で「ある」が全体より 5 ポイント以上高くなっている一方で、無職（５及び６を除く）で 60.9%と全体より 10.6 ポイント低くなっている。



地域活動・行事への参加頻度別では、参加頻度が高くなる程「ある」が高くなる傾向がみられ、よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）人では 90.9%となっている。



居住地域外の地域活動・行事への参加頻度別では、参加頻度が高くなる程「ある」が高くなる傾向がみられ、よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）人では 86.5%となっている。

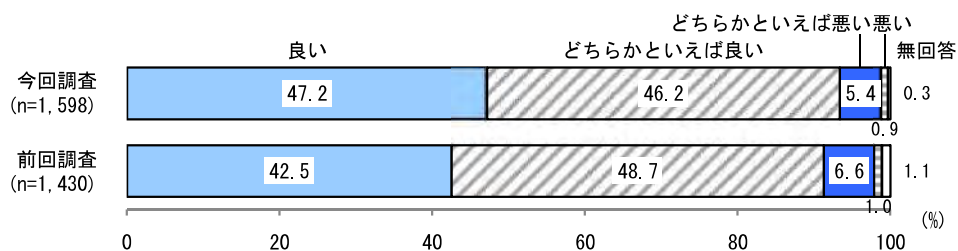


問 10 まちの緑の景観評価

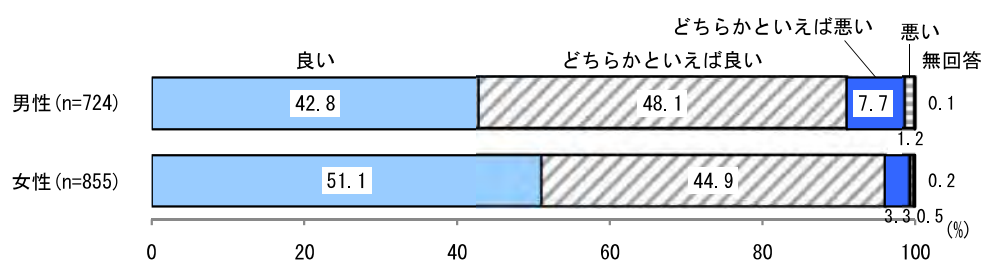
問 10 あなたは、お住まいの地域のまちなみやまちなかの緑の景観について、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「良い」が47.2%で最も高く、「どちらかといえば良い」が46.2%、「どちらかといえば悪い」が5.4%と続いている。『良い』（「良い」＋「どちらかといえば良い」）は93.4%と9割を超えている。

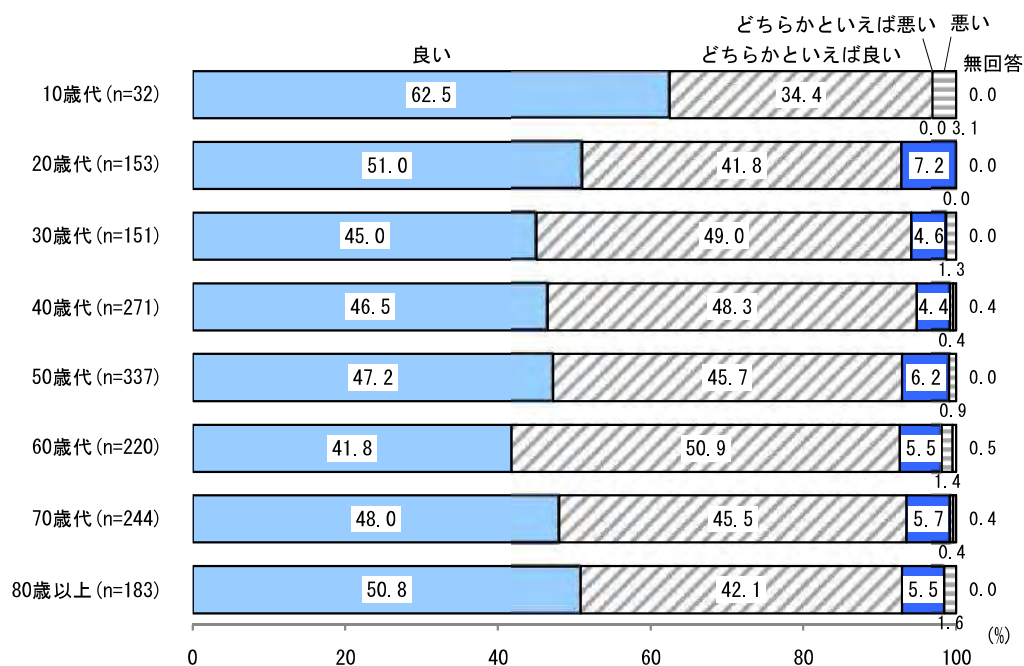
前回調査から大きな差はみられない。



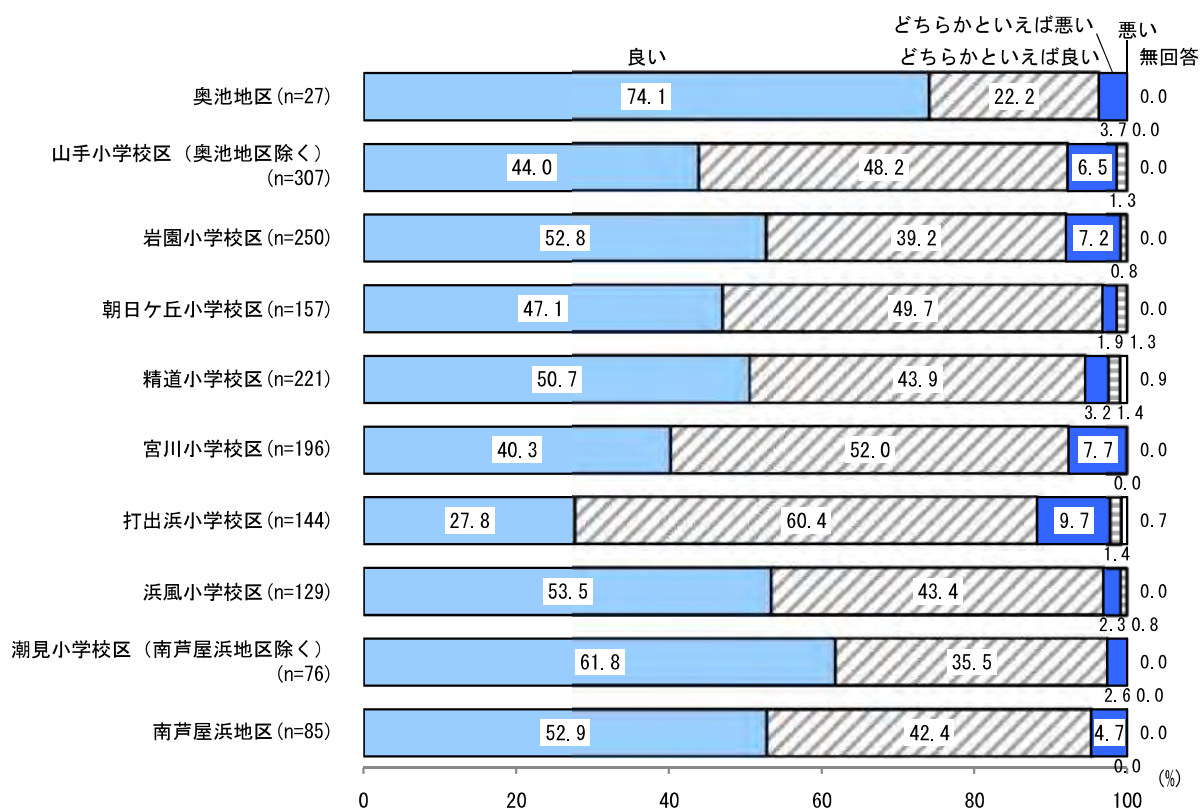
性別では、女性で「良い」が51.1%と男性より8.3ポイント高くなっている。



年代別では、10 歳代で「良い」が 62.5%と全体より 15.3 ポイント高くなっている。



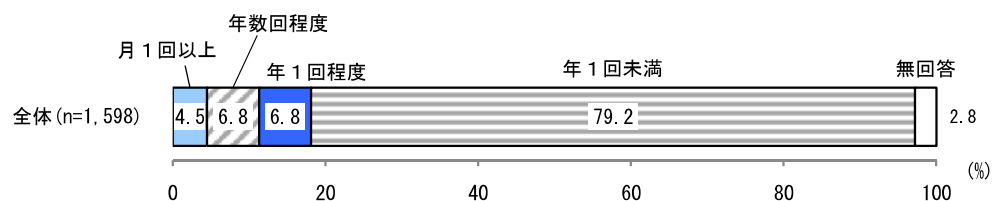
地区別では、打出浜小学校区で『悪い』（「どちらかといえば悪い」＋「悪い」）の割合が 11.1%と 1 割を超えている。



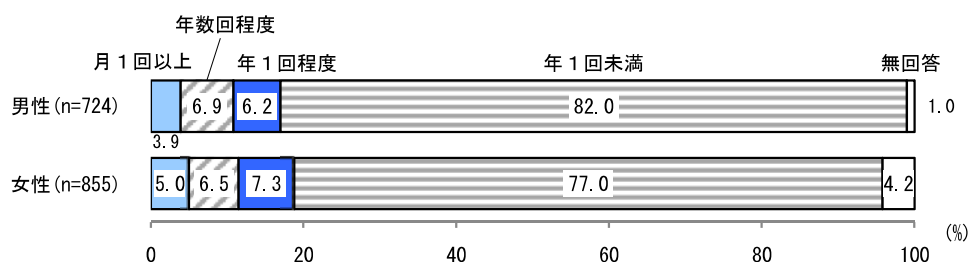
問 1 1 まちの緑の景観を育成・維持する活動への参加頻度

問 1 1 あなたは、まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動（植物の育成や管理、清掃など緑化・保全に関する活動）にどれくらいの頻度で参加していますか。次の中から 1 つだけ選んで、数字に○をつけてください。

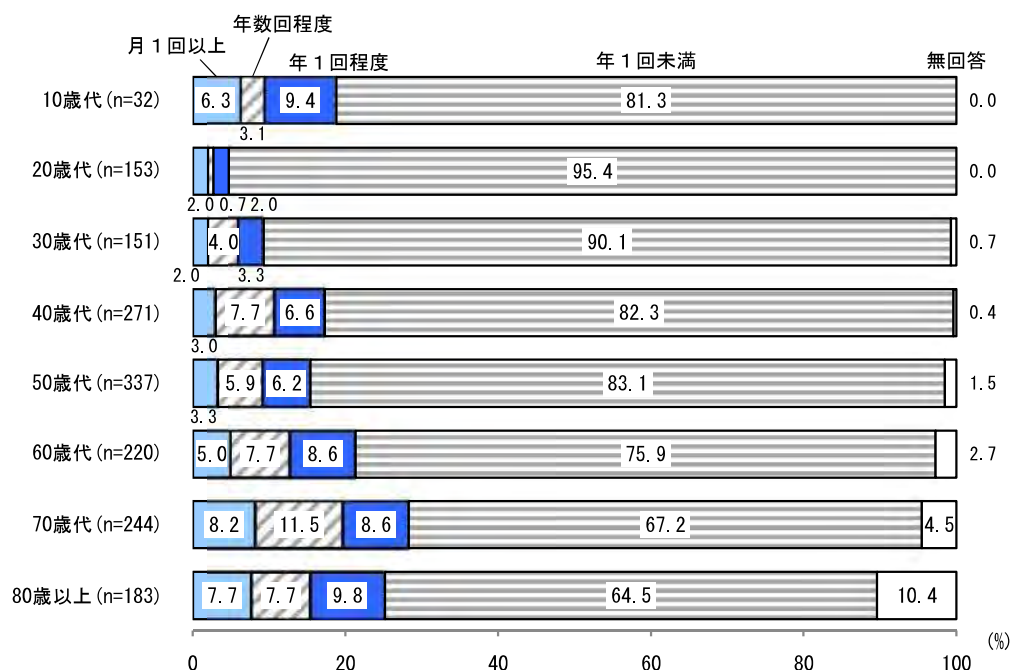
全体では、「年 1 回未満」が 79.2%で最も高く、「年数回程度」と「年 1 回程度」が 6.8%、「月 1 回以上」が 4.5%と続いている。『年 1 回以上』（「月 1 回以上」+「年数回程度」+「年 1 回程度」）の割合は 18.1%と 2 割未満となっている。



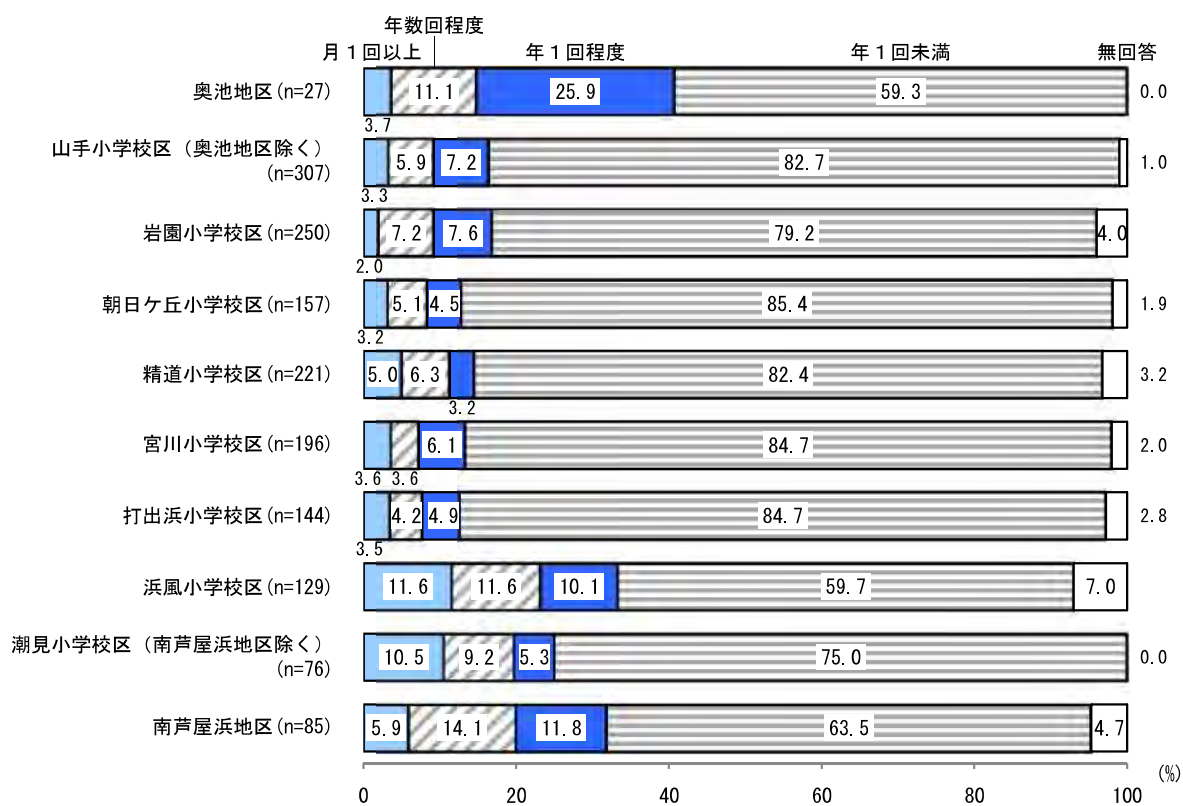
性別で大きな差はみられない。



年代別では、参加頻度が『年 1 回以上』（「月 1 回以上」+「年数回程度」+「年 1 回程度」）の割合が 60 歳以上で 2 割を超えている一方で、「年 1 回未満」が 20 歳代と 30 歳代で 9 割を超えている。



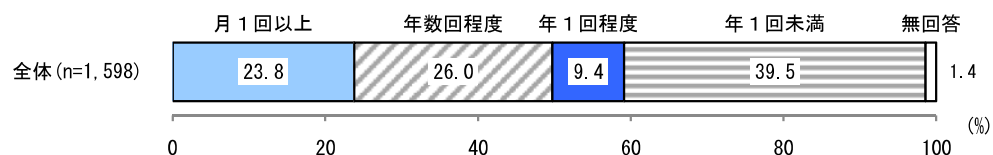
地区別では、参加頻度が『年1回以上』（「月1回以上」＋「年数回程度」＋「年1回程度」）の割合が奥池地区、浜風小学校区、南芦屋浜地区で全体より10ポイント以上高くなっている。



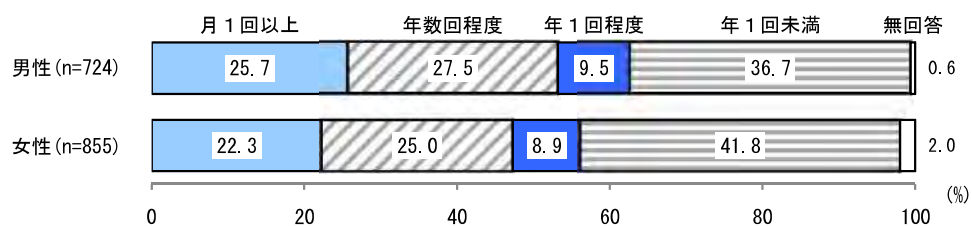
問 1 2 市内公園の利用頻度

問 1 2 あなたは、市内の公園をどれくらいの頻度で利用していますか。次の中から 1 つだけ選んで、数字に○をつけてください。

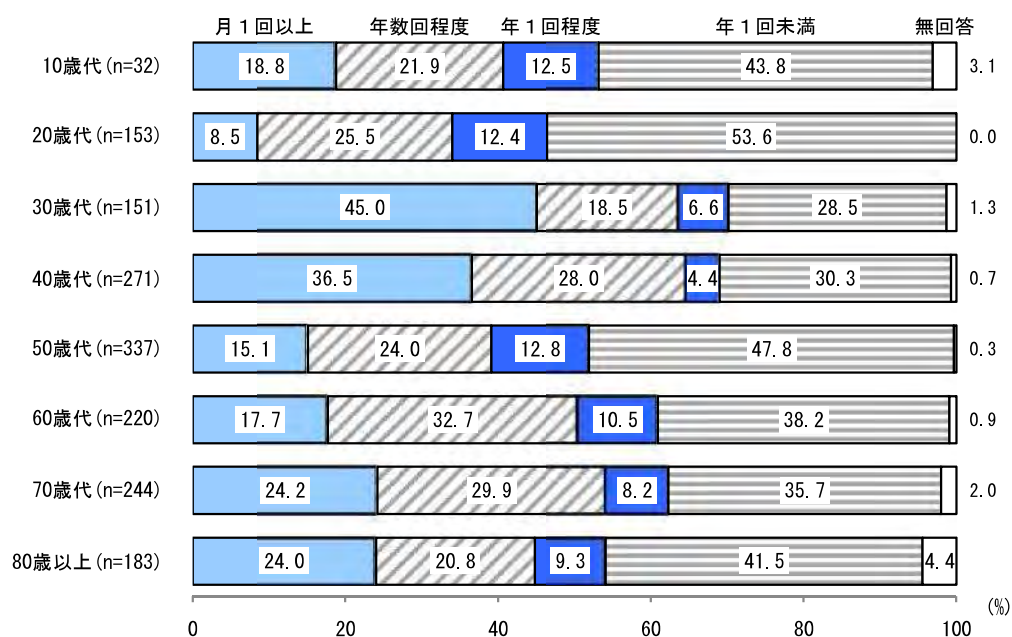
全体では、「年 1 回未満」が 39.5%で最も高く、「年数回程度」が 26.0%、「月 1 回以上」が 23.8%と続いている。



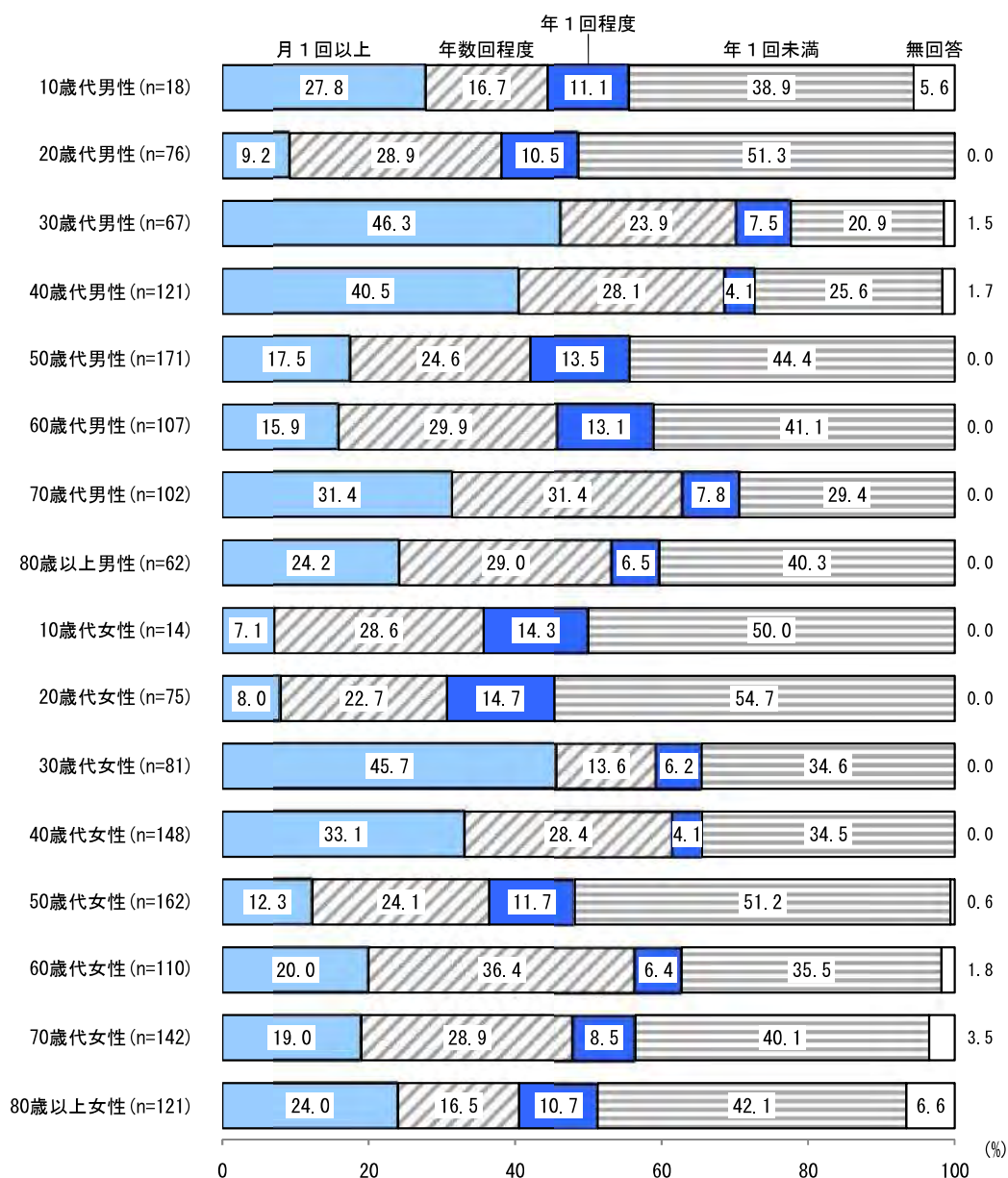
性別では、男性で『年 1 回以上』（「月 1 回以上」+「年数回程度」+「年 1 回程度」）の割合が 62.7%と女性より 6.5 ポイント高くなっている。



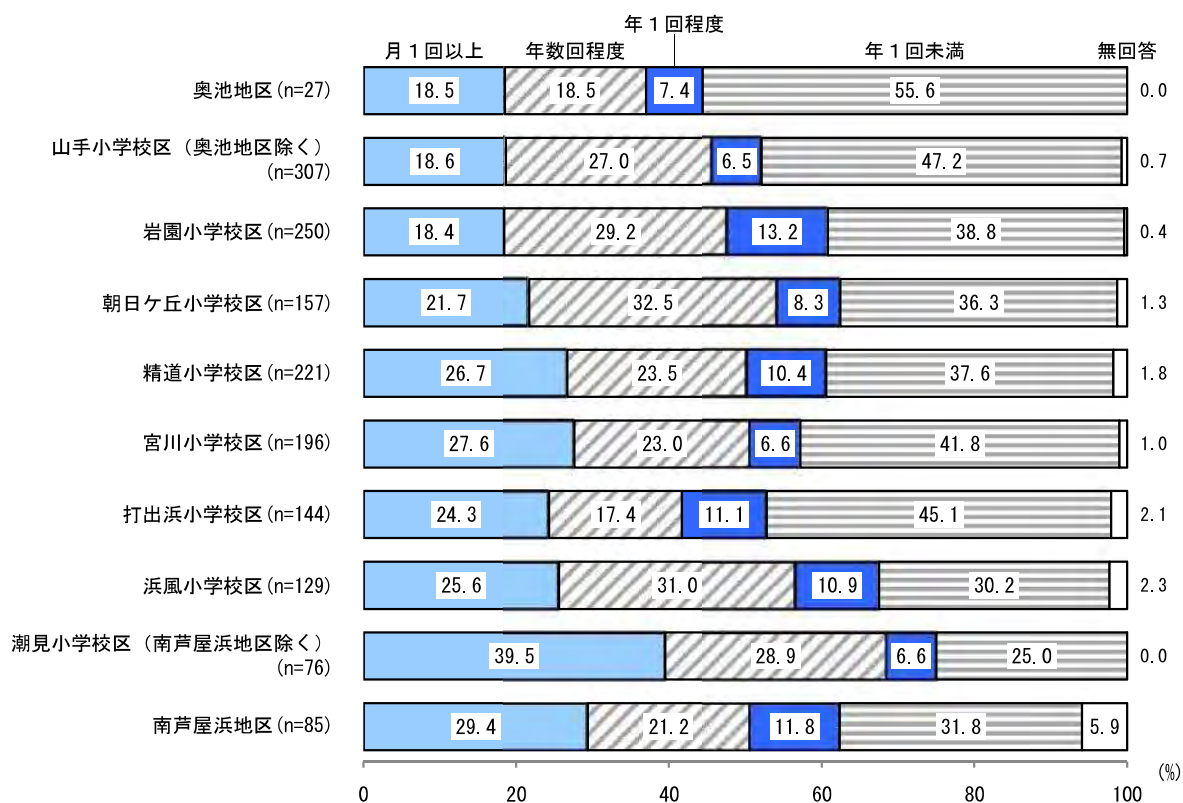
年代別では、利用頻度が「月1回以上」の割合が30歳代と40歳代で3割を超え、全体より10ポイント以上高くなっている。



性年代別では、利用頻度が「月1回以上」の割合が男性の30歳代と40歳代、女性の30歳代で4割を超えている。



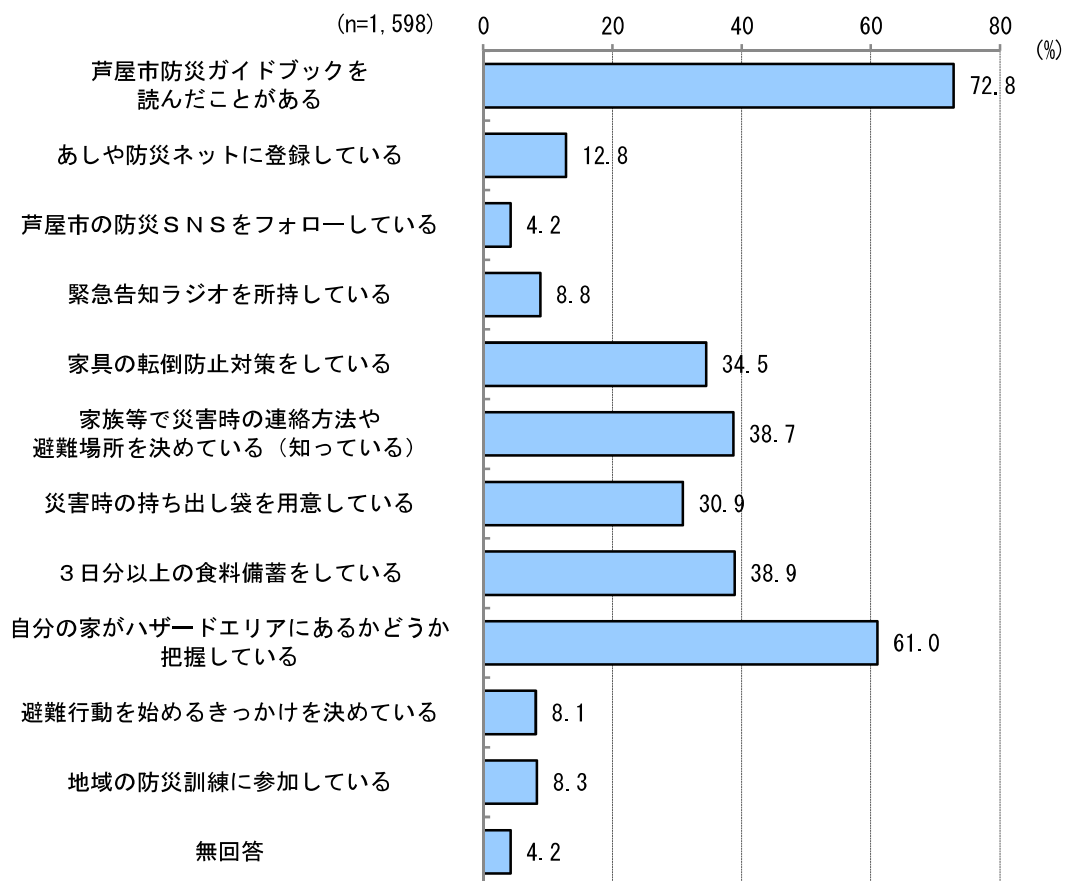
地区別では、利用頻度が『年1回以上』（「月1回以上」＋「年数回程度」＋「年1回程度」）の割合が潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で全体より15.8ポイント高くなっている。



問 1 3 自然災害に対する日頃の備え

問 1 3 地震や津波、大雨、暴風など、自然災害の発生に対し、日頃からの備えについてお聞きします。次の中からできていることをすべて選んで、数字に○をつけてください。

「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が 72.8%と最も高く、「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」が 61.0%、「3 日分以上の食料備蓄をしている」が 38.9%、「家族等で災害時の連絡方法や避難場所を決めている（知っている）」が 38.7%と続いている。



性別では、男女ともに「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が最も高くなっているものの、女性で 76.8%と高い割合となっている。また、「あしや防災ネットに登録している」の回答は、女性で 16.4%と男性より 7.6 ポイント高くなっている。「3 日分以上の食糧備蓄をしている」は、女性で 42.1%と男性より 7.0 ポイント高くなっている。

年代別では、概ね年代が高い程「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が高くなる傾向がみられ、60 歳以上で 8 割を超えている。50 歳代では「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」が 71.2%と全体より 10.2 ポイント高くなっている。また、80 歳以上で「緊急告知ラジオを所持している」が 21.3%と全体より 12.5 ポイント高くなっている。

(%)

		調査数	芦屋市防災ガイドブック を読んだことがある	あしや防災ネットに 登録している	芦屋市の防災 SNS を フォローしている	緊急告知ラジオを 所持している	家具の転倒防止対策を している	家族等で災害時の 連絡方法や避難場所を 決めている（知っている）
市全体		1,598	72.8	12.8	4.2	8.8	34.5	38.7
性別	男性	724	◎ 68.1	8.8	3.6	8.1	34.7	◎ 37.2
	女性	855	◎ 76.8	16.4	4.8	9.4	34.2	39.9
年代別	10 歳代	32	◎ 40.6	6.3	-	6.3	31.3	◎ 50.0
	20 歳代	153	◎ 33.3	5.2	3.3	3.3	28.1	◎ 37.9
	30 歳代	151	◎ 56.3	9.3	3.3	3.3	32.5	◎ 38.4
	40 歳代	271	◎ 74.5	18.8	5.2	4.1	28.4	◎ 47.6
	50 歳代	337	◎ 77.2	19.0	5.0	8.0	36.8	◎ 39.2
	60 歳代	220	◎ 80.9	13.2	5.5	7.3	42.7	36.4
	70 歳代	244	◎ 89.3	9.4	3.3	14.3	32.8	29.1
	80 歳以上	183	◎ 82.0	7.7	3.3	21.3	38.3	38.8
		調査数	災害時の持ち出し袋を 用意している	3 日分以上の 食料備蓄をしている	自分の家がハザード エリアにあるかどうか 把握している	避難行動を始める きっかけを決めている	地域の防災訓練に 参加している	無回答
市全体		1,598	30.9	38.9	61.0	8.1	8.3	4.2
性別	男性	724	28.7	35.1	◎ 61.0	8.6	8.0	5.0
	女性	855	32.5	◎ 42.1	◎ 60.8	7.7	8.7	3.5
年代別	10 歳代	32	◎ 46.9	34.4	◎ 40.6	3.1	3.1	6.3
	20 歳代	153	26.1	30.1	◎ 38.6	9.2	0.7	12.4
	30 歳代	151	31.1	32.5	◎ 51.7	4.6	3.3	9.3
	40 歳代	271	37.6	41.0	◎ 66.1	7.7	9.6	2.6
	50 歳代	337	32.3	37.1	◎ 71.2	5.3	5.9	2.7
	60 歳代	220	28.2	◎ 43.2	◎ 66.4	10.9	12.3	1.4
	70 歳代	244	28.7	◎ 43.0	◎ 63.9	10.2	13.5	1.6
	80 歳以上	183	25.7	◎ 41.5	◎ 54.6	10.4	10.9	4.9

地区別では、全ての地区で「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」が6割を超えており、奥池地区を除く全ての地区で最も高くなっている。

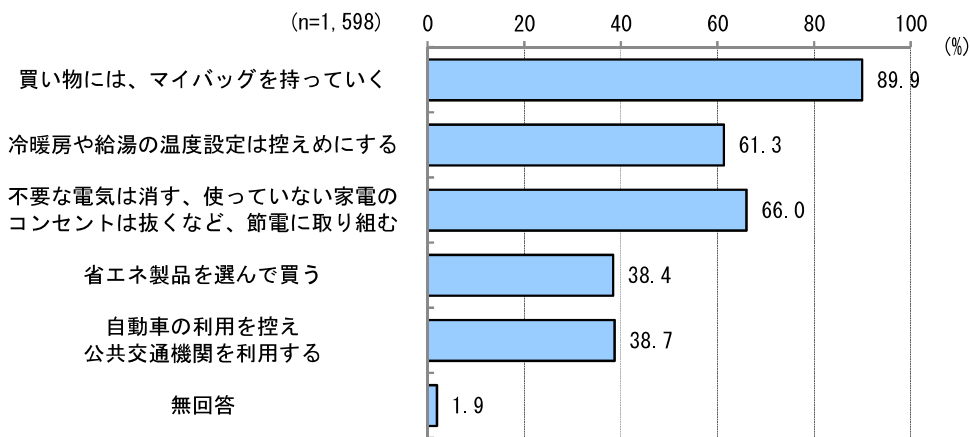
(%)

		調査数	芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある	あしや防災ネットに登録している	芦屋市の防災SNSをフォローしている	緊急告知ラジオを所持している	家具の転倒防止対策をしている	家族等で災害時の連絡方法や避難場所を決めている(知っている)
市全体		1598	72.8	12.8	4.2	8.8	34.5	38.7
地区別	奥池地区	27	◎ 77.8	29.6	11.1	7.4	51.9	44.4
	山手小学校区	307	◎ 75.2	11.4	2.9	8.5	34.5	35.5
	岩園小学校区	250	◎ 72.8	14.8	4.0	8.8	40.0	38.8
	朝日ヶ丘小学校区	157	◎ 69.4	10.2	4.5	10.2	33.1	35.0
	精道小学校区	221	◎ 73.8	10.0	5.4	6.8	31.2	◎ 41.6
	宮川小学校区	196	◎ 75.0	11.7	2.6	6.6	29.1	◎ 45.4
	打出浜小学校区	144	◎ 68.8	16.7	4.9	11.8	37.5	38.9
	浜風小学校区	129	◎ 72.1	12.4	2.3	14.7	◎ 35.7	32.6
	潮見小学校区	76	◎ 65.8	10.5	3.9	5.3	38.2	38.2
	南芦屋浜地区	85	◎ 74.1	18.8	9.4	7.1	23.5	◎ 40.0
		調査数	災害時の持ち出し袋を用意している	3日分以上の食料備蓄をしている	自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している	避難行動を始めるきっかけを決めている	地域の防災訓練に参加している	無回答
市全体		1598	30.9	38.9	61.0	8.1	8.3	4.2
地区別	奥池地区	27	33.3	◎ 55.6	◎ 81.5	14.8	7.4	-
	山手小学校区	307	30.0	◎ 45.0	◎ 69.1	7.8	5.9	3.6
	岩園小学校区	250	32.4	◎ 45.6	◎ 62.0	6.8	8.8	4.8
	朝日ヶ丘小学校区	157	31.8	◎ 42.0	◎ 58.6	5.7	5.1	1.9
	精道小学校区	221	29.4	33.9	◎ 60.2	6.3	7.7	5.0
	宮川小学校区	196	29.1	30.1	◎ 55.1	9.2	9.7	5.6
	打出浜小学校区	144	◎ 39.6	36.1	◎ 56.3	11.1	13.9	4.2
	浜風小学校区	129	25.6	34.9	◎ 53.5	7.0	10.9	6.2
	潮見小学校区	76	22.4	◎ 40.8	◎ 57.9	9.2	11.8	2.6
	南芦屋浜地区	85	35.3	25.9	◎ 64.7	12.9	4.7	3.5

問 1 4 地球温暖化防止に向けた取組

問 1 4 地球温暖化防止に向けた取組についてお聞きします。次の中からできていることをすべて選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「買い物には、マイバッグを持っていく」が89.9%で最も高く、「不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む」が66.0%、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」が61.3%と続いている。



性別では、「買い物には、マイバッグを持っていく」、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」、「不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む」が男性より女性で10ポイント以上高くなっている。

年代別では、概ね年代が高い程「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」、「不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む」が高くなる傾向がみられ、80歳以上では全体より10ポイント以上高くなっている。

		調査数	買い物には、マイバッグを持っていく	冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする	不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む	省エネ製品を選んで買う	自動車の利用を控え公共交通機関を利用する	無回答
市全体		1598	89.9	61.3	66.0	38.4	38.7	1.9
性別	男性	724	① 84.4	① 51.9	② 60.4	34.3	36.3	2.8
	女性	855	② 94.7	② 69.5	② 71.0	42.1	40.8	1.1
年代別	10歳代	32	① 71.9	37.5	③ 46.9	15.6	② 56.3	3.1
	20歳代	153	① 76.5	42.5	② 54.2	11.8	③ 43.1	3.9
	30歳代	151	① 89.4	③ 43.0	② 60.3	35.8	37.7	2.6
	40歳代	271	① 89.3	③ 55.7	② 62.7	33.9	32.1	2.6
	50歳代	337	① 91.1	③ 62.0	② 64.1	44.8	33.5	1.8
	60歳代	220	① 95.0	③ 67.7	② 70.0	50.5	36.4	1.4
	70歳代	244	① 92.6	② 75.4	③ 74.2	47.5	47.5	0.8
	80歳以上	183	① 93.4	③ 76.0	② 76.5	35.0	42.6	0.5

地区別では、全ての地区で「買い物には、マイバッグを持っていく」が最も高くなっている。

(%)

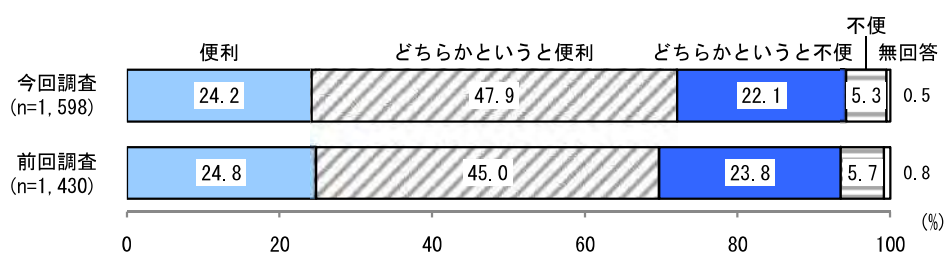
		調査数	買い物には、 マイバッグを 持つていく	冷暖房や給湯の温度設定は 控えめにする	不要な電気は消す、使つて いない家電のコンセントは 抜くなど、節電に取り組む	省エネ製品を選んで買う	自動車の利用を控え 公共交通機関を利用する	無回答
市全体		1598	89.9	61.3	66.0	38.4	38.7	1.9
地区別	奥池地区	27	㊦ 85.2	㊦ 66.7	㊦ 74.1	51.9	3.7	3.7
	山手小学校区	307	㊦ 90.9	㊦ 59.9	㊦ 64.8	39.7	39.4	1.0
	岩園小学校区	250	㊦ 90.4	㊦ 64.8	㊦ 71.6	31.2	40.4	2.4
	朝日ヶ丘小学校区	157	㊦ 88.5	㊦ 56.7	㊦ 68.8	33.1	36.9	1.3
	精道小学校区	221	㊦ 87.8	㊦ 64.7	㊦ 66.1	45.7	40.7	1.4
	宮川小学校区	196	㊦ 89.3	㊦ 57.1	㊦ 57.1	35.7	㊦ 39.8	2.6
	打出浜小学校区	144	㊦ 90.3	㊦ 63.2	㊦ 64.6	34.0	38.2	1.4
	浜風小学校区	129	㊦ 89.9	㊦ 65.1	㊦ 70.5	38.8	42.6	3.1
	潮見小学校区	76	㊦ 93.4	㊦ 67.1	㊦ 67.1	43.4	㊦ 44.7	1.3
	南芦屋浜地区	85	㊦ 91.8	47.1	㊦ 60.0	㊦ 48.2	28.2	3.5

問 1 5 市内での移動の利便性

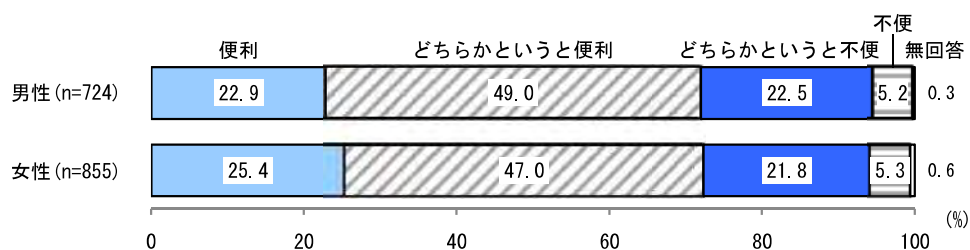
問 1 5 あなたは、徒歩、自転車、自家用車、公共交通などの手段に関わらず、市内の移動の利便性について、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「どちらかという便利」が47.9%で最も高く、「便利」が24.2%、「どちらかという不便」が22.1%と続いている。『便利』（「便利」+「どちらかという便利」）だと思う割合は72.1%と7割を超えている。

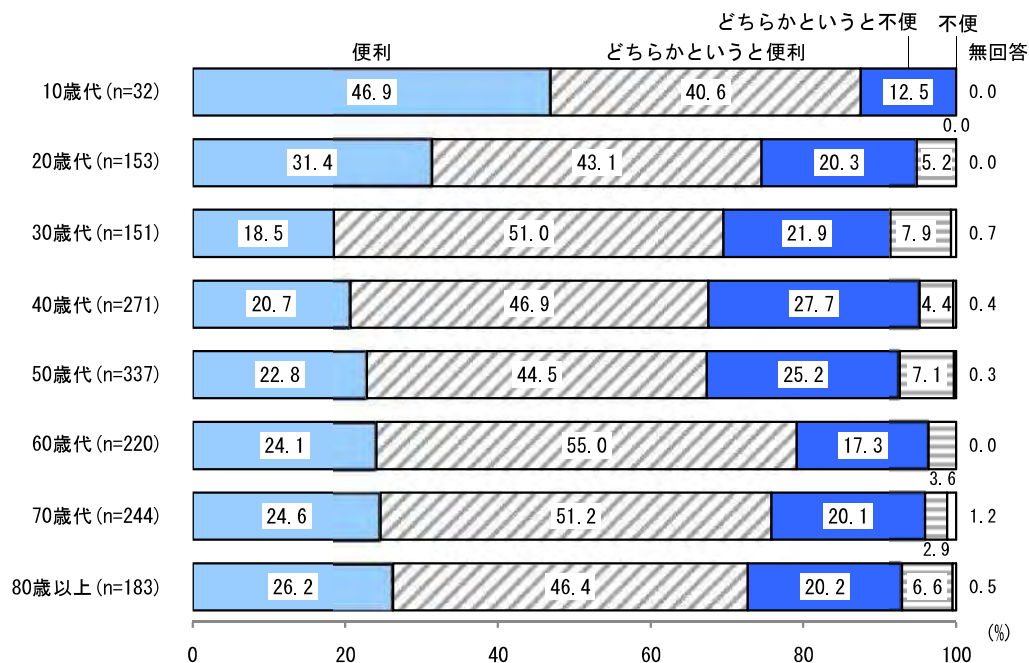
前回調査から大きな差はみられない。



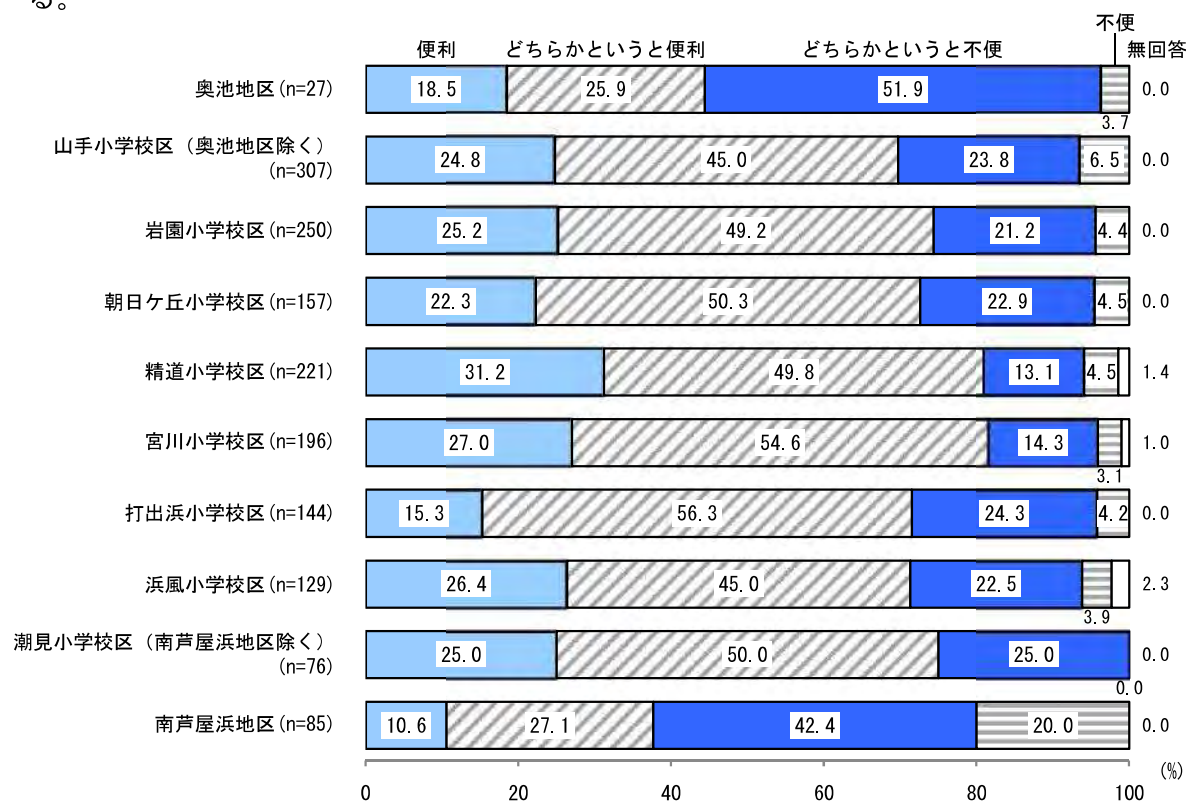
性別で大きな差はみられない。



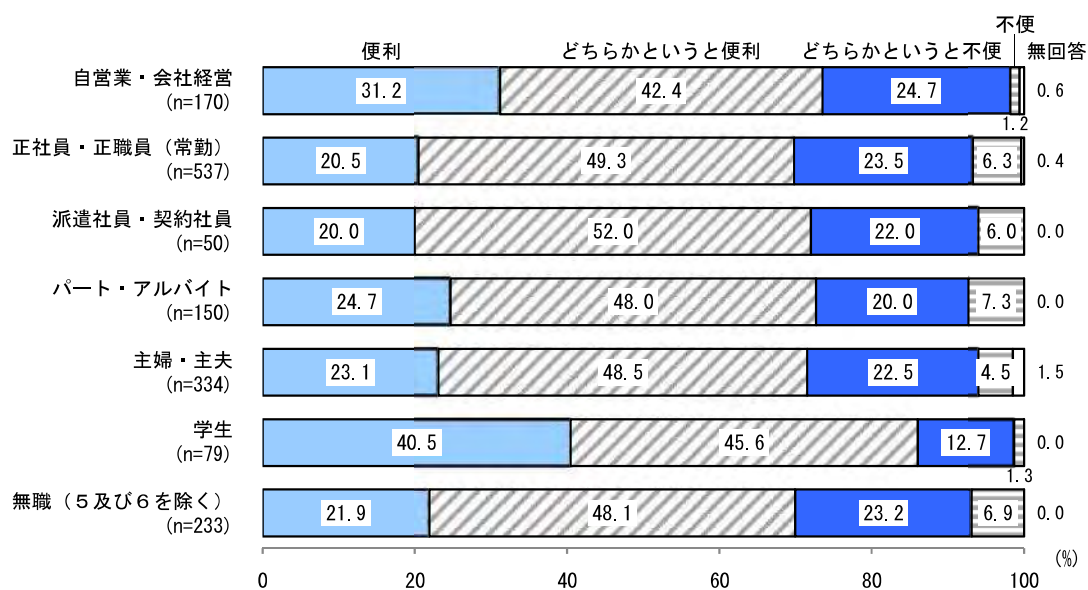
年代別では、市内の移動が『不便』（「どちらかという不便」+「不便」）だと思う割合は、40歳代と50歳代で3割を超えている。



地区別では、市内の移動が『便利』（「便利」＋「どちらかという便利」）だと思う割合は、精道小学校区と宮川小学校区で8割を超えている。一方で、『不便』（「どちらかという不便」＋「不便」）だと思う割合は、奥池地区と南芦屋浜地区で5割を超え、全体より25ポイント以上高くなっている。



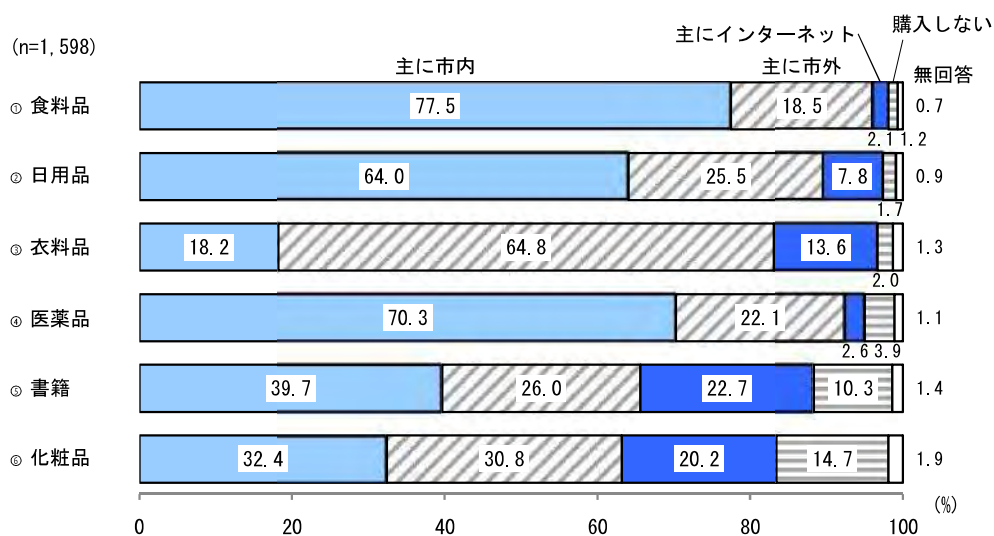
職業別では、自営業・会社経営、学生で「便利」が3割を超えており、特に学生では『便利』（「便利」＋「どちらかという便利」）が86.1%と全体より14.0ポイント高くなっている。



問 1 6 生活用品の購入場所

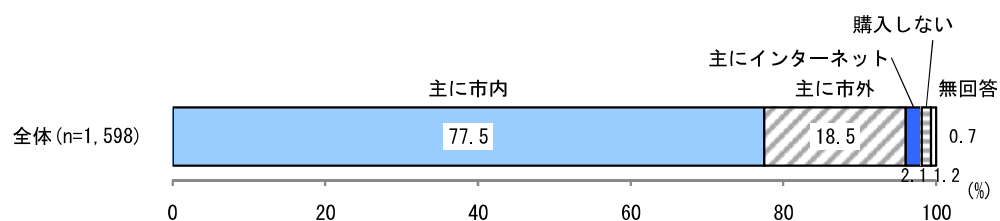
問 1 6 あなたは、下記の用品について普段どこで購入されていますか。①～⑥の項目ごとに、主なものを1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、① 食料品、② 日用品、④ 医薬品は、「主に市内」が6割を超え最も高くなっている。③ 衣料品は、「主に市外」が64.8%で最も高く、「主に市内」が18.2%、「主にインターネット」が13.6%と続いている。⑤ 書籍は、「主に市内」が39.7%で最も高く、「主に市外」が26.0%、「主にインターネット」が22.7%と続いている。⑥ 化粧品は、「主に市内」が32.4%で最も高く、「主に市外」が30.8%、「主にインターネット」が20.2%と続いている。

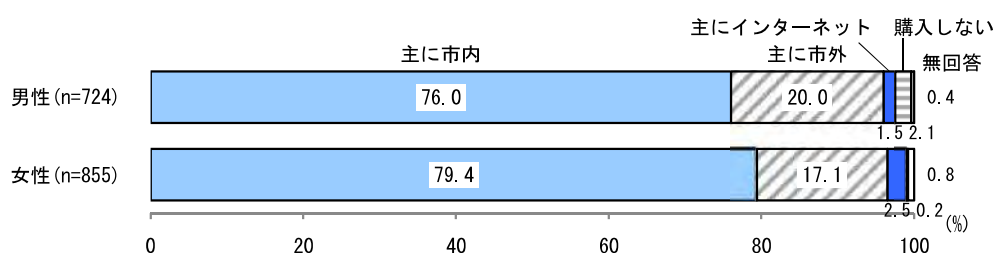


① 食料品

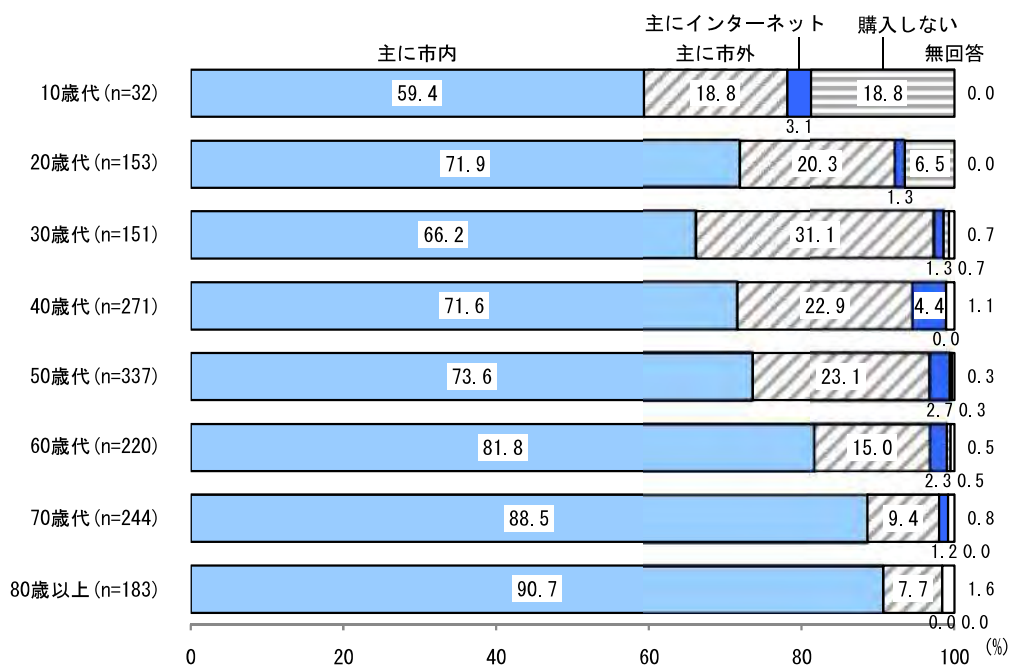
全体では、「主に市内」が77.5%で最も高く、「主に市外」が18.5%、「主にインターネット」が2.1%と続いている。



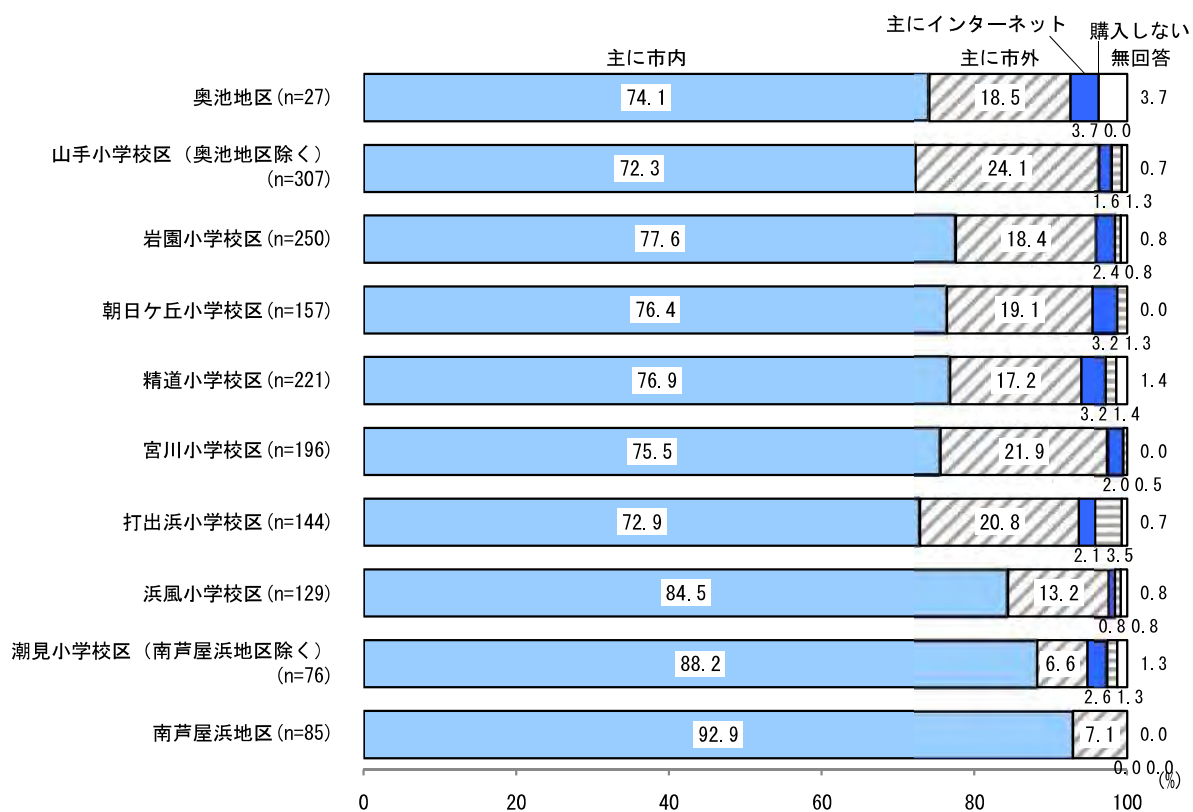
性別で大きな差はみられない。



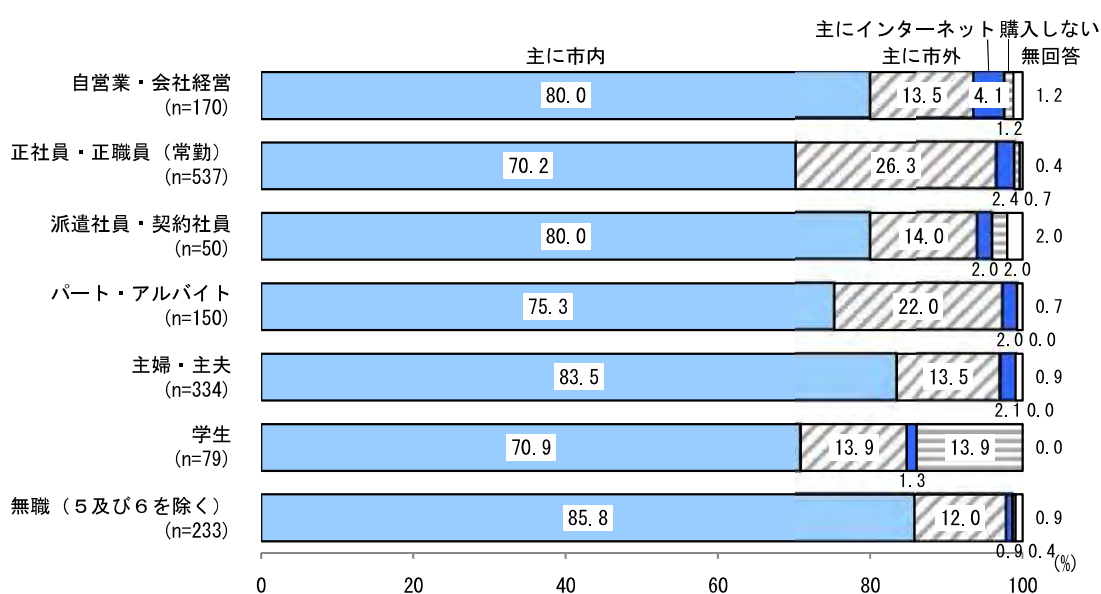
年代別では、概ね年代が高い程「主に市内」が高くなる傾向がみられる。



地区別では、浜風小学校区、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）、南芦屋浜地区で「主に市内」が8割を超え、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）と南芦屋浜地区で全体より10ポイント以上高くなっている。

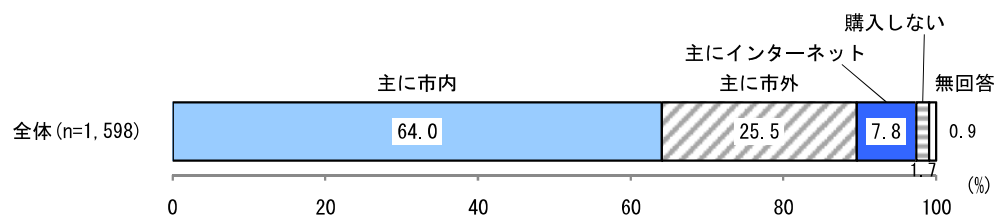


職業別では、主婦・主夫、無職（5及び6を除く）で「主に市内」が全体より5ポイント以上高くなっている一方で、正社員・正職員（常勤）で「主に市外」が26.3%と全体より7.8ポイント高くなっている。

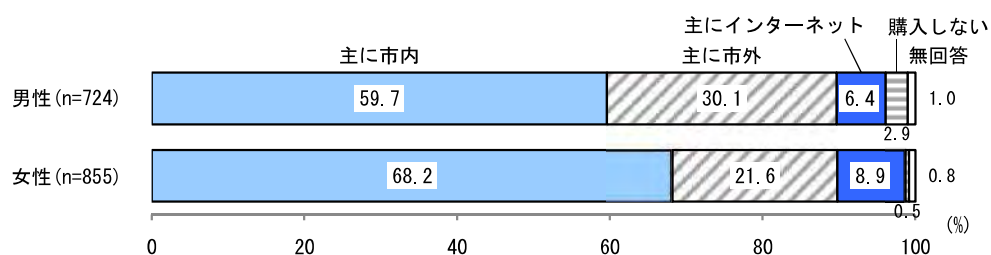


② 日用品

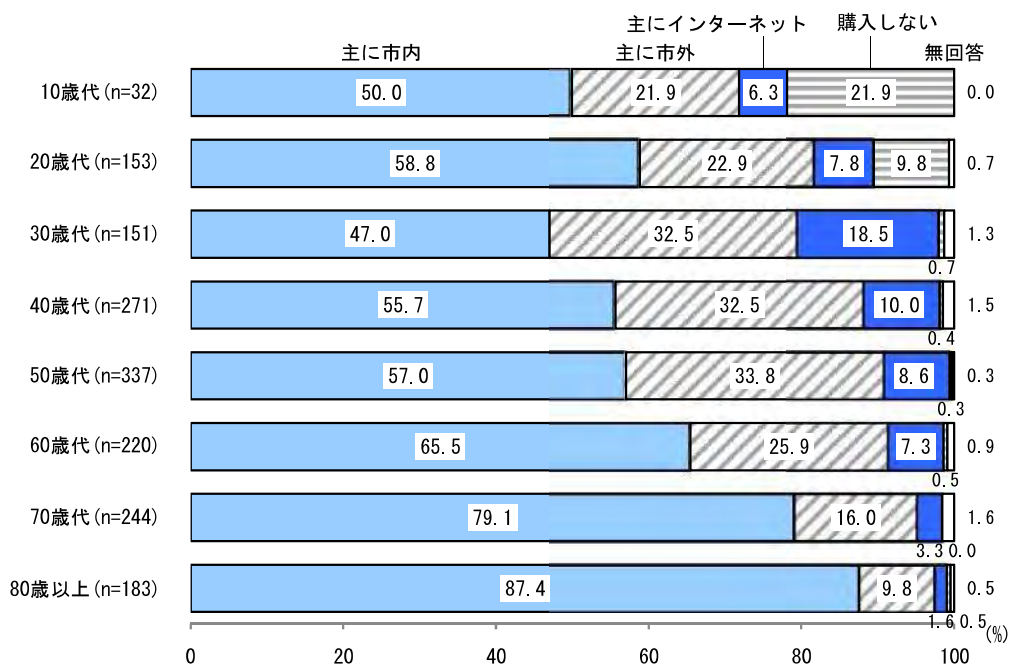
全体では、「主に市内」が64.0%で最も高く、「主に市外」が25.5%、「主にインターネット」が7.8%と続いている。



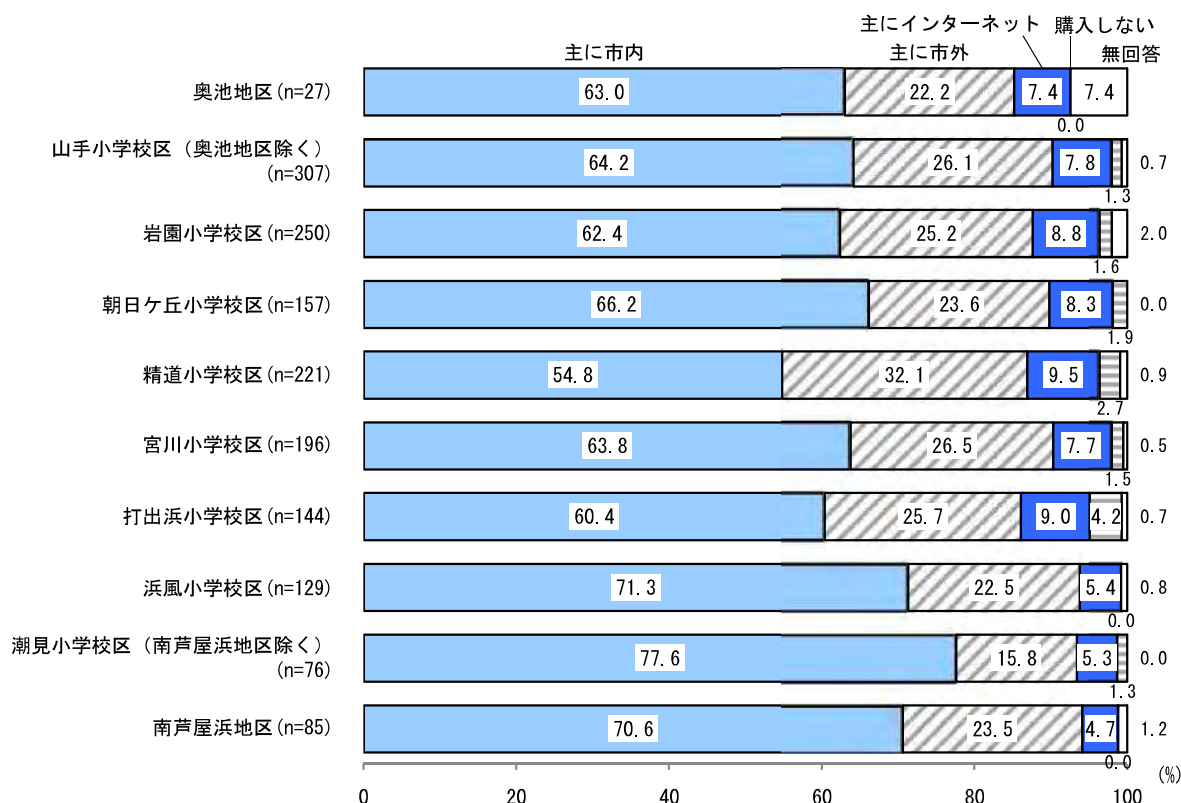
性別では、女性で「主に市内」が68.2%と男性より8.5ポイント高い一方で、男性で「主に市外」が30.1%と女性より8.5ポイント高くなっている。



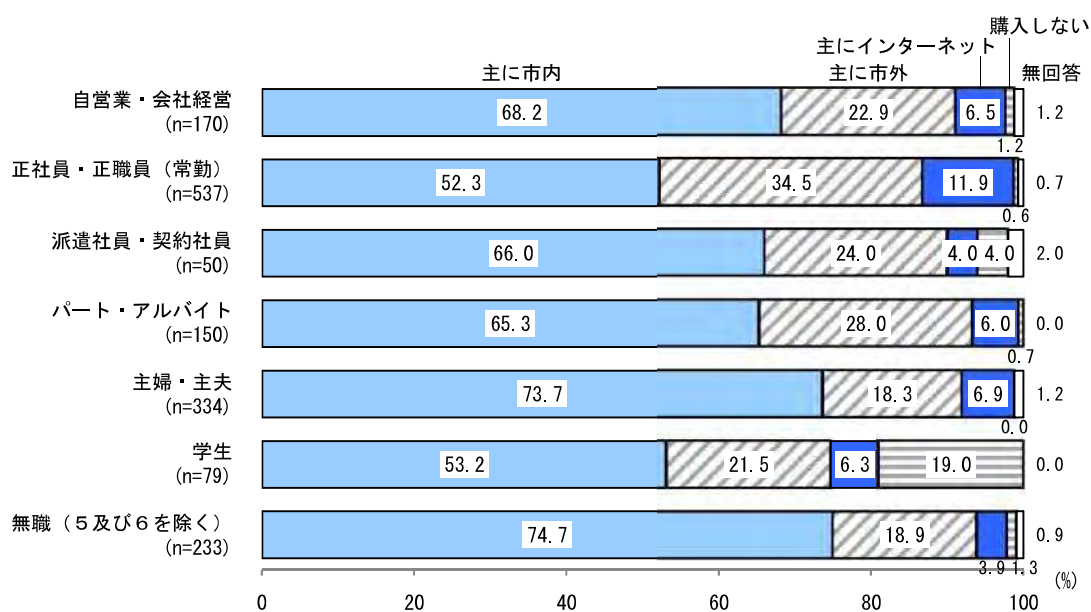
年代別では、30歳代から50歳代で「主に市外」が3割を超えている。



地区別では、浜風小学校区、潮見小学校区（南芦屋浜地区を除く）、南芦屋浜地区で「主に市内」が7割を超え、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で全体より13.6ポイント高くなっている。

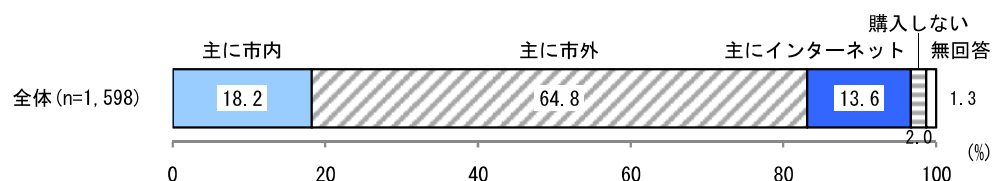


職業別では、主婦・主夫、無職（5及び6を除く）で「主に市内」が7割を超え全体より9ポイント以上高くなっている一方で、正社員・正職員（常勤）で「主に市外」が34.5%と全体より9.0ポイント高くなっている。

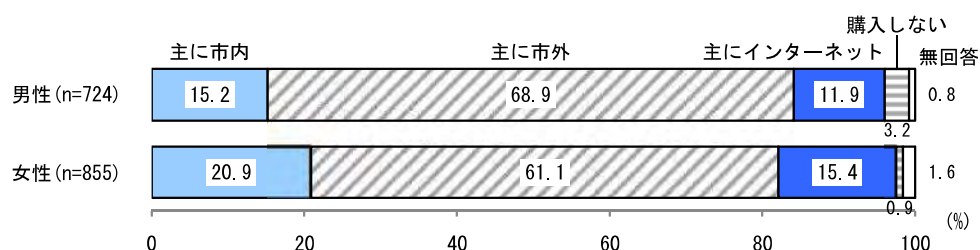


③ 衣料品

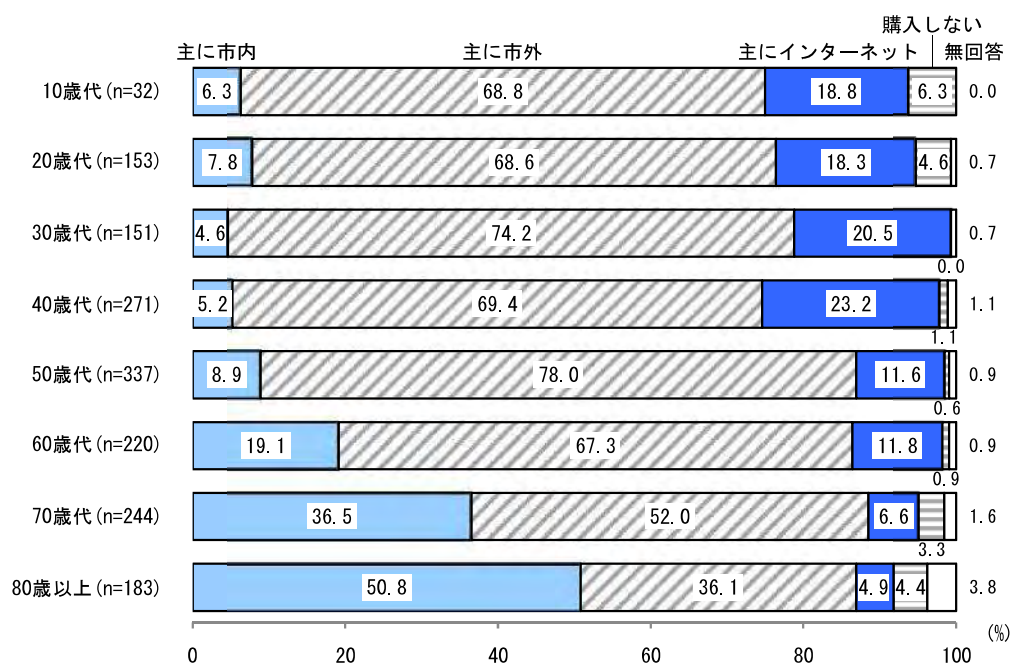
全体では、「主に市外」が64.8%で最も高く、「主に市内」が18.2%、「主にインターネット」が13.6%と続いている。



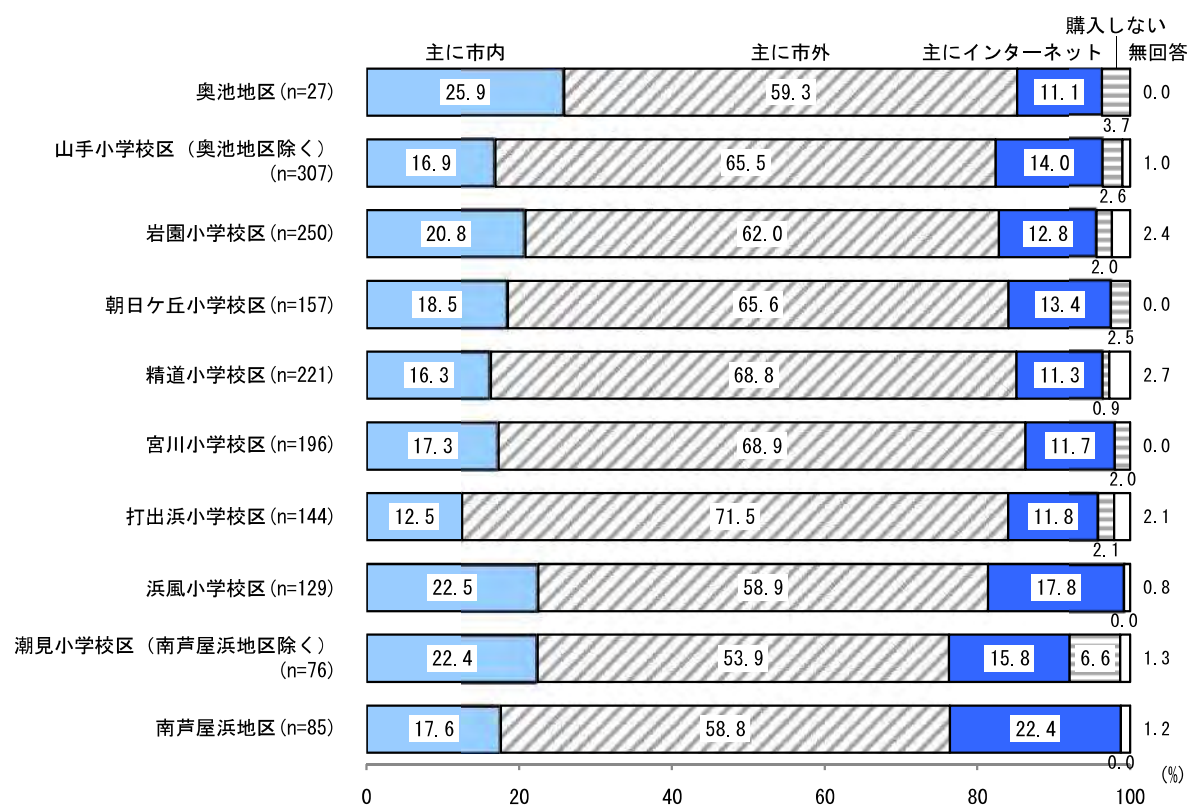
性別では、女性で「主に市内」が20.9%と男性より5.7ポイント高くなっている一方で、男性で「主に市外」が68.9%と女性より7.8ポイント高くなっている。



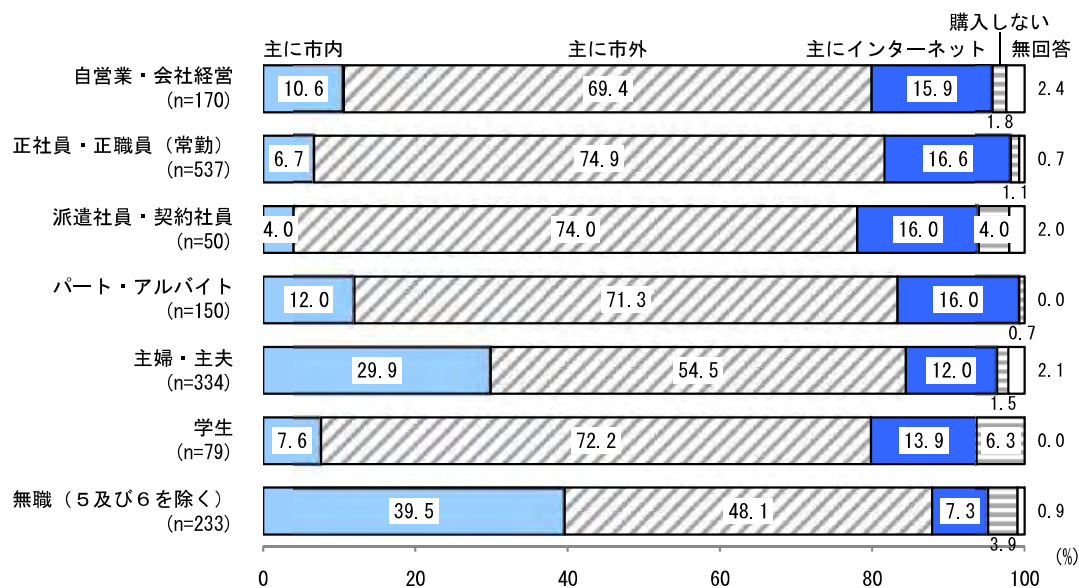
年代別では、30歳代と40歳代で「主にインターネット」が2割を超えている。70歳代では、「主に市内」が全体より18.3ポイント高く、80歳以上では、32.6ポイント高くなっている。



地区別では、南芦屋浜地区で「主にインターネット」が2割を超えている。

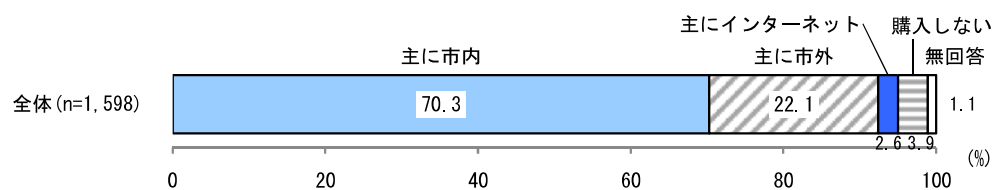


職業別では、主婦・主夫、無職（５及び６を除く）で「主に市内」が全体より10ポイント以上高くなっている一方で、正社員・正職員（常勤）で「主に市外」が74.9%と全体より10.1ポイント高くなっている。

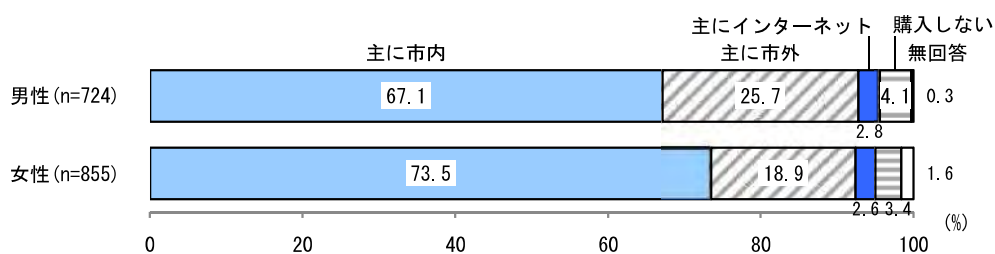


④ 医薬品

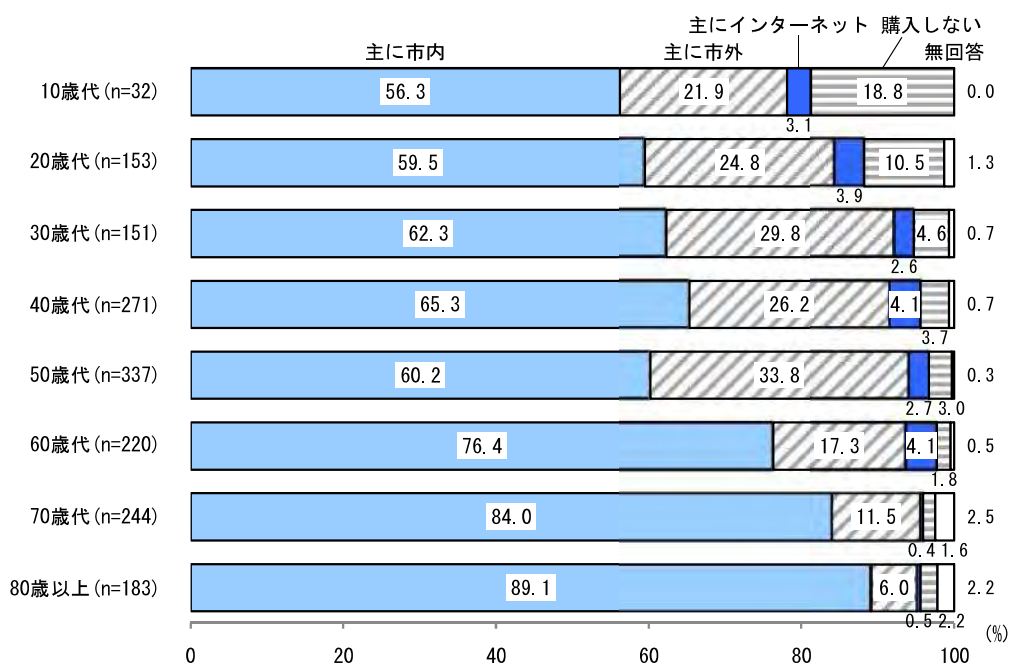
全体では、「主に市内」が70.3%で最も高く、「主に市外」は22.1%、「購入しない」が3.9%と続いている。



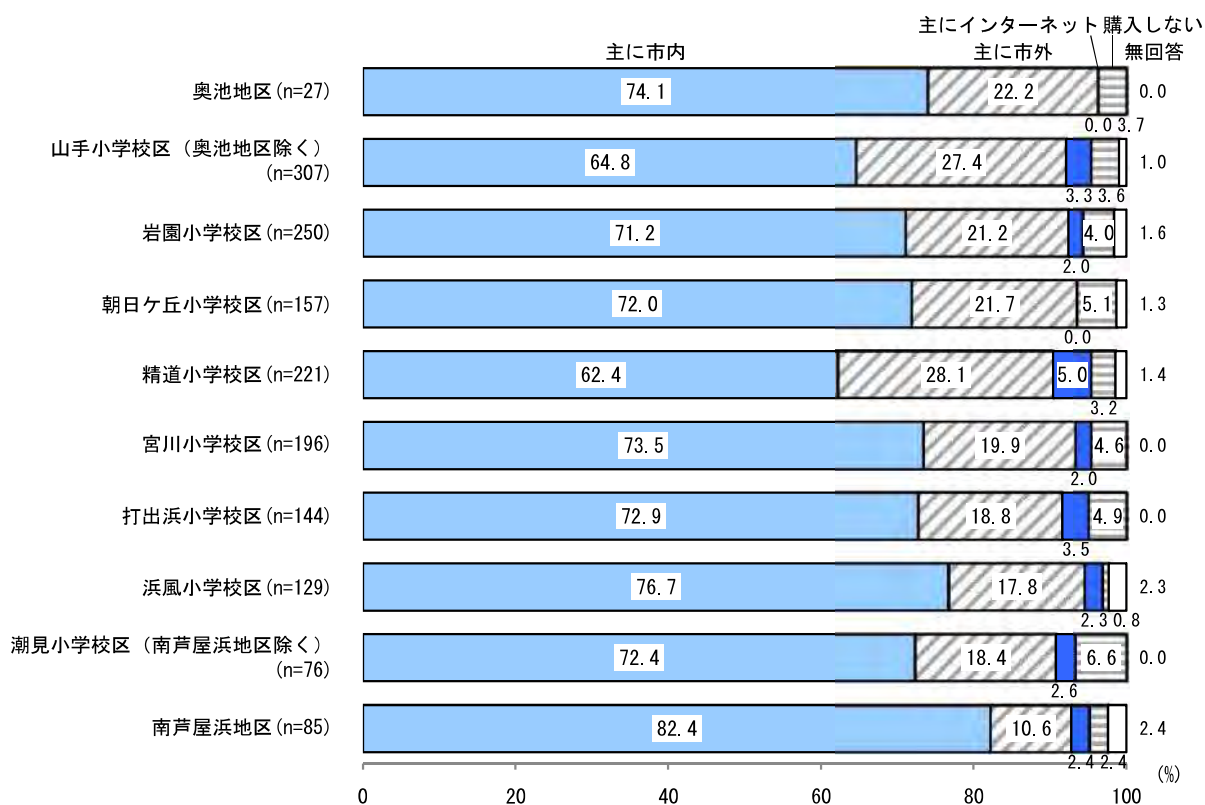
性別では、女性で「主に市内」が73.5%と男性より6.4ポイント高くなっている一方で、男性で「主に市外」が25.7%と女性より6.8ポイント高くなっている。



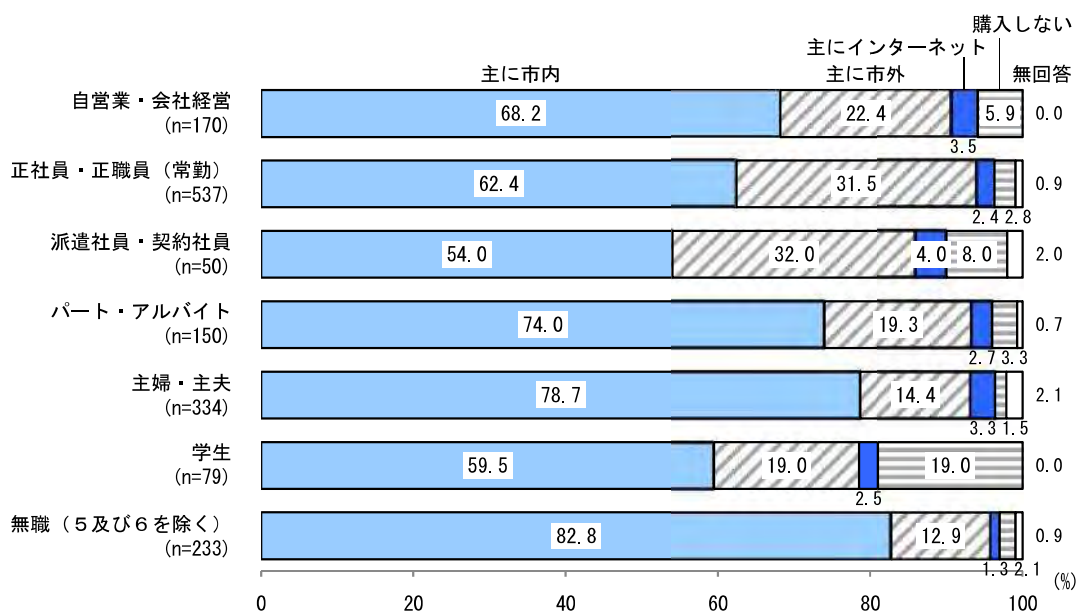
年代別では、概ね年代が高い程「主に市内」が高くなる傾向がみられる。



地区別では、南芦屋浜地区で「主に市内」が8割を超え、全体より12.1ポイント高くなっている。

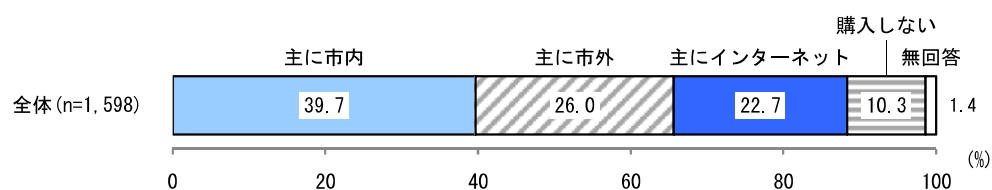


職業別では、主婦・主夫、無職（5及び6を除く）で「主に市内」が全体より8ポイント以上高くなっている一方で、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員で「主に市外」が3割を超え、全体より9ポイント以上高くなっている。

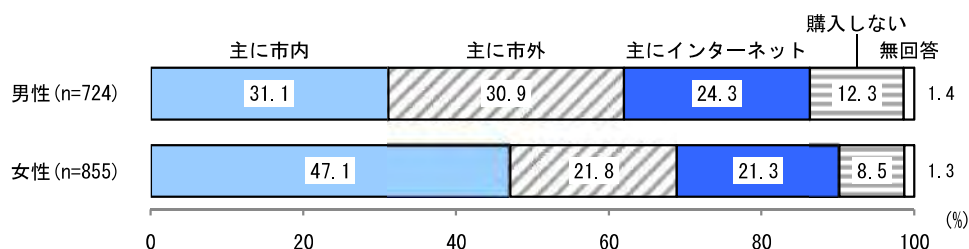


⑤ 書籍

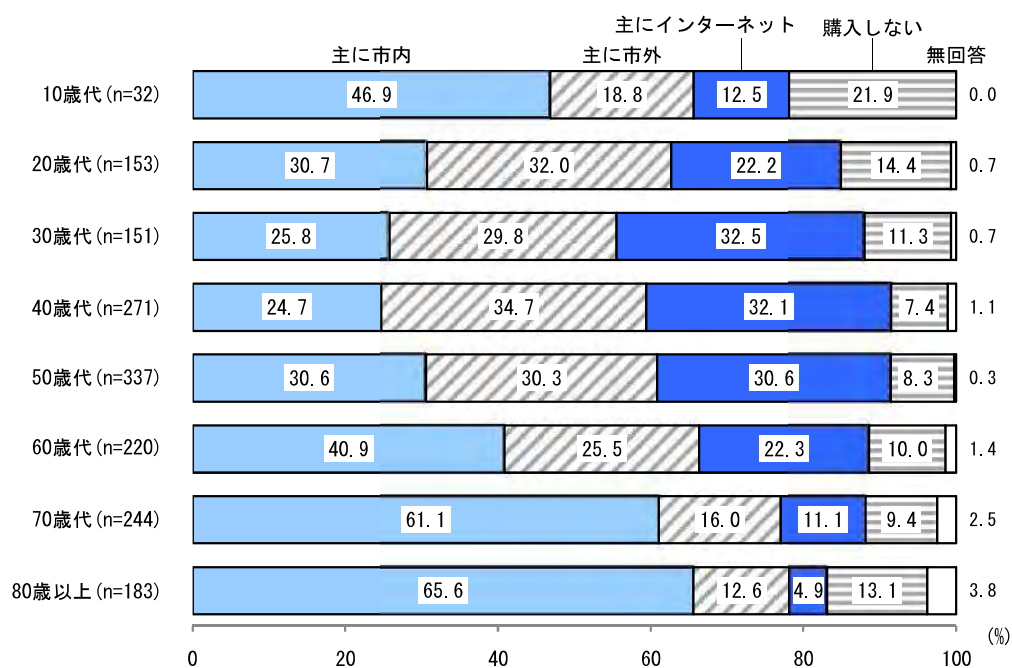
全体では、「主に市内」が39.7%で最も高く、「主に市外」が26.0%、「主にインターネット」が22.7%と続いている。



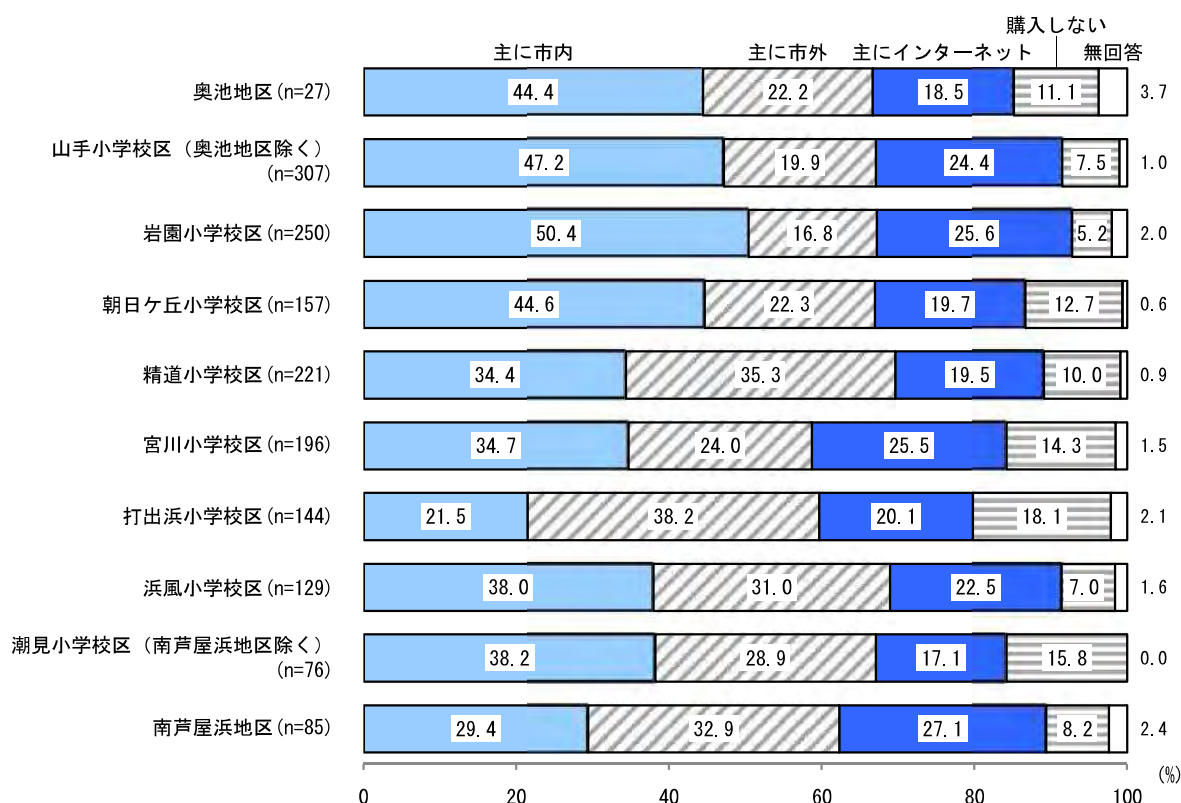
性別では、女性で「主に市内」が47.1%と男性より16.0ポイント高くなっている一方で、男性で「主に市外」が30.9%と女性より9.1ポイント高くなっている。



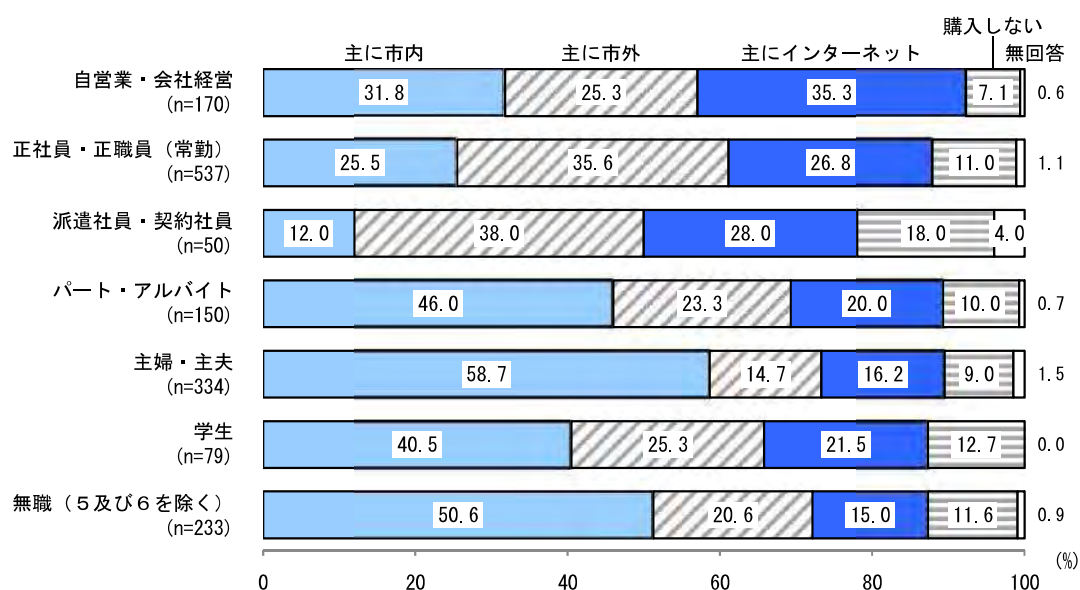
年代別では、30歳代から50歳代で「主にインターネット」が3割を超えている。



地区別では、精道小学校区、打出浜小学校区、浜風小学校区、南芦屋浜地区で「主に市外」が3割を超えており、打出浜小学校区では全体より12.2ポイント高くなっている。

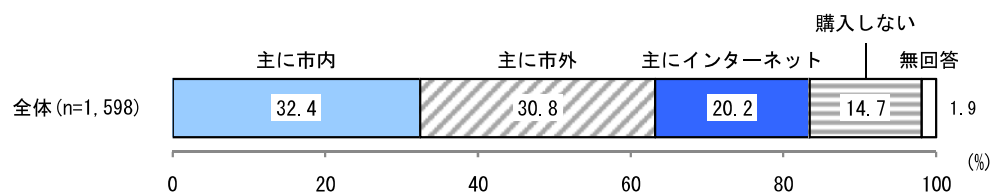


職業別では、主婦・主夫、無職（5及び6を除く）で「主に市内」が5割を超え全体より10ポイント以上高くなっている一方で、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員で「主に市外」が3割を超え、全体より9ポイント以上高くなっている。また、自営業・会社経営で「主にインターネット」が35.3%と全体より12.6ポイント高くなっている。

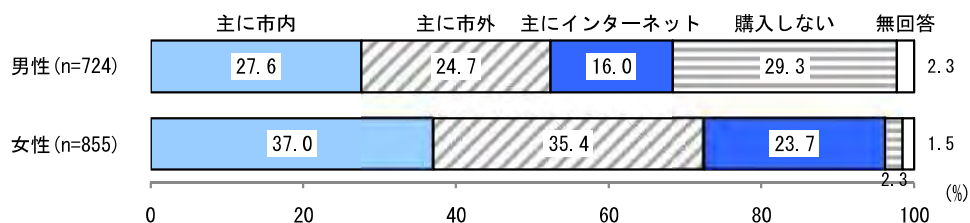


⑥ 化粧品

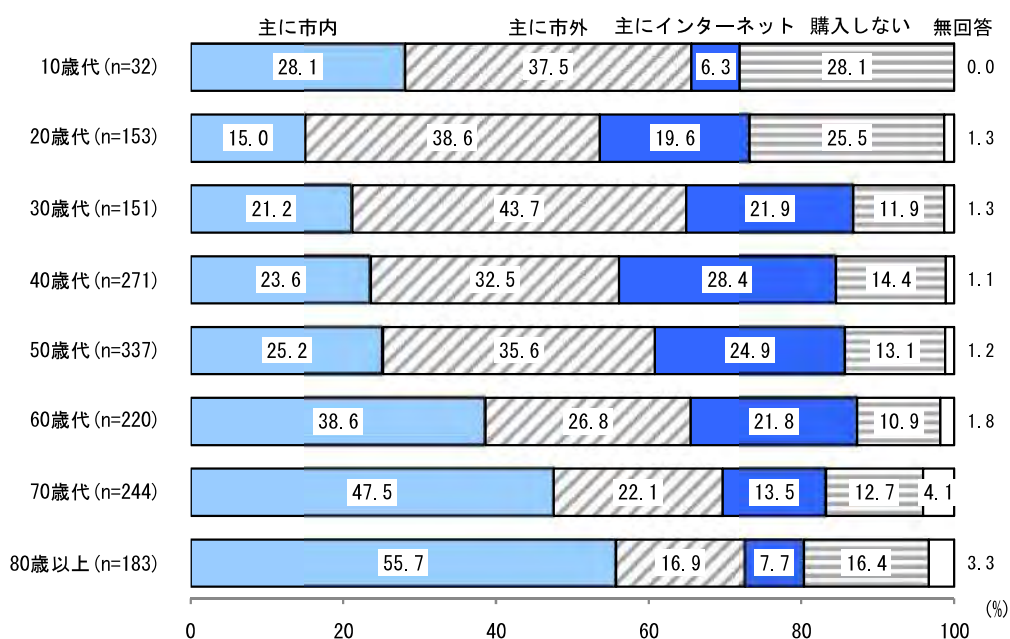
全体では、「主に市内」が32.4%で最も高く、「主に市外」が30.8%、「主にインターネット」が20.2%と続いている。



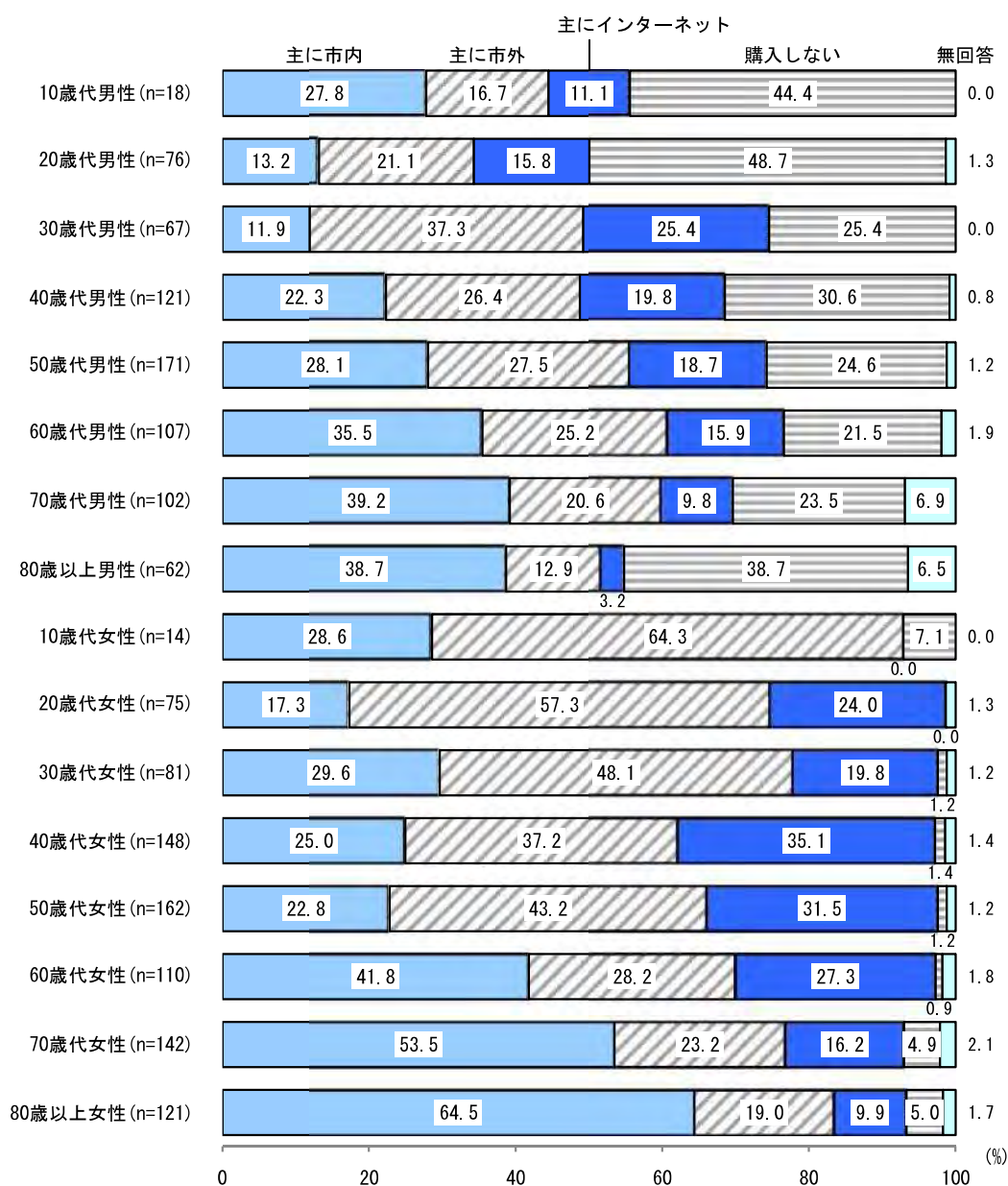
性別では、女性で「主に市内」が9.4ポイント、「主に市外」が10.7ポイント高くなっている一方で、男性で「購入しない」が29.3%と女性より27.0ポイント高くなっている。



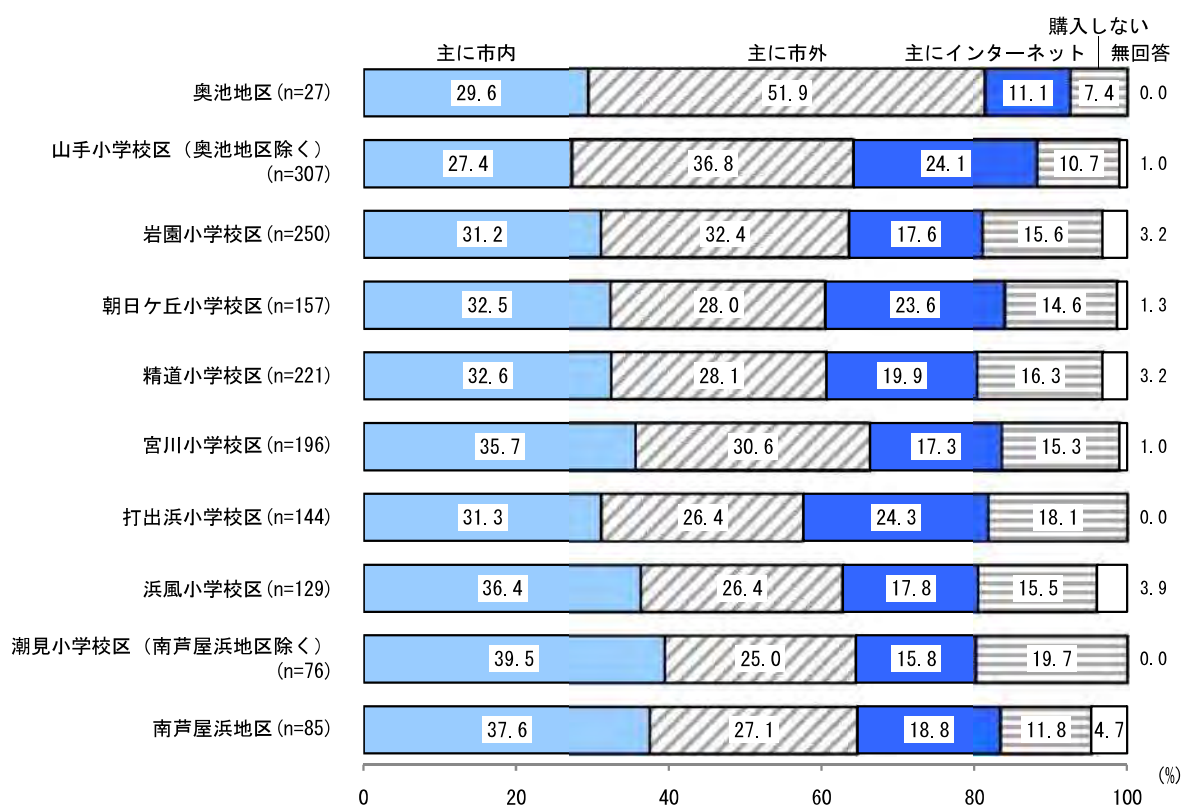
年代別では、概ね年代が高い程「主に市内」が高くなる傾向がみられる。また、「主にインターネット」は30歳代から60歳代で2割を超えている。



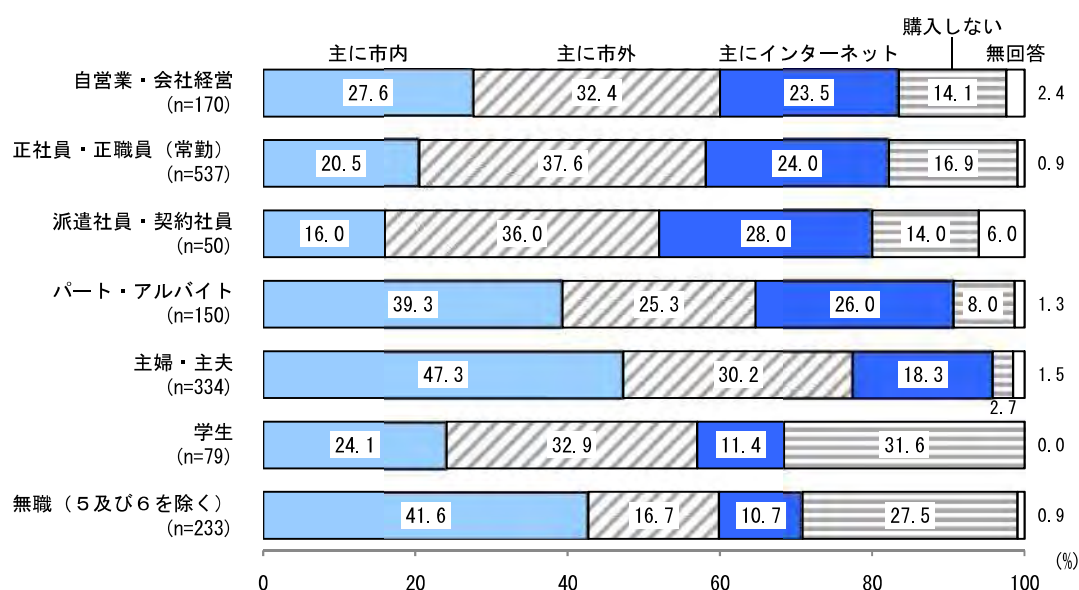
性年代別では、女性の10歳代から50歳代で「主に市外」が最も高く、特に10歳代と20歳代では5割を超えている。また、女性の40歳代と50歳代では「主にインターネット」が3割を超えている。女性の60歳以上では「主に市内」が4割を超え最も高くなっている。



地区別では、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で「主に市内」が39.5%と4割近くを占め最も高くなっている。また、奥池地区で「主に市外」が51.9%と5割を超え、全体より21.1ポイント高くなっている。



職業別では、主婦・主夫、無職（5及び6を除く）で「主に市内」が4割を超え、全体より9ポイント以上高くなっている一方で、派遣社員・契約社員では16.0%と2割未満となっている。



問 1 7 理想と現実の夫婦役割分担

問 1 7 あなたは、家事や育児など夫婦間での分担についてどのようにお考えですか。① ～⑤ の項目ごとに、＜A 理想＞と＜B 現実＞それぞれにあてはまるものを 1 つずつ選んで、数字に○をつけてください。

＜A 理想＞＜B 現実＞の比較

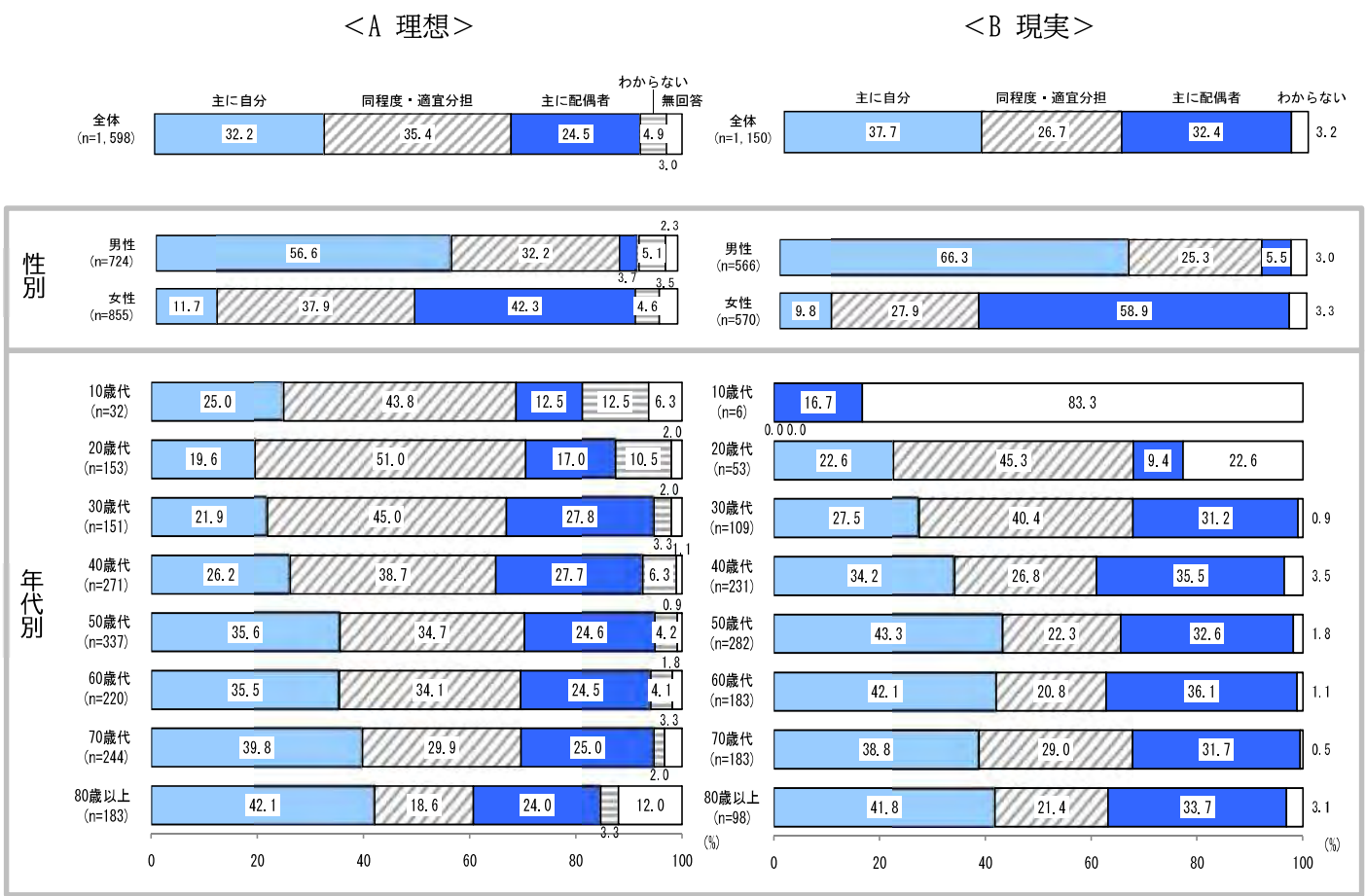
※ ＜B 現実＞は、① ・② は配偶者のいる方（事実婚及びパートナーシップ含む）、③ 子どもがいる方のみが答える設問であるため、無回答を除いたサンプルのみ（① 生活費の負担：1,150 件、② 家事：1,147 件、③ 家事・子育て：899 件）を集計しています。

① 生活費の負担

全体では、理想で「同程度・適宜分担」が 35.4%と最も高い一方で、現実では 26.7%と 8.7 ポイント低くなっている。

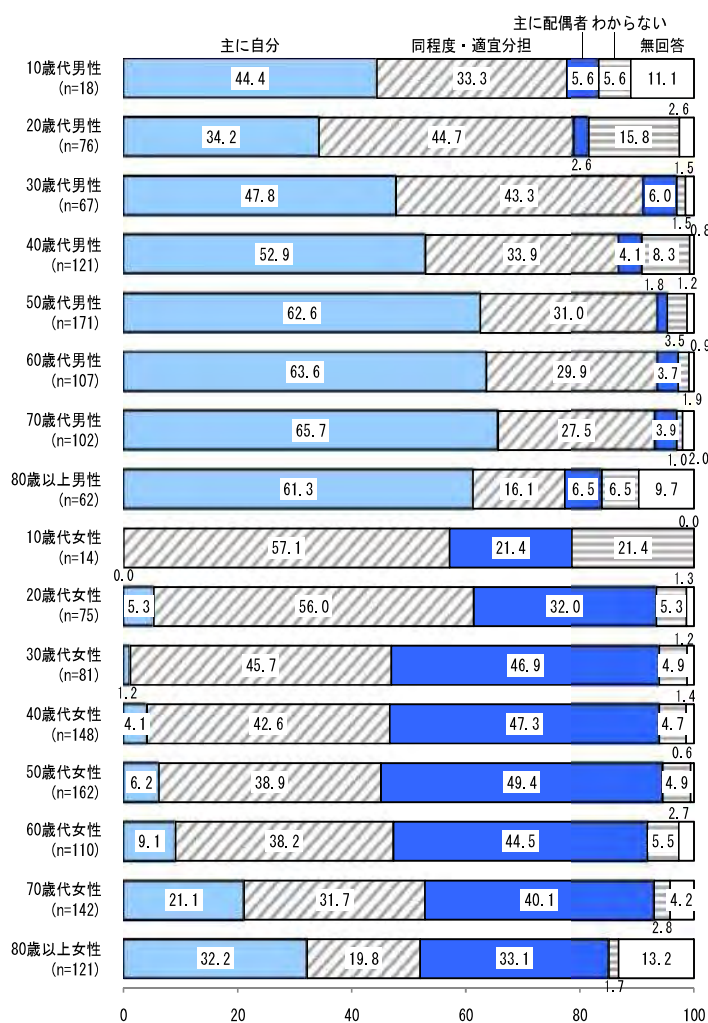
性別では、男性で理想と現実ともに「主に自分」が最も高く、女性で理想と現実ともに「主に配偶者」が最も高くなっている。

年代別では、20 歳代と 30 歳代で理想と現実ともに「同程度・適宜分担」が最も高くなっている。

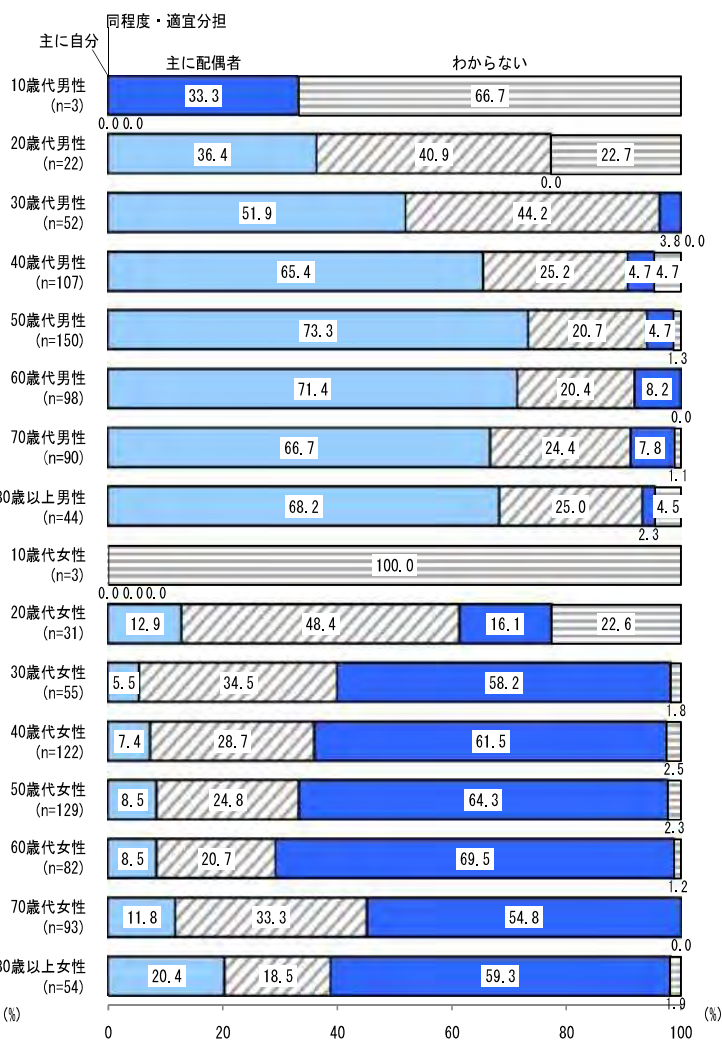


性年代別では、20 歳代の男性と女性で理想と現実ともに「同程度・適宜分担」が最も高くなっている。30 歳以上の男性では「主に自分」を理想とする割合が4 割を超え最も高く、現実でも「主に自分」が5 割を超え最も高くなっている。また 30 歳代から 70 歳代の女性では「主に配偶者」を理想とする割合が4 割を超え最も高く、現実でも「主に配偶者」が5 割を超え最も高くなっている。一方で、50 歳代の男性、30 歳代から 60 歳代の女性では、「同程度・適宜分担」を理想とする割合から現実の割合で 10 ポイント以上低くなっている。

<A 理想>



<B 現実>



理想の役割分担別では、男性において「同程度・適宜分担」を理想としている人のうち 59.0%が現実でも「同程度・適宜分担」と答えているものの、34.4%は現実では「主に自分」が負担していると回答している。女性においては「同程度・適宜分担」を理想としている人のうち 51.4%が現実でも「同程度・適宜分担」と答えているものの、38.1%は「主に配偶者」が負担していると回答している。

(%)

男性		現実				
		調査数	主に自分	同程度・ 適宜分担	主に配偶者	わからない
理想	市全体	566	66.3	25.3	5.5	3.0
	主に自分	340	① 87.9	② 7.4	③ 3.2	1.5
	同程度・適宜分担	183	② 34.4	① 59.0	③ 4.9	1.6
	主に配偶者	20	③ 20.0	② 30.0	① 50.0	-
	わからない	16	② 31.3	③ 6.3	③ 6.3	① 56.3

女性		現実				
		調査数	主に自分	同程度・ 適宜分担	主に配偶者	わからない
理想	市全体	570	9.8	27.9	58.9	3.3
	主に自分	32	① 71.9	② 18.8	③ 6.3	3.1
	同程度・適宜分担	218	③ 8.3	① 51.4	② 38.1	2.3
	主に配偶者	294	③ 3.7	② 13.3	① 81.6	1.4
	わからない	15	③ 13.3	-	② 26.7	① 60.0

② 家事

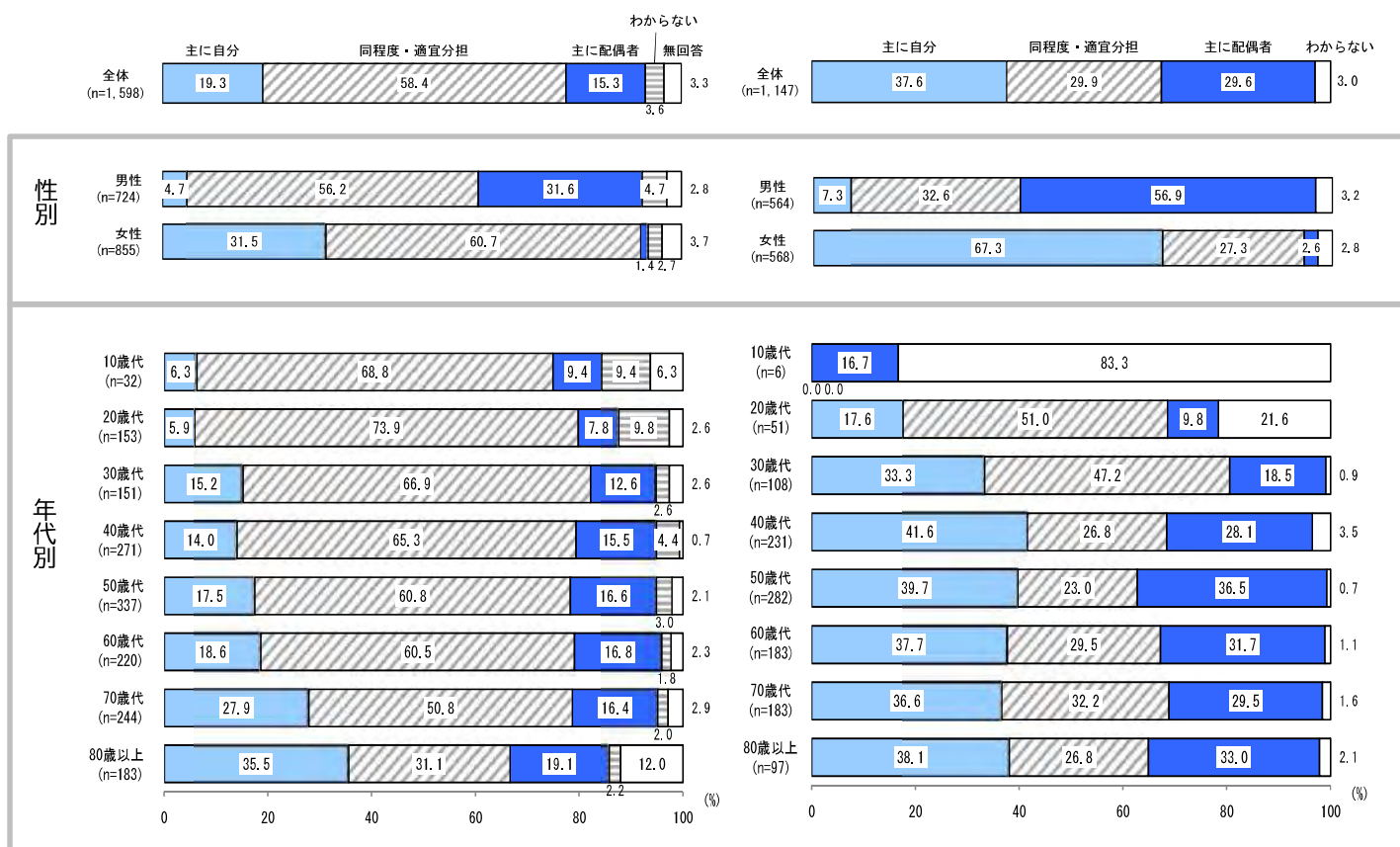
全体では、理想で「同程度・適宜分担」が58.4%と最も高い一方で、現実では29.9%と28.5ポイント低くなっている。

性別では、男女ともに「同程度・適宜分担」を理想とする割合が最も高い一方で、現実では男性で「主に配偶者」、女性で「主に自分」が最も高くなっている。

年代別では、10歳代から70歳代で「同程度・適宜分担」を理想とする割合が最も高くなっているものの、年代が高い程、割合が低くなる傾向がみられる。現実では、20歳代と30歳代で「同程度・適宜分担」が最も高いものの、その他の年代では4割未満となっている。

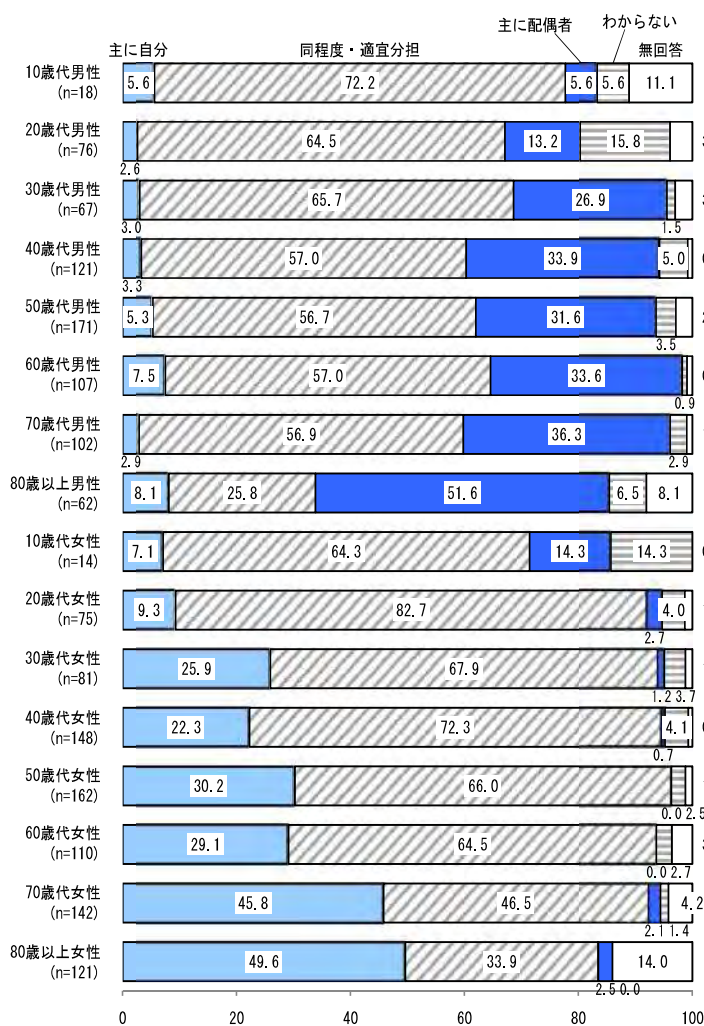
<A 理想>

<B 現実>

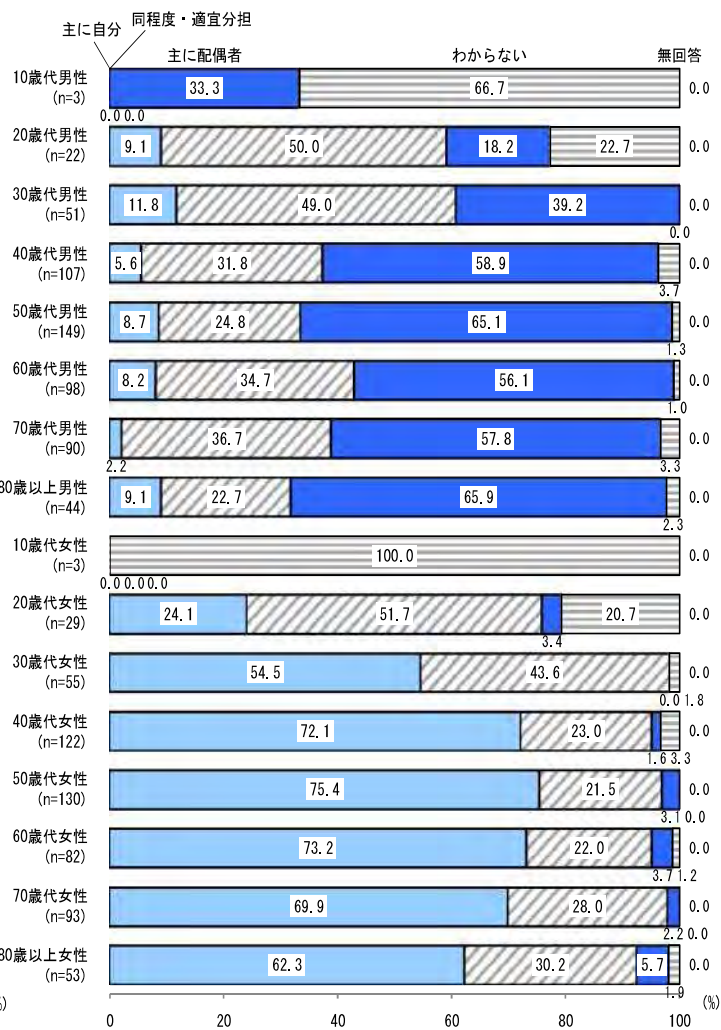


性年代別では、男性で概ね年代が高い程「主に配偶者」を理想とする割合が高くなる傾向がみられ、女性では概ね年代が高い程「主に自分」を理想とする割合が高くなる傾向がみられる。一方で、男女ともに 10 歳代から 70 歳代で「同程度・適宜分担」を理想とする割合が最も高くなっている。現実では男性の 40 歳以上で「主に配偶者」が 5 割を超え最も高く、女性では 30 歳以上で「主に自分」が 5 割を超え最も高くなっている。特に女性の 40 歳代から 60 歳代では、「同程度・適宜分担」を理想とする割合から現実の割合で 40 ポイント以上低くなっている。

<A 理想>



<B 現実>



理想の役割分担別では、男性において「同程度・適宜分担」を理想としている人のうち 50.8%が現実でも「同程度・適宜分担」と答えているものの、42.0%は現実では「主に配偶者」が負担していると回答している。一方、女性において「同程度・適宜分担」を理想としている人のうち 62.1%が「主に自分」が負担していると回答している。

(%)

		現実				
		調査数	主に自分	同程度・適宜分担	主に配偶者	わからない
理想	市全体	564	7.3	32.6	56.9	3.2
	主に自分	17	① 94.1	－	－	② 5.9
	同程度・適宜分担	319	③ 5.3	① 50.8	② 42.0	1.9
	主に配偶者	204	③ 2.5	② 8.3	① 87.7	1.5
	わからない	17	③ 5.9	③ 5.9	② 41.2	① 47.1

		現実				
		調査数	主に自分	同程度・適宜分担	主に配偶者	わからない
理想	市全体	568	67.3	27.3	2.6	2.8
	主に自分	158	① 84.8	② 12.0	③ 3.2	－
	同程度・適宜分担	380	① 62.1	② 34.7	1.3	③ 1.8
	主に配偶者	7	② 14.3	② 14.3	① 57.1	② 14.3
	わからない	14	② 42.9	－	－	① 57.1

③ 育児・子育て

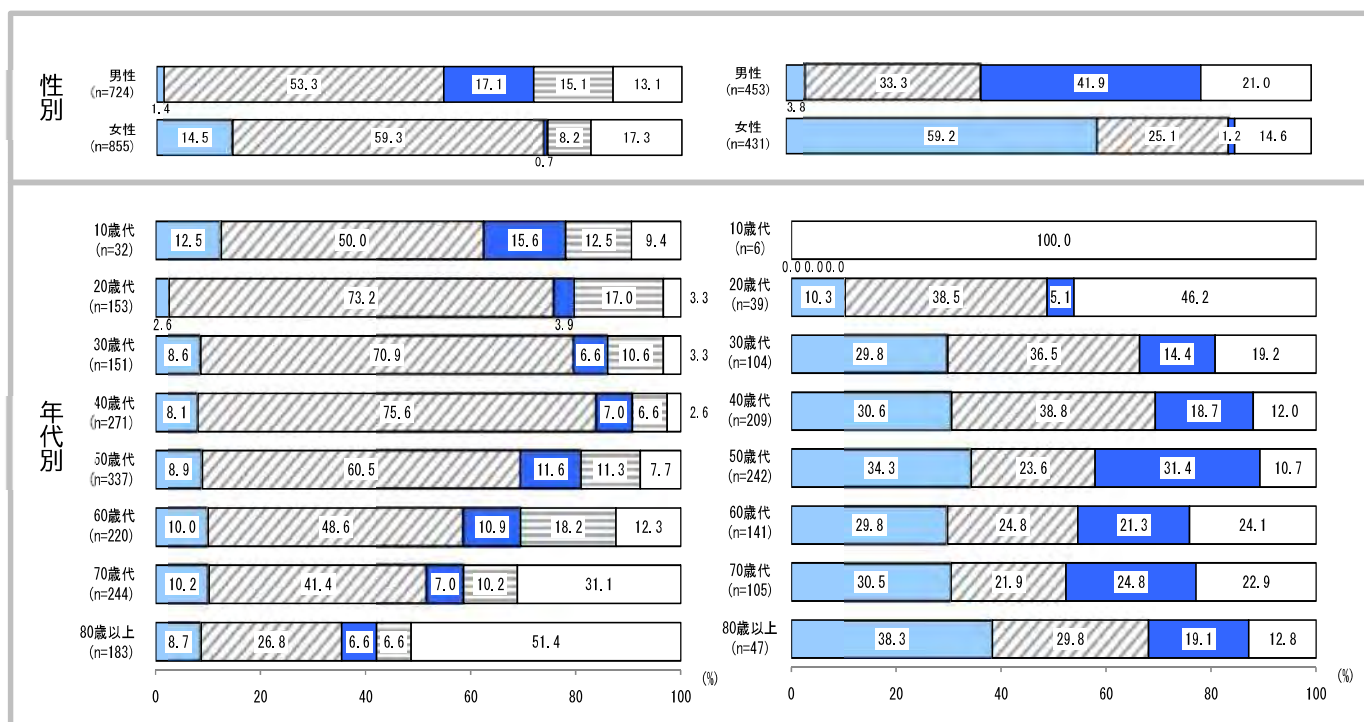
全体では、理想で「同程度・適宜分担」が56.6%と最も高い一方で、現実では29.3%と27.3ポイント低くなっている。

性別では、男女ともに「同程度・適宜分担」を理想とする割合が最も高くなっている一方で、現実では男性で「主に配偶者」、女性で「主に自分」が最も高くなっている。

年代別では、全ての年代で「同程度・適宜分担」を理想とする割合が最も高くなっている（無回答を除く）。現実では20歳代から40歳代で「同程度・適宜分担」、50歳以上で「主に自分」が最も高くなっている。

<A 理想>

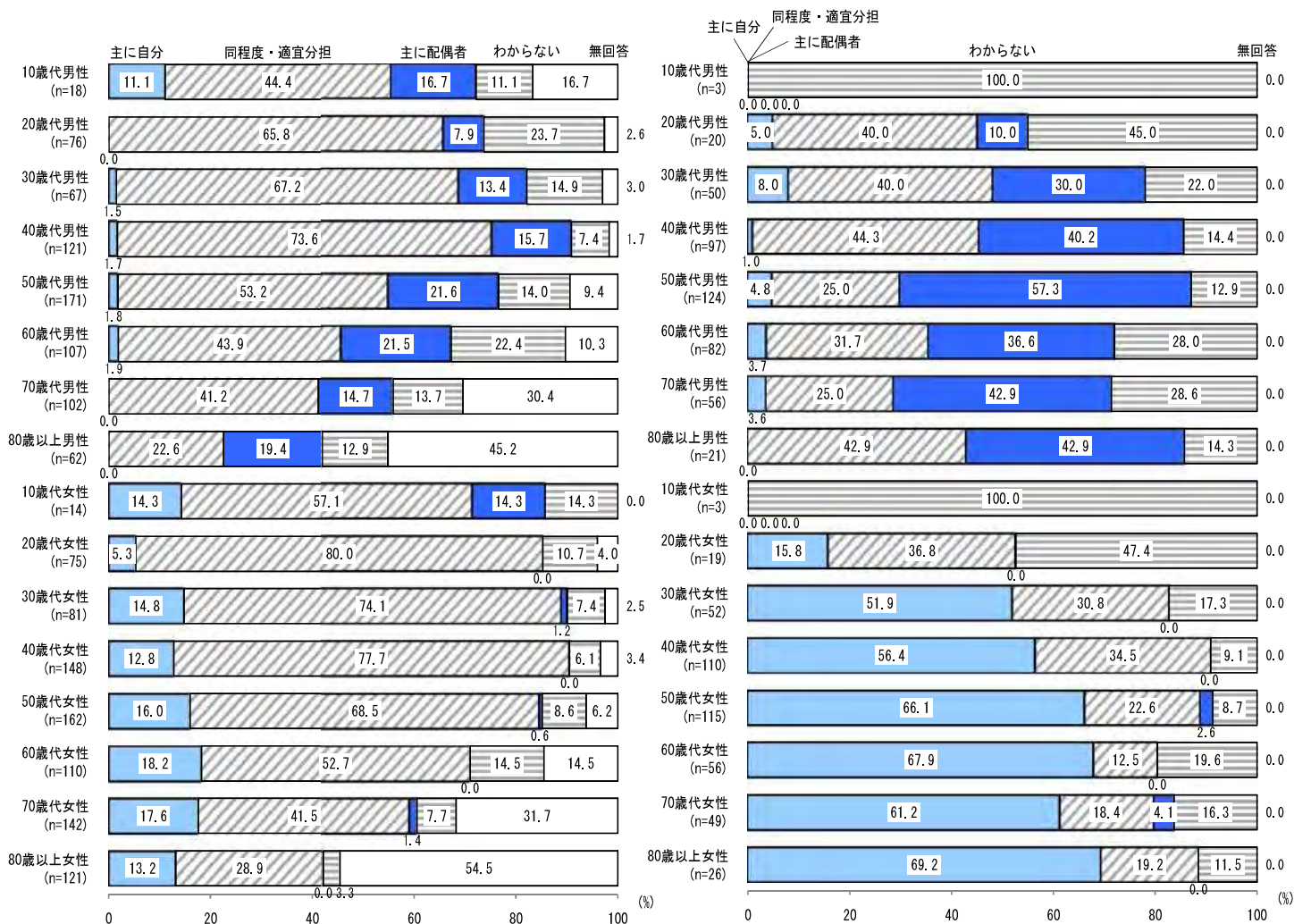
<B 現実>



性年代別では、男女ともに全ての年代で「同程度・適宜分担」が最も高くなっているものの、40歳代を境に減少する傾向がみられる。現実では男性の50歳以上で「主に配偶者」、女性の30歳以上で「主に自分」が最も高くなっている。特に女性の20歳代から60歳代では、「同程度・適宜分担」を理想とする割合から現実の割合で40ポイント以上低くなっている。

<A 理想>

<B 現実>



理想の役割分担別では、男性において「同程度・適宜分担」を理想としている人のうち 51.1%が現実でも「同程度・適宜分担」と答えているものの、37.7%は現実では「主に配偶者」が負担していると回答している。一方、女性において「同程度・適宜分担」を理想としている人のうち 59.6%が「主に自分」が負担していると回答している。

(%)

男性		現実				
		調査数	主に自分	同程度・ 適宜分担	主に配偶者	わからない
理想	市全体	453	3.8	33.3	41.9	21.0
	主に自分	6	① 83.3	② 16.7	-	-
	同程度・適宜分担	268	3.0	① 51.1	② 37.7	③ 8.2
	主に配偶者	98	2.0	② 9.2	① 85.7	③ 3.1
	わからない	73	-	③ 2.7	② 4.1	① 93.2

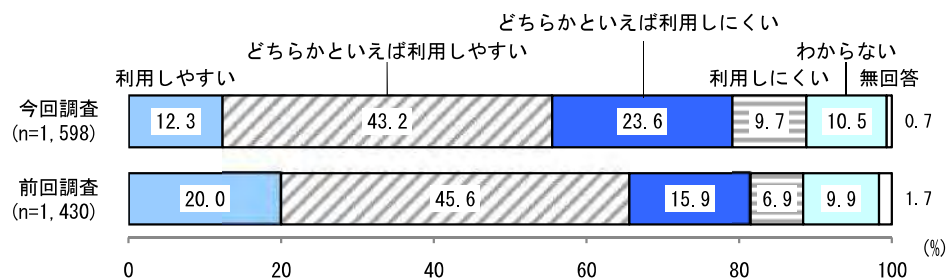
女性		現実				
		調査数	主に自分	同程度・ 適宜分担	主に配偶者	わからない
理想	市全体	431	59.2	25.1	1.2	14.6
	主に自分	77	① 92.2	② 5.2	③ 2.6	-
	同程度・適宜分担	302	① 59.6	② 32.8	0.3	③ 7.3
	主に配偶者	4	-	-	① 50.0	① 50.0
	わからない	44	② 6.8	③ 4.5	-	① 88.6

問 18 市役所の手続の利便性

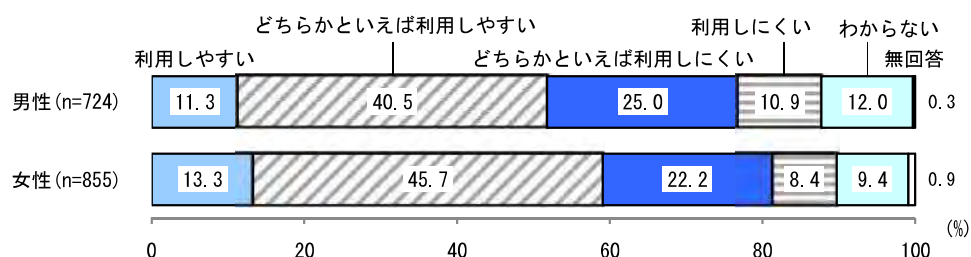
問 18 あなたは、市役所への届け出や書類申請などの手続についてどのように感じていますか。
次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

全体では、「どちらかといえば利用しやすい」が43.2%で最も高く、「どちらかといえば利用しにくい」が23.6%、「利用しやすい」が12.3%と続いている。

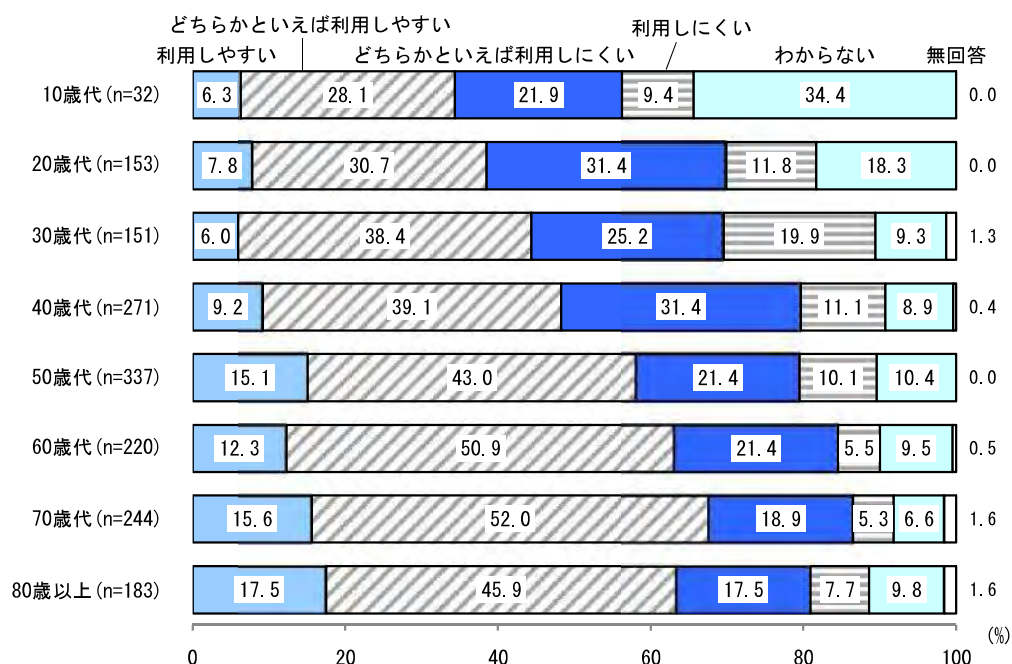
前回調査と比較すると、『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」+「利用しにくい」）と思う割合が10.5ポイント増加している。



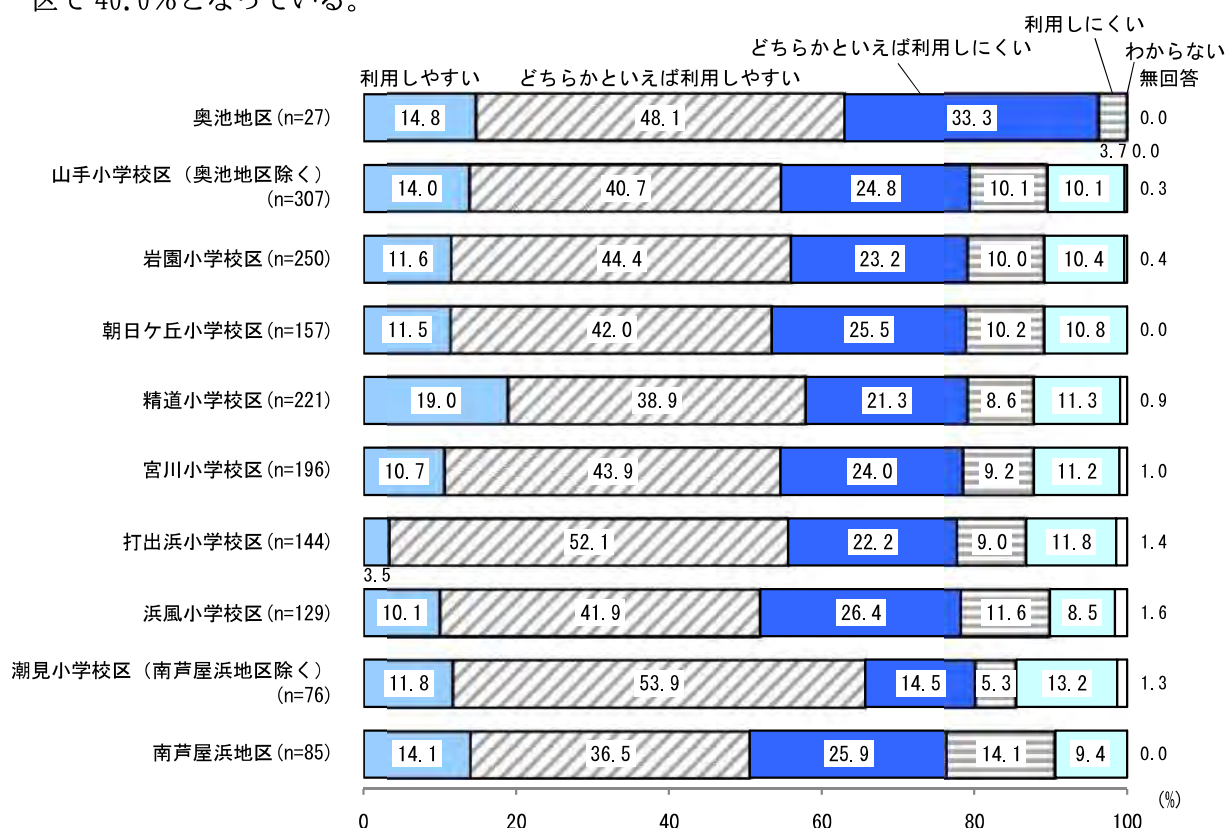
性別では、女性で『利用しやすい』（「利用しやすい」+「どちらかといえば利用しやすい」）と思う割合が59.0%と男性より7.2ポイント高くなっている。



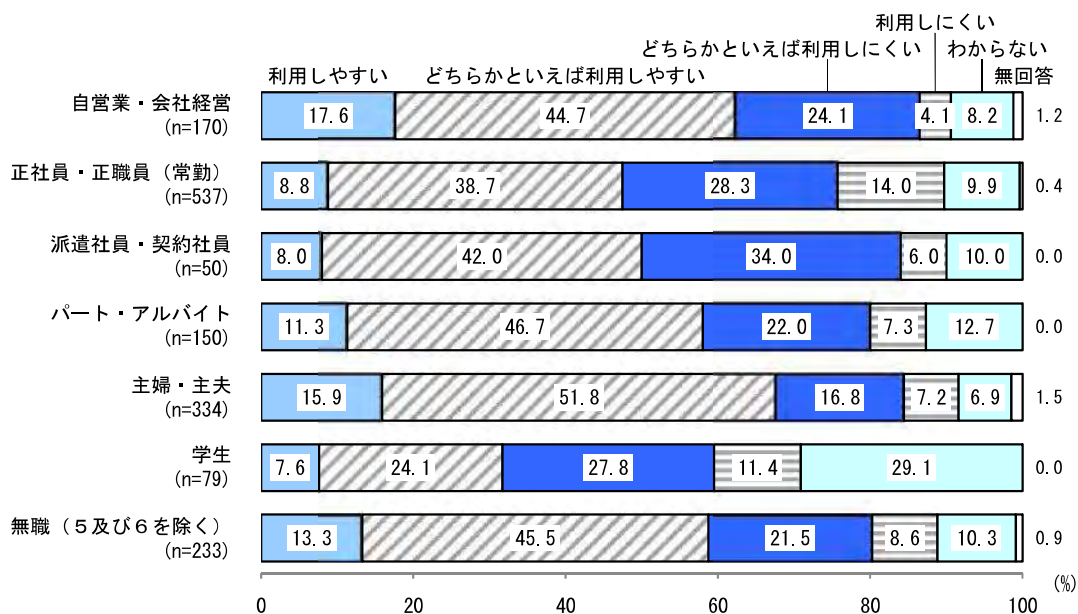
年代別では、概ね年代が高い程、市役所手続きが『利用しやすい』（「利用しやすい」＋「どちらかという」と利用しやすい）」と思う割合が高くなっている。一方で、20歳代と30歳代で『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」＋「利用しにくい」）が『利用しやすい』を上回っている。



地区別では、市役所手続きが『利用しやすい』（「利用しやすい」＋「どちらかといえば利用しやすい」）と思う割合は潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で 65.7%と最も高くなっている。一方で、『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」＋「利用しにくい」）と思う割合は南芦屋浜地区で 40.0%となっている。



職業別では、自営業・会社経営、主婦・主夫で『利用しやすい』（「利用しやすい」＋「どちらかといえば利用しやすい」）と思う割合が6割を超えている一方で、正社員・正職員（常勤）、派遣社員・契約社員では『利用しにくい』（「どちらかといえば利用しにくい」＋「利用しにくい」）と思う割合が4割を超え、全体より5ポイント以上高くなっている。



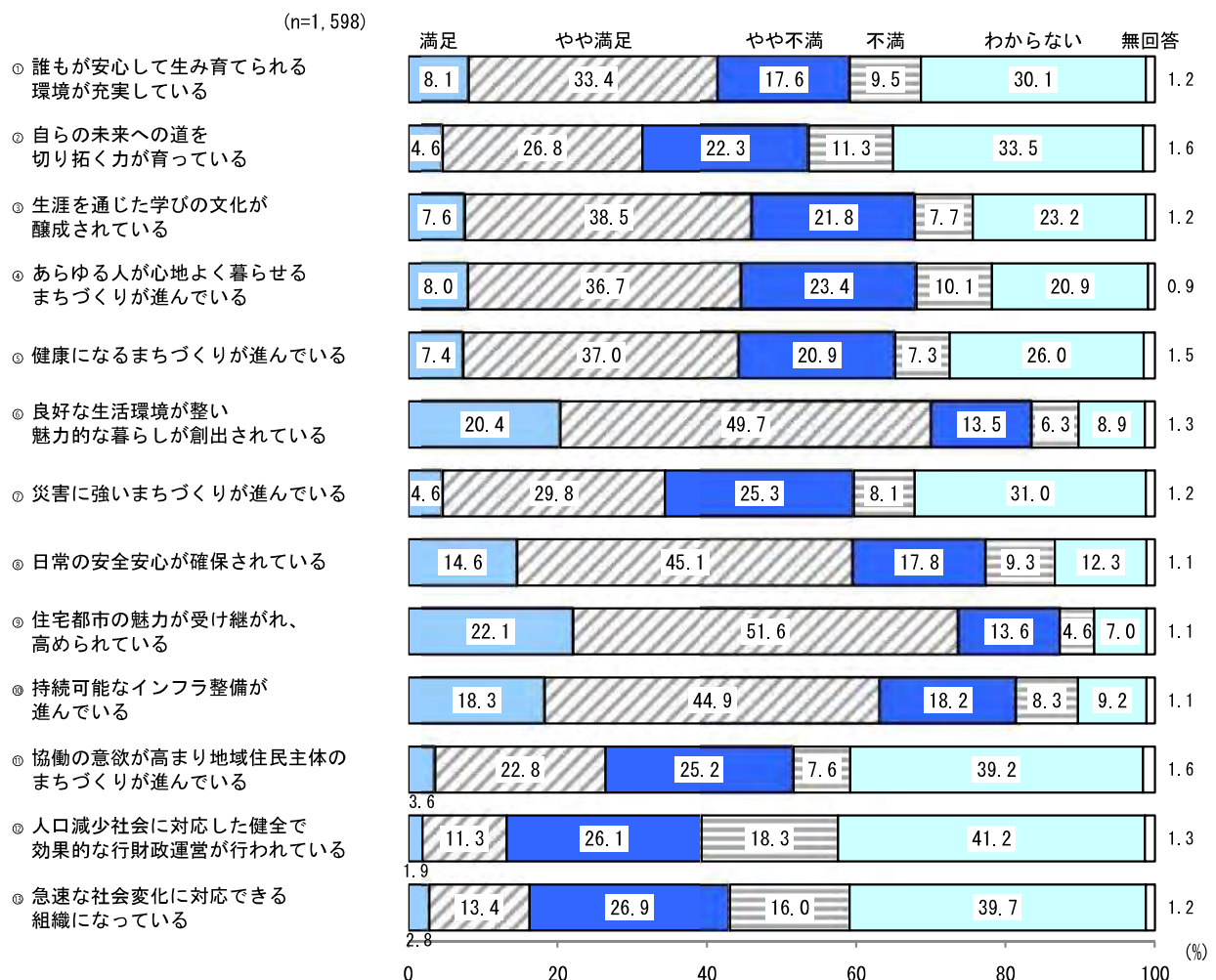
Ⅲ. 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについておたずねします。

問 1 9 第 5 次 芦 屋 市 総 合 計 画 の 各 施 策 の 満 足 度

問 1 9 下表に示す 1 3 の項目は、第 5 次 芦 屋 市 総 合 計 画（令和 3 年度～令和 1 2 年度）の基本構想に掲げる施策の目標です。1 3 項目それぞれについて、芦屋市の現状をどのように感じていますか。各項目についてあなたの考えに最も近いものを 1 ～ 5 から 1 つずつ選び、数字に○をつけてください。

全体では、「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的意見は「㊦ 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」が 73.7%で最も高く、「㊥ 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている」が 70.1%、「㊩ 持続可能なインフラ整備が進んでいる」が 63.2%、「㊧ 日常の安全安心が確保されている」が 59.7%と続いている。

「やや不満」と「不満」を合わせた否定的意見は「㊨ 人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている」が 44.4%で最も高く、「㊩ 急速な社会変化に対応できる組織になっている」が 42.9%、「㊦ 自らの未来への道を切り拓く力が育っている」が 33.6%、「㊤ あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる」が 33.5%と続いている。



■ 評点と重要度による散布図の提示

13 項目の施策目標について、

- ・縦軸を満足度とし、「満足」に 4 点、「やや満足」に 3 点、「やや不満」に 2 点、「不満」に 1 点の係数をかけ、母数（選択した回答者の数）で割って平均した評点を示す。
- ・横軸を重要度とし、問 21 において 13 項目の中から選ばれた、今後重要と考える分野（3 つ選択）の出現率を示す。

■ 評点と重要度からみた施策への評価

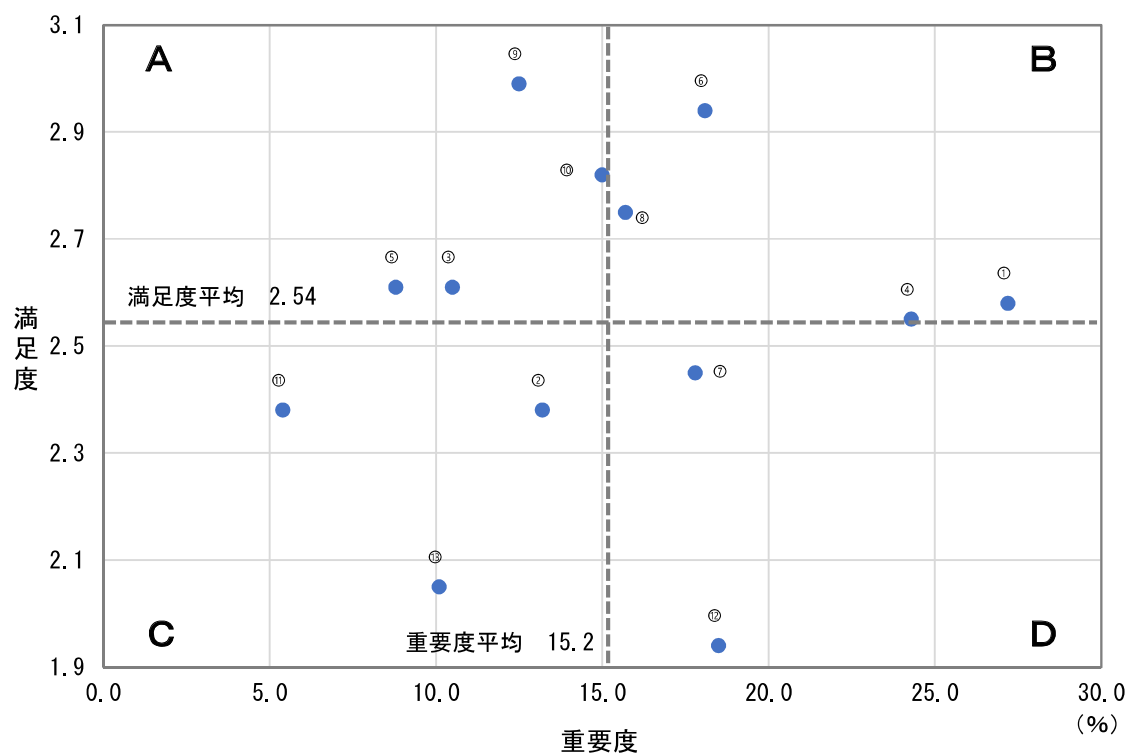
上記の散布図を平均値で 4 象限に区分し、相対的な位置づけを明らかにする。

象限 A... 満足度が高く、重要度が低い⇒ 施策が評価され、緊急性は低いと意識される分野

象限 B... 満足度・重要度ともに高い⇒ 施策が評価されているが、さらに発展が求められる分野

象限 C... 満足度・重要度ともに低い⇒ 施策への評価は低く、関心も低い分野

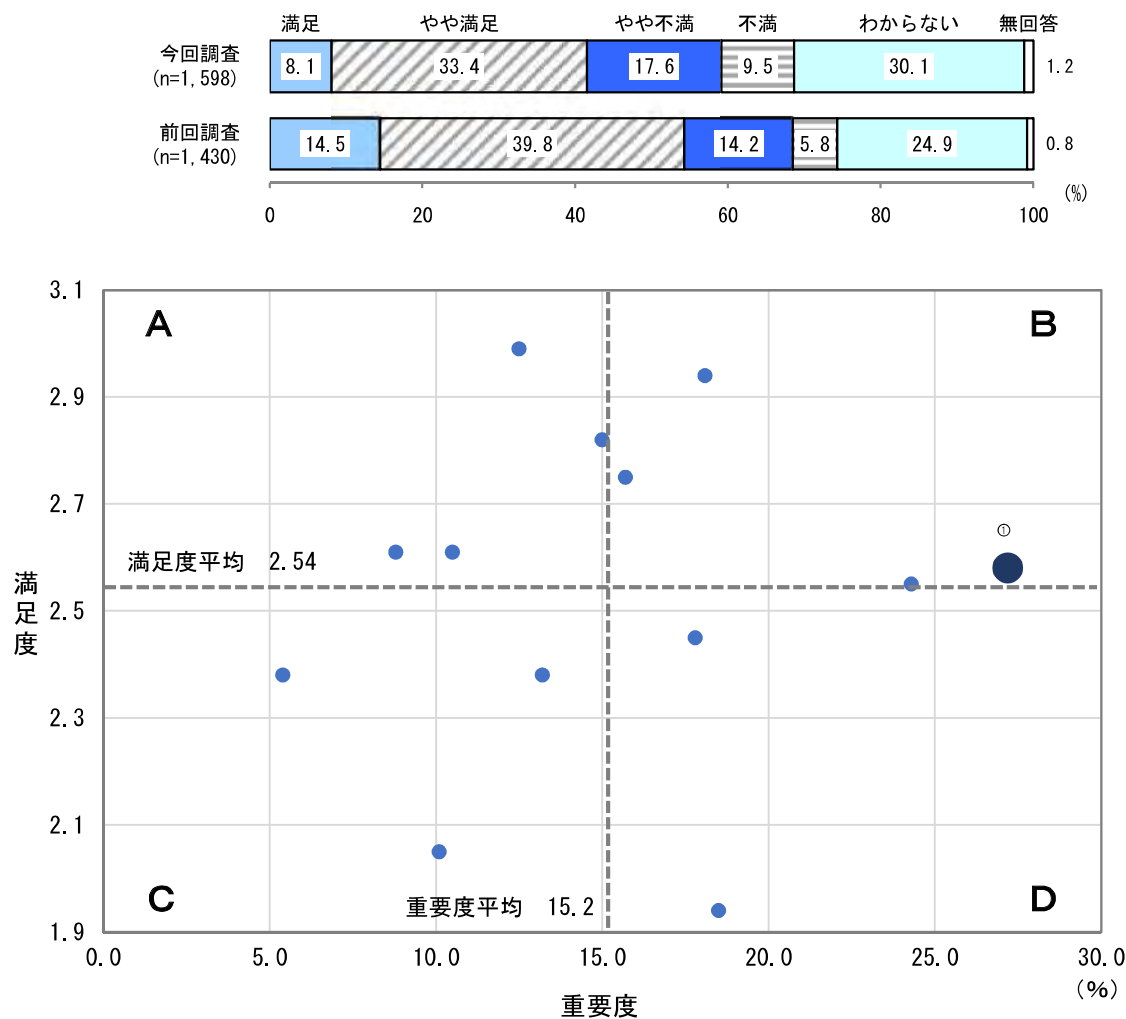
象限 D... 満足度が低く、重要度が高い⇒ 施策への評価が低く、重点的な取組が求められる分野



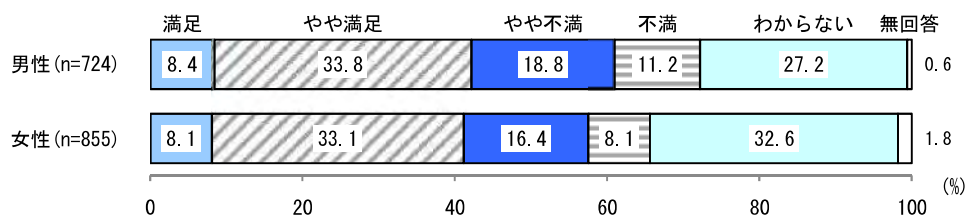
⑩ 誰もが安心して生み育てられる環境が充実している

全体では、「やや満足」が33.4%で最も高く、「満足」8.1%と合わせた肯定的意見は41.5%となっている。一方で、「やや不満」17.6%、「不満」9.5%を合わせた否定的意見は27.1%となっている。

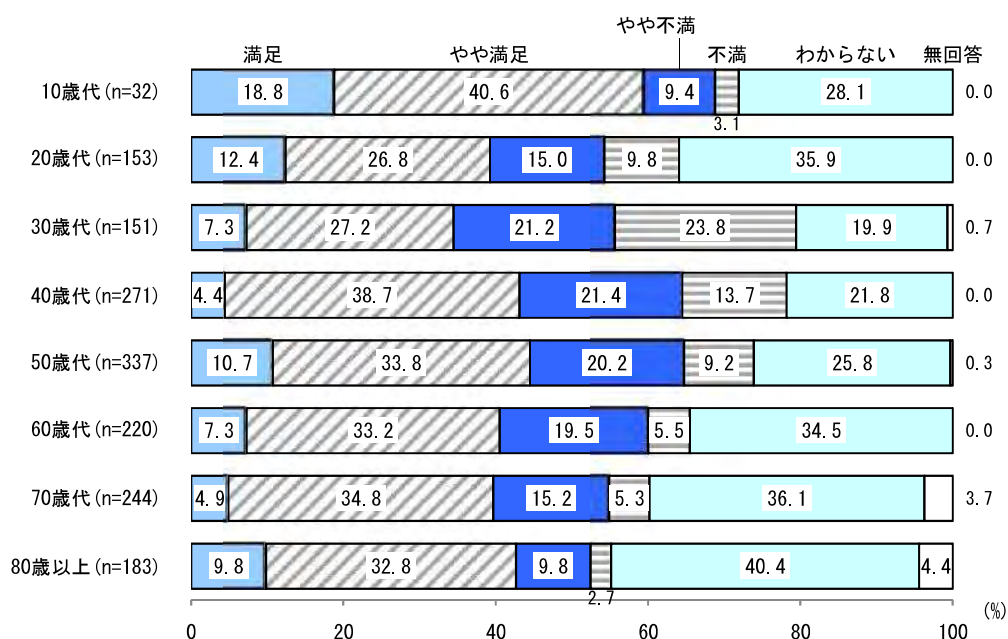
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より12.8ポイント低くなっている。



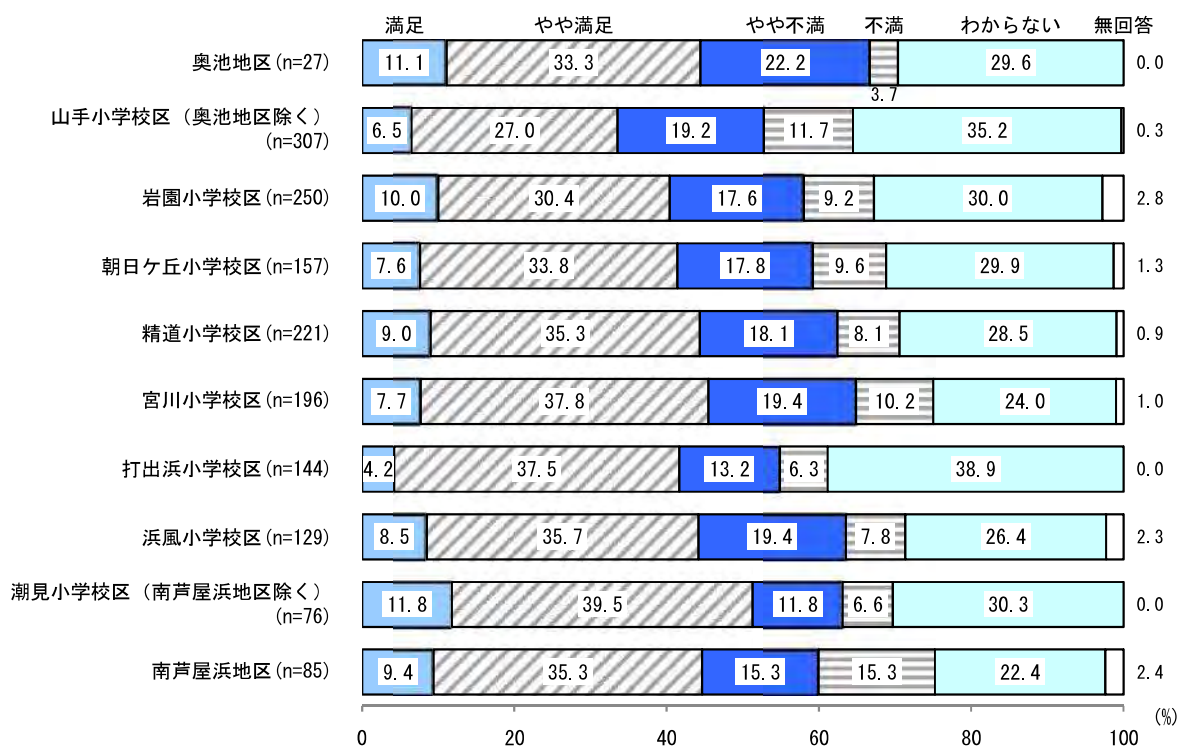
性別で大きな差はみられない。



年代別では、「不満」が30歳代で2割を超え最も高くなっており、「やや不満」を合わせた否定的意見は45.0%と全体より17.9ポイント高くなっている。また、「わからない」が30歳代で19.9%と全体より10.2ポイント低くなっている。



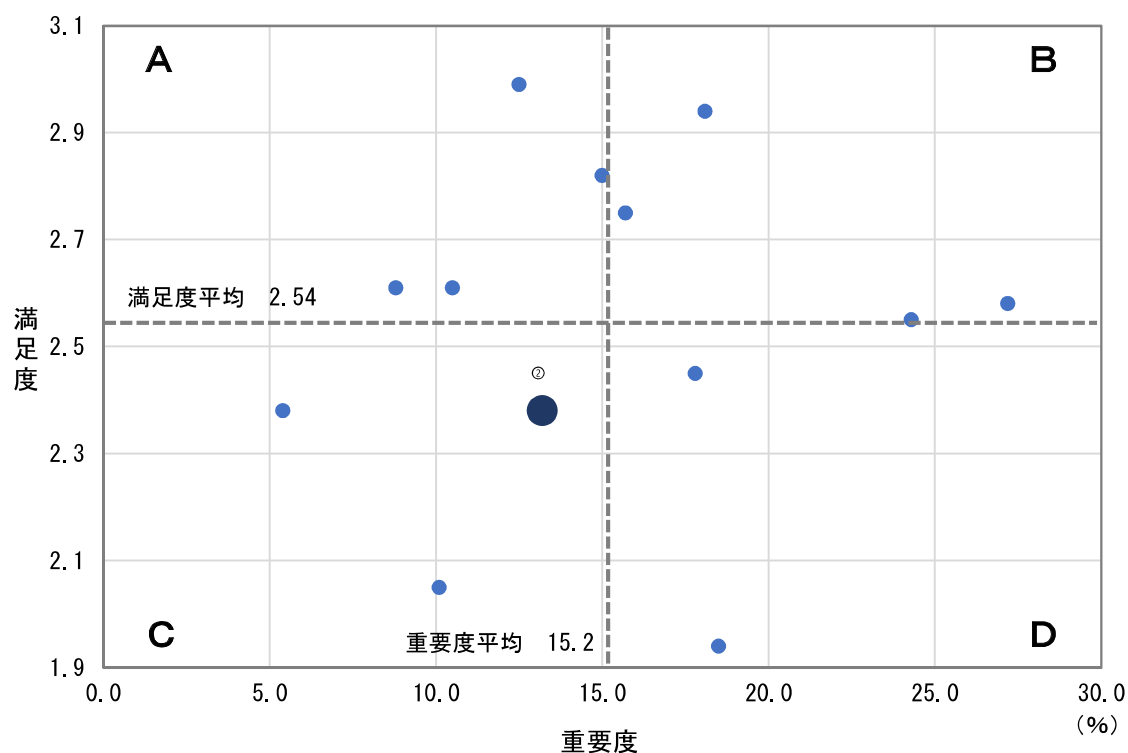
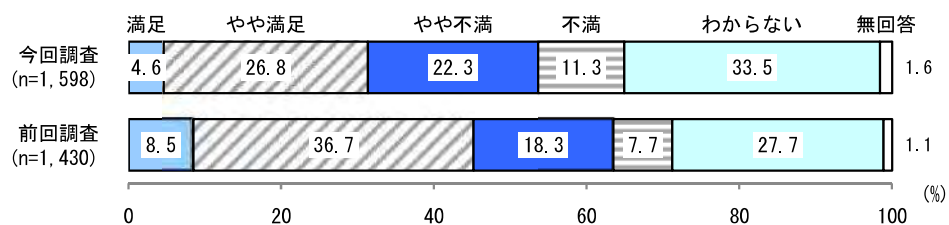
地区別では、「やや満足」が山手小学校区（奥池地区除く）で低くなっており、「満足」と合わせた肯定的意見は33.5%と最も低くなっている。



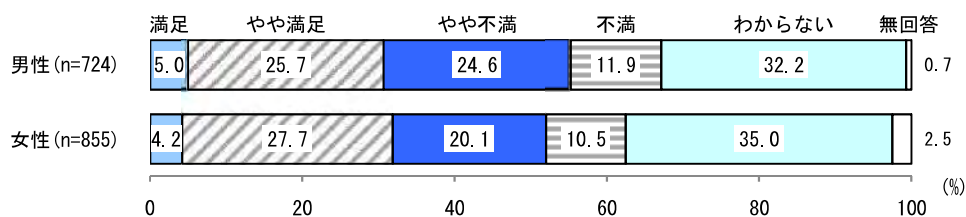
㊦ 自らの未来への道を切り拓く力が育っている

全体では、「わからない」が33.5%で最も高くなっている。「満足」4.6%、「やや満足」26.8%を合わせた肯定的意見は31.4%となっている一方で、「やや不満」22.3%、「不満」11.3%を合わせた否定的意見は33.6%となっている。

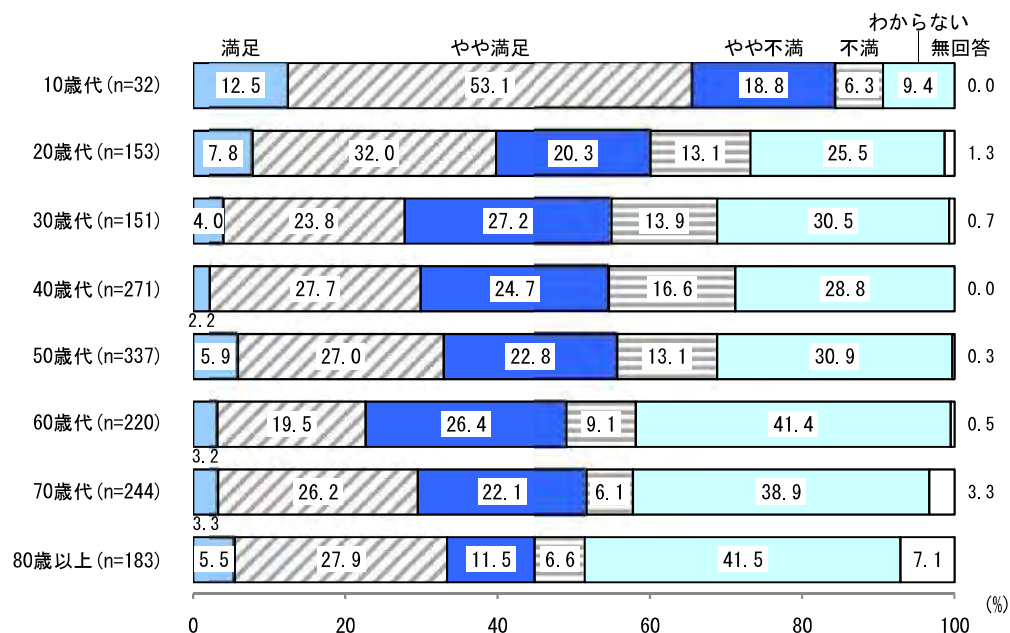
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より13.8ポイント低くなっている。



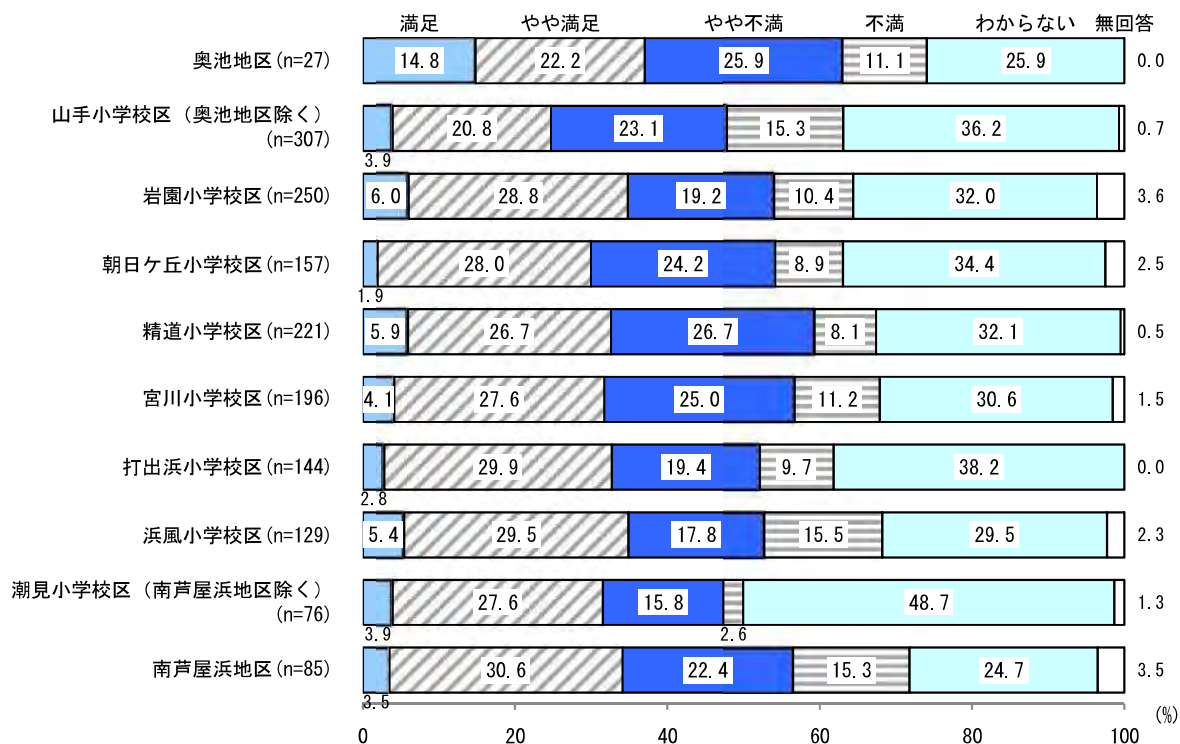
性別では、男性で否定的意見が36.5%と女性より5.9ポイント高くなっている。



年代別では、30 歳代と 40 歳代で否定的意見が 4 割を超えている。



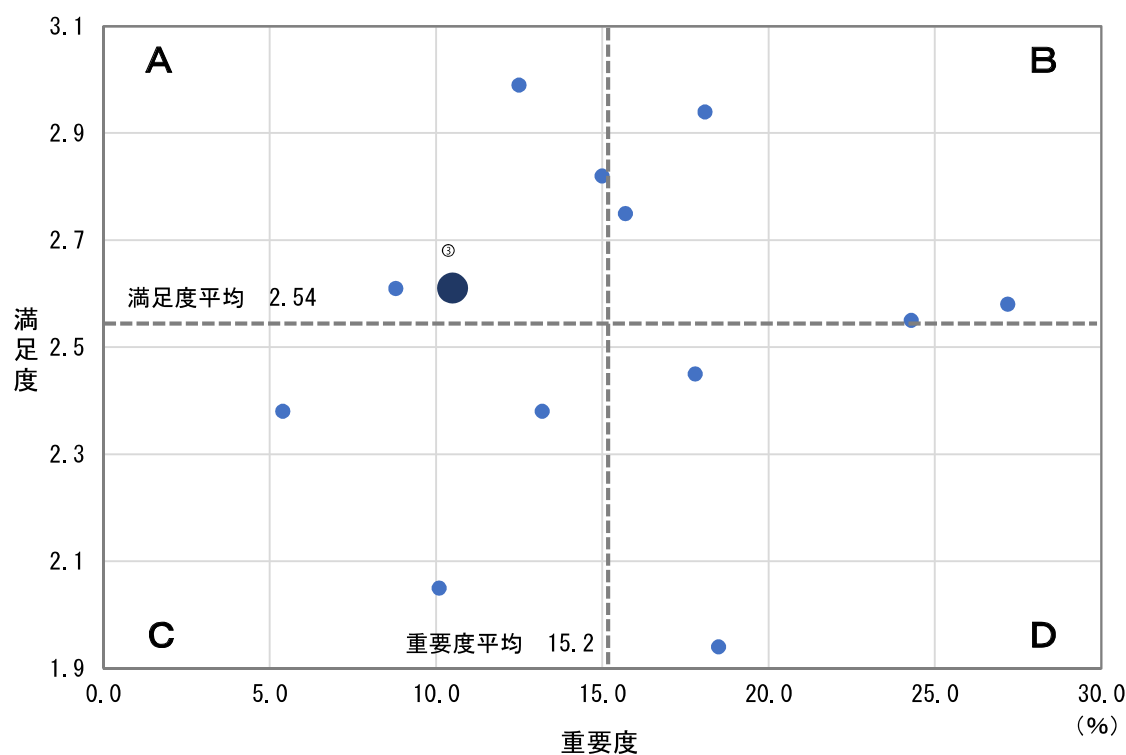
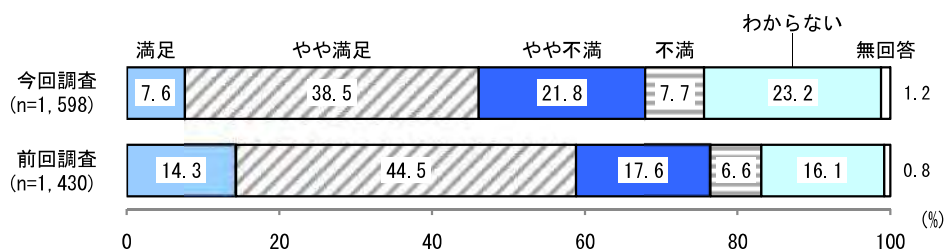
地区別では、「満足」が奥池地区で 1 割を超えているものの、「やや満足」と合わせた肯定的意見に大きな差はみられない。また、「わからない」が潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）で 5 割近くを占め高くなっている。



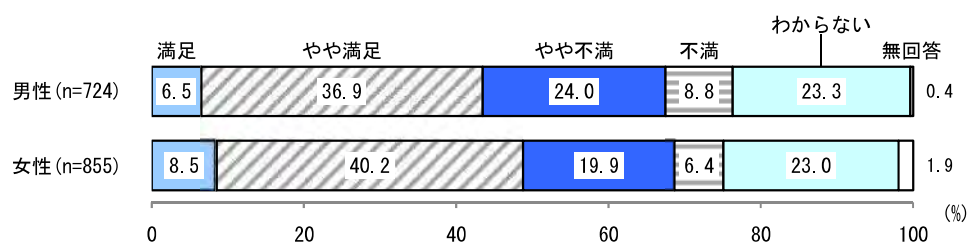
③ 生涯を通じた学びの文化が醸成されている

全体では、「やや満足」が38.5%で最も高く、「満足」7.6%と合わせた肯定的意見は46.1%となっている。一方で、「やや不満」21.8%、「不満」7.7%を合わせた否定的意見は29.5%となっている。

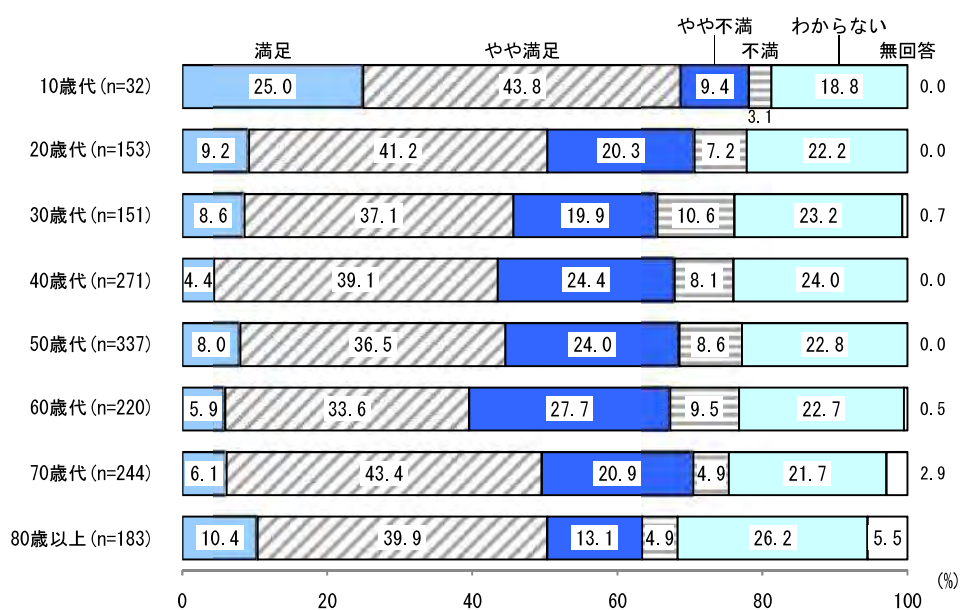
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より12.7ポイント低くなっている。



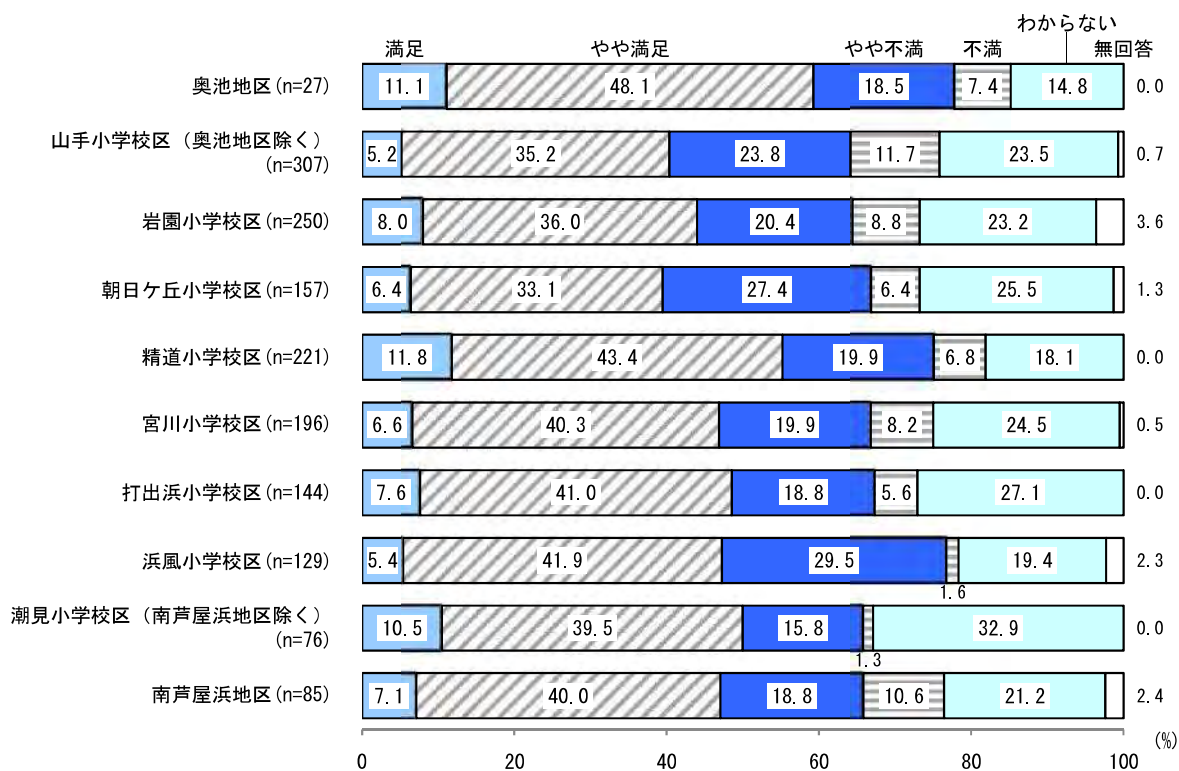
性別では、男性で否定的意見が32.8%と女性より6.5ポイント高くなっている。



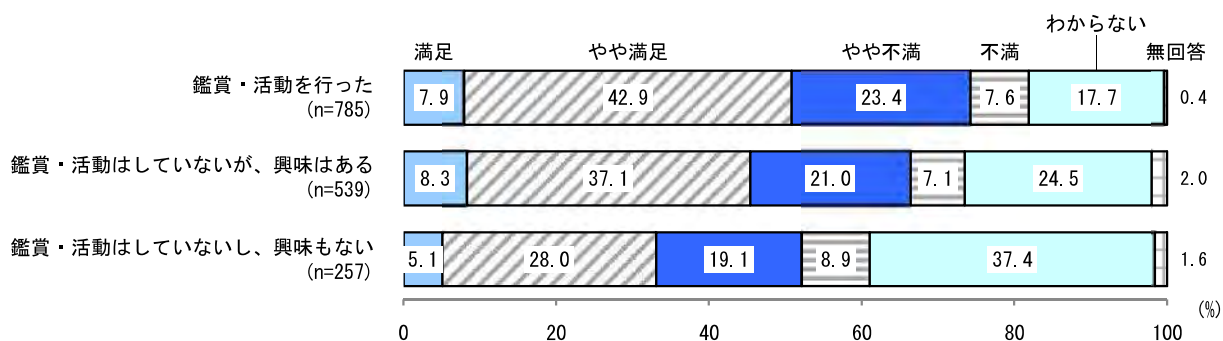
年代別では、否定的意見が30歳代から60歳代で3割を超えている。



地区別では、肯定的意見について奥池地区で59.2%と6割近くを占め、全体より13.1ポイント高くなっている。



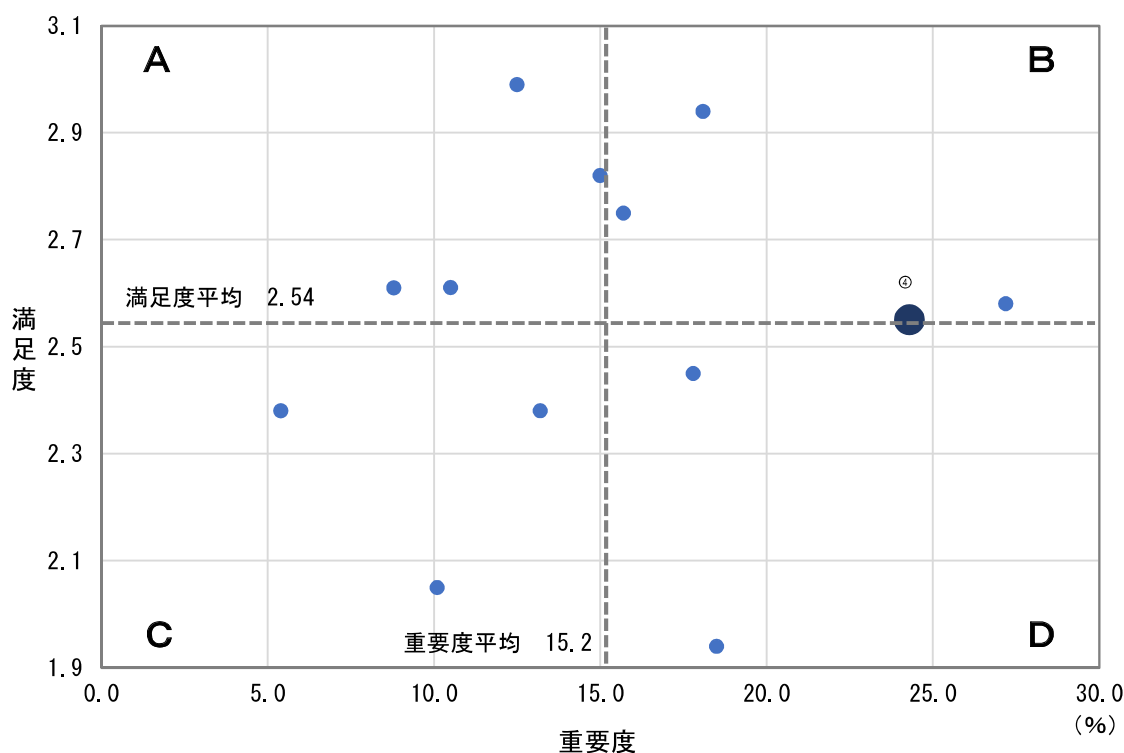
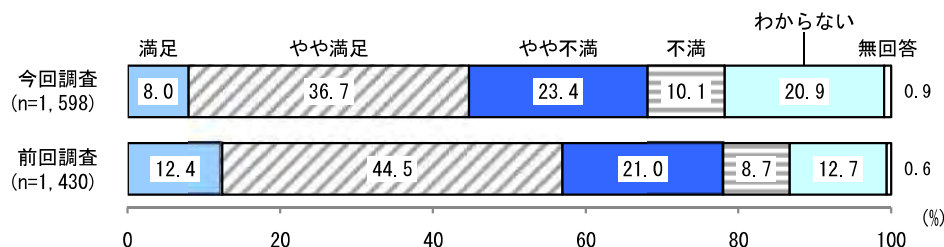
過去1年間で文化的活動の有無別では、鑑賞・活動を行った人で肯定的意見が50.8%と5割を占めている一方で、鑑賞・活動はしていないし、興味もない人では33.1%と4割未満となっている。



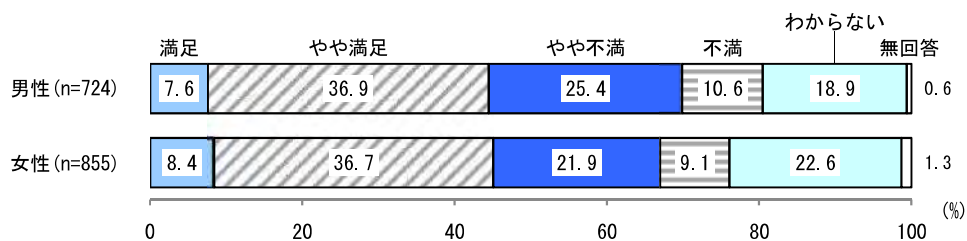
④ あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる

全体では、「やや満足」が36.7%で最も高く、「満足」8.0%と合わせた肯定的意見は44.7%となっている。一方で、「やや不満」23.4%、「不満」10.1%を合わせた否定的意見は33.5%となっている。

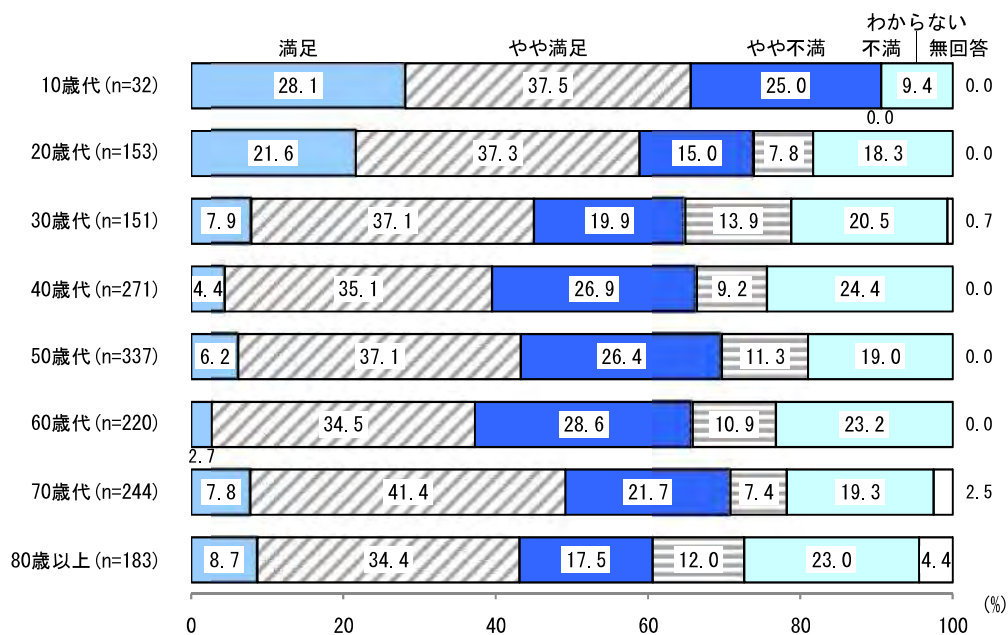
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より12.2ポイント低くなっている。



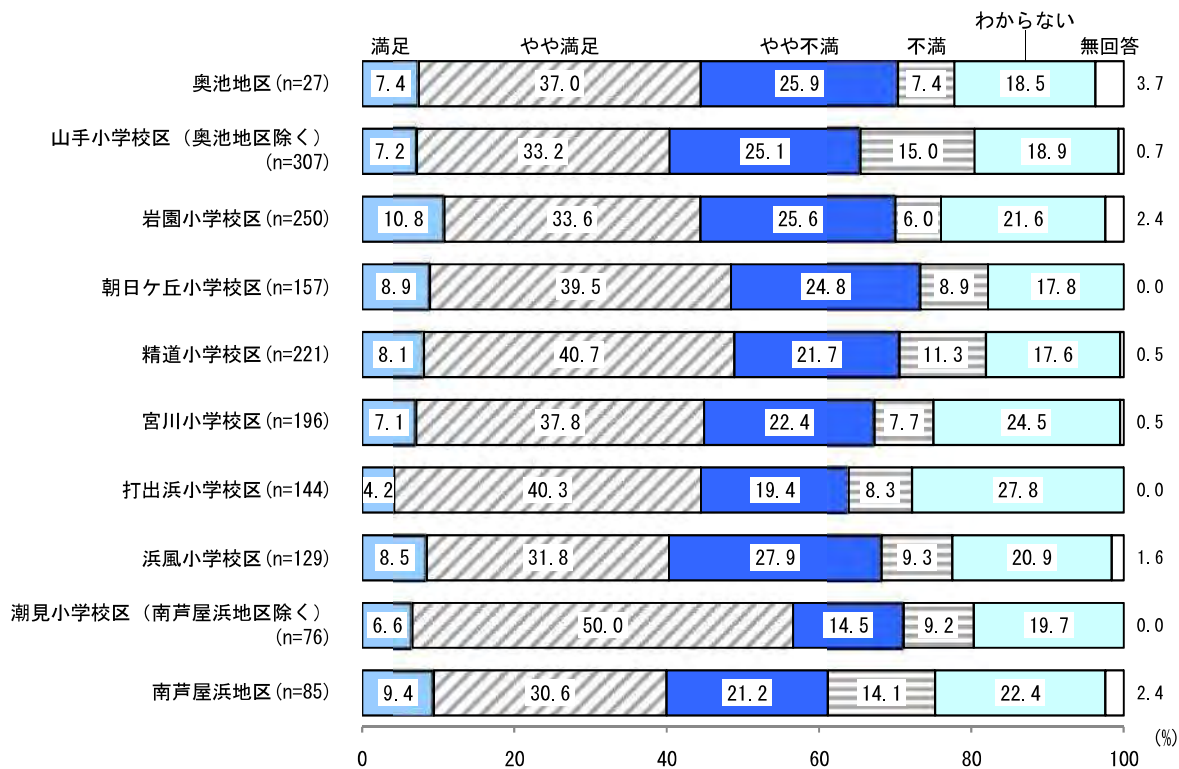
性別では、男性で否定的意見が36.0%と女性より5.0ポイント高くなっている。



年代別では、10 歳代と 20 歳代で「満足」が 2 割を超え、全体より 10 ポイント以上高くなっている。



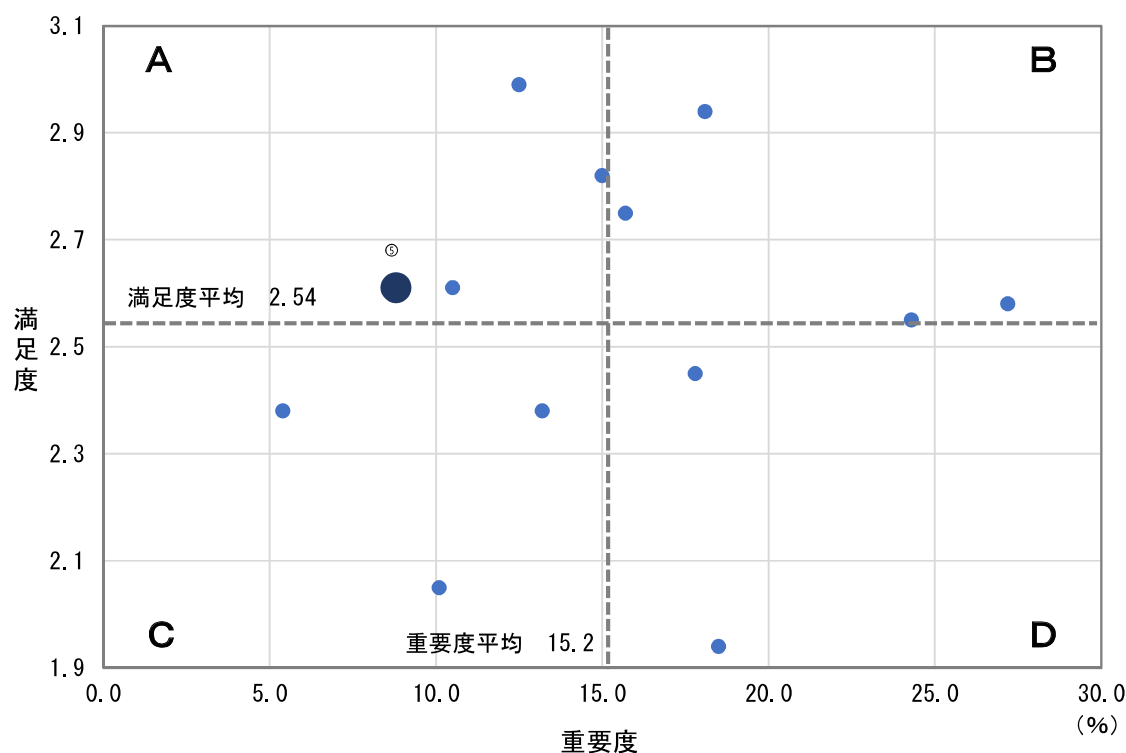
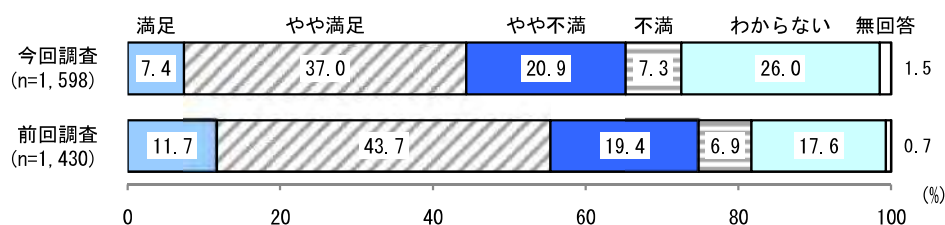
地区別では、肯定的意見について、潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）が最も高く 5 割を超えている。



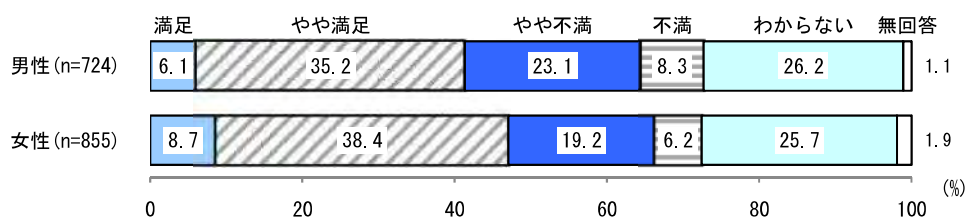
⑥ 健康になるまちづくりが進んでいる

全体では、「やや満足」が37.0%で最も高く、「満足」7.4%と合わせた肯定的意見は44.4%となっている。一方で、「やや不満」20.9%、「不満」7.3%を合わせた否定的意見は28.2%となっている。

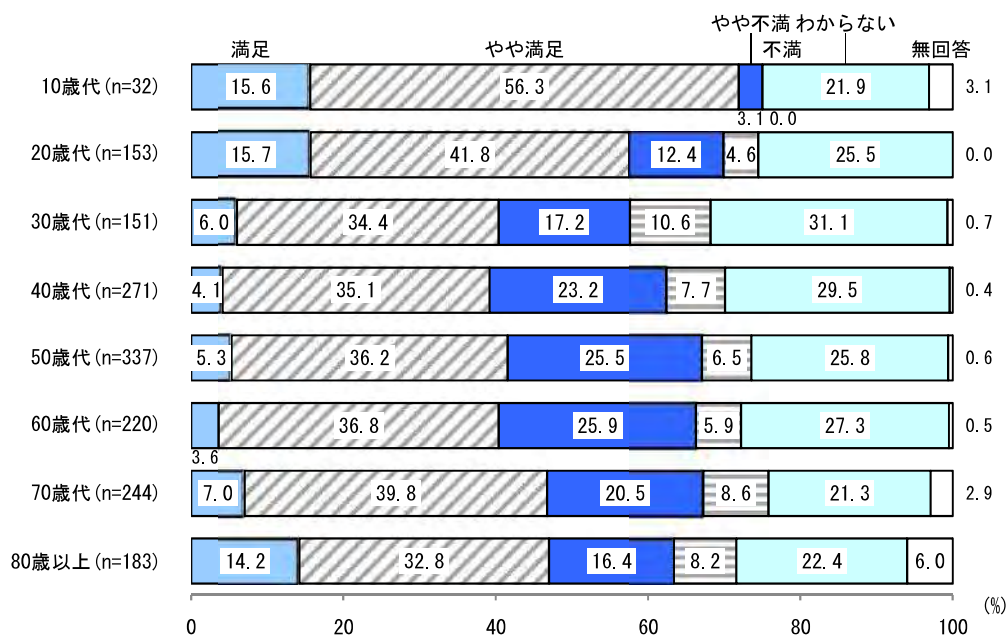
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より11.0ポイント低くなっている。



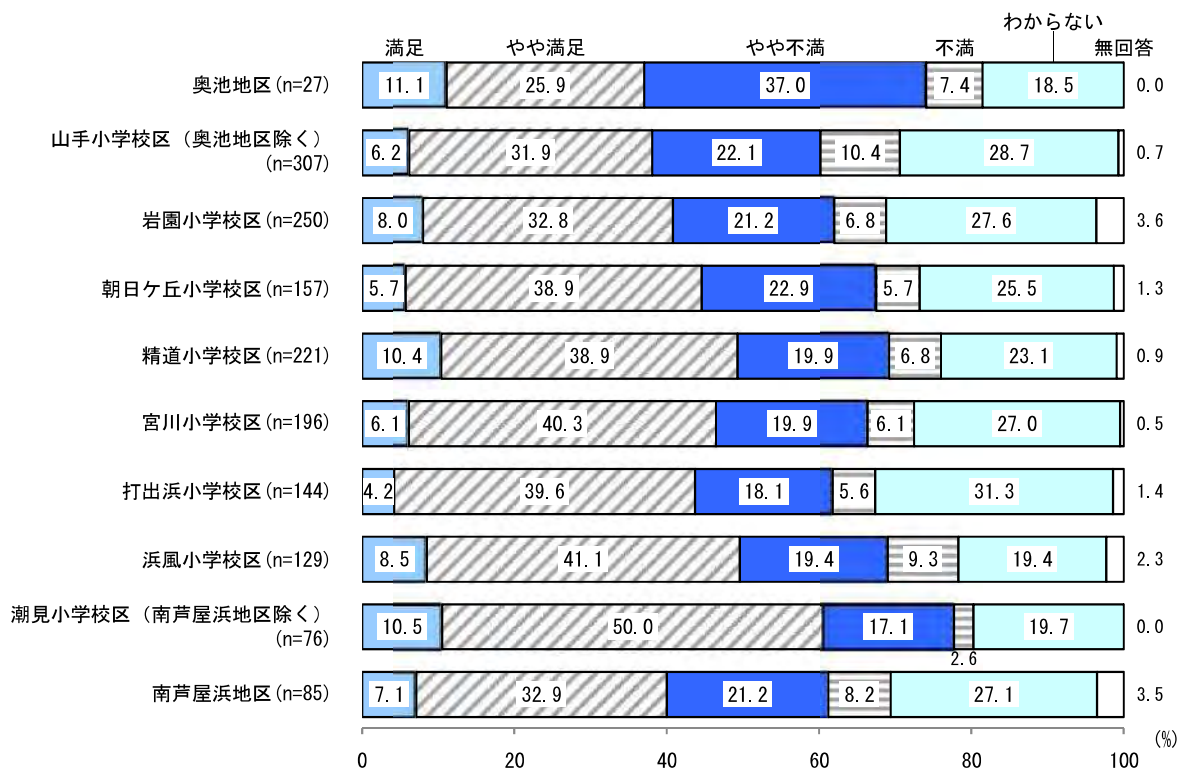
性別では、女性で肯定的意見が47.1%と男性より5.8ポイント高くなっている一方で、男性で否定的意見は31.4%と女性より6.0ポイント高くなっている。



年代別では、肯定的意見について、10 歳代と 20 歳代で 5 割を超え、全体より 10 ポイント以上高くなっている。



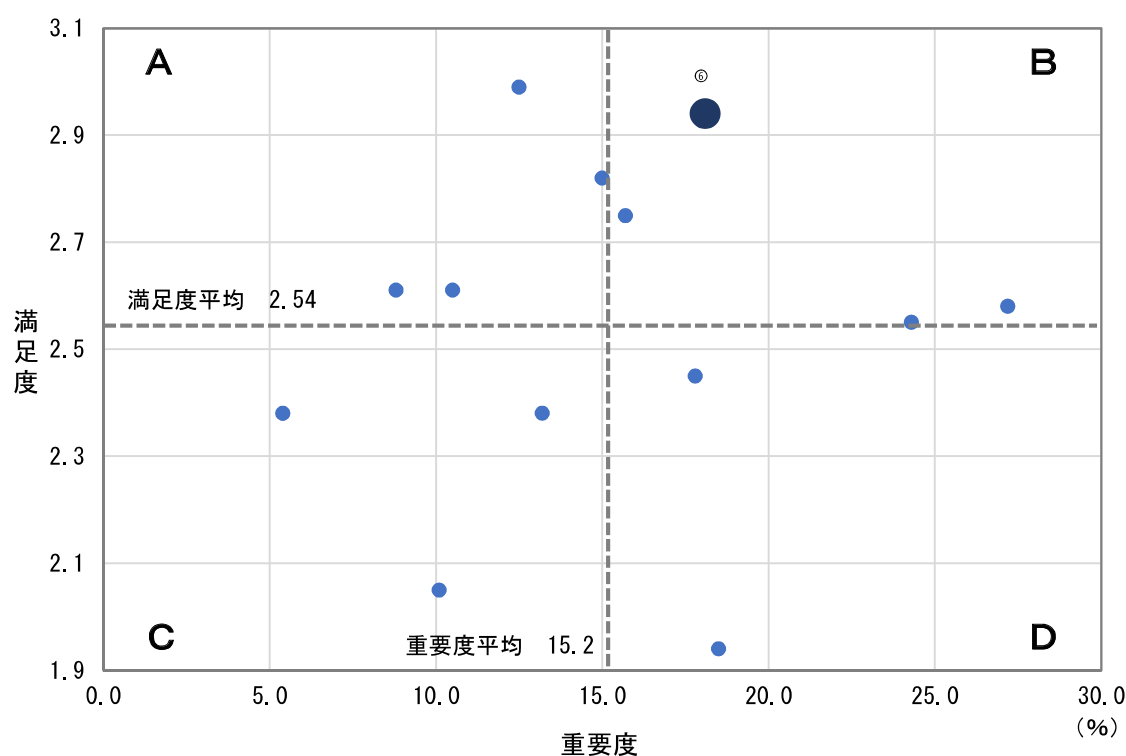
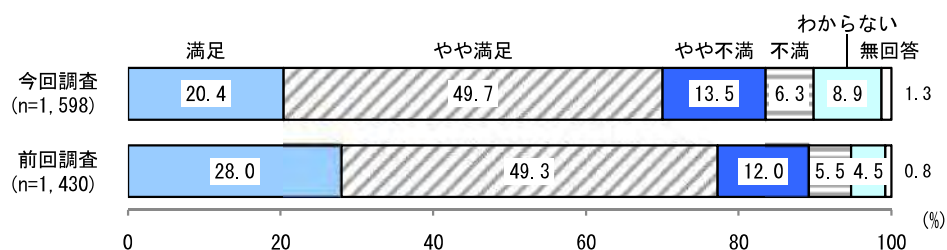
地区別では、肯定的意見について、潮見小学校区（南芦屋浜地区）が最も高く 6 割を超えている。



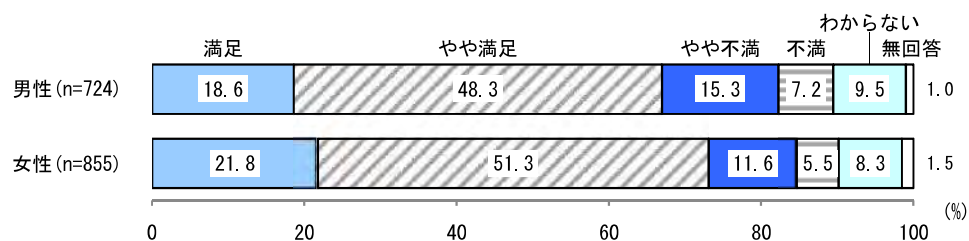
㊦ 良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている

全体では、「やや満足」が49.7%で最も高く、「満足」20.4%と合わせた肯定的意見は70.1%となっている。一方で、「やや不満」13.5%、「不満」6.3%を合わせた否定的意見は19.8%となっている。

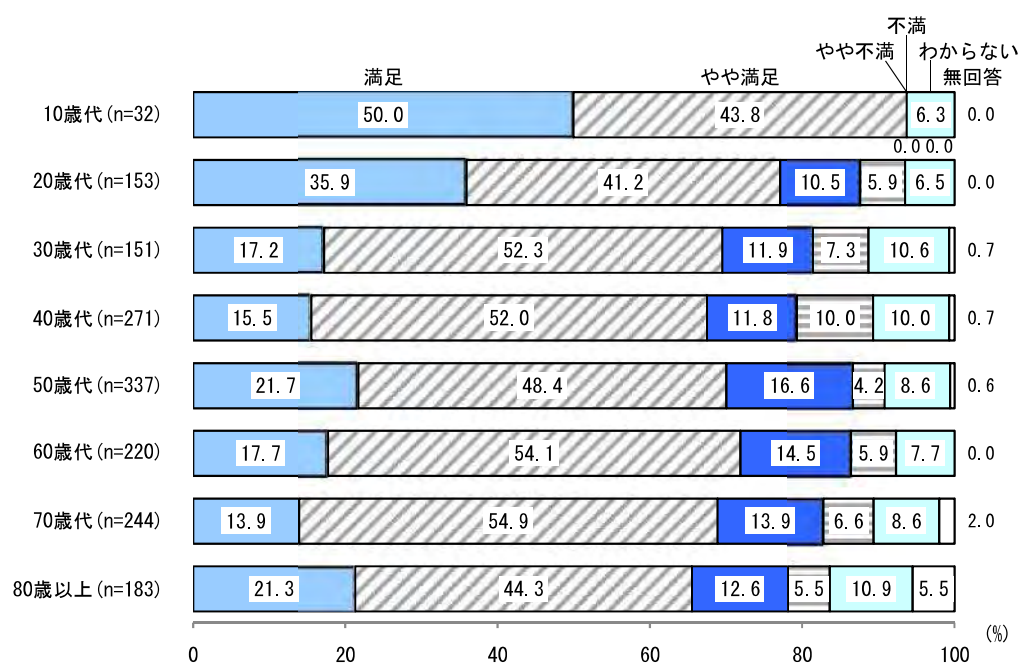
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より7.2ポイント低くなっている。



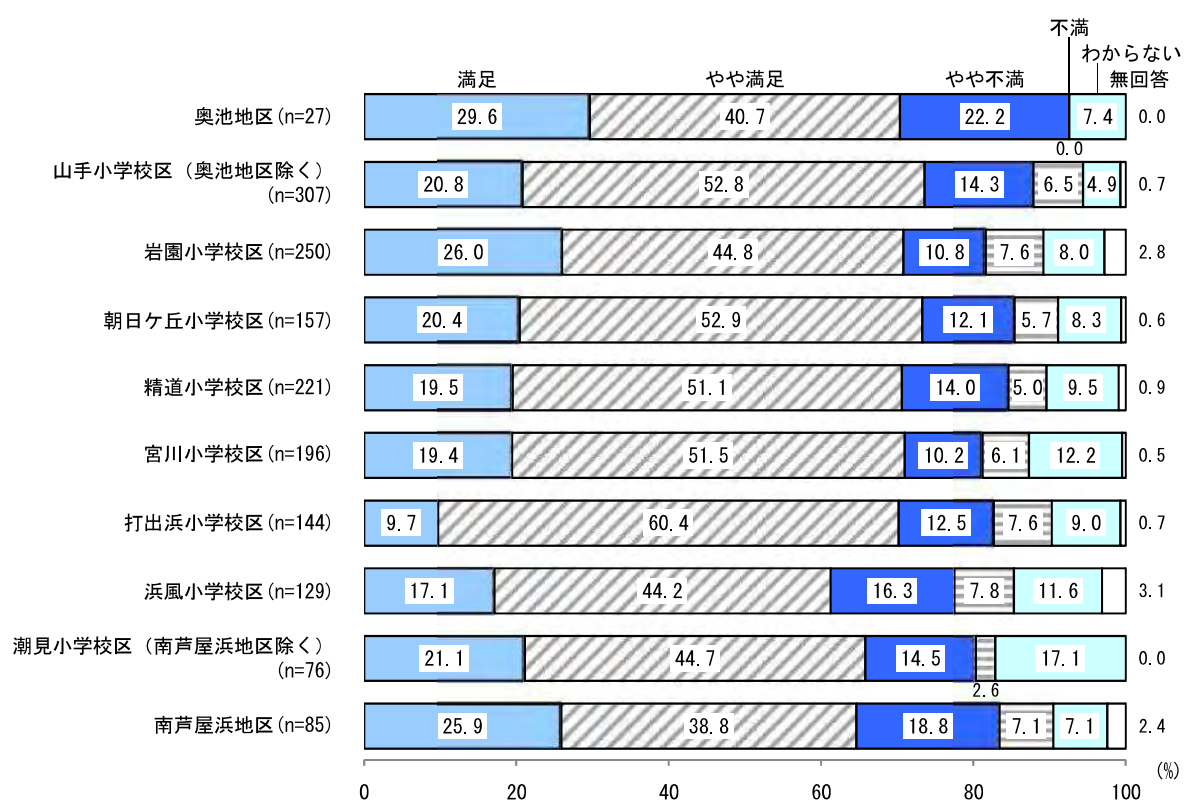
性別では、女性で肯定的意見が73.1%と男性より6.2ポイント高くなっている一方で、男性で否定的意見が22.5%と女性より5.4ポイント高くなっている。



年代別では、「満足」が10歳代と20歳代で3割を超え、全体より15ポイント以上高くなっている。



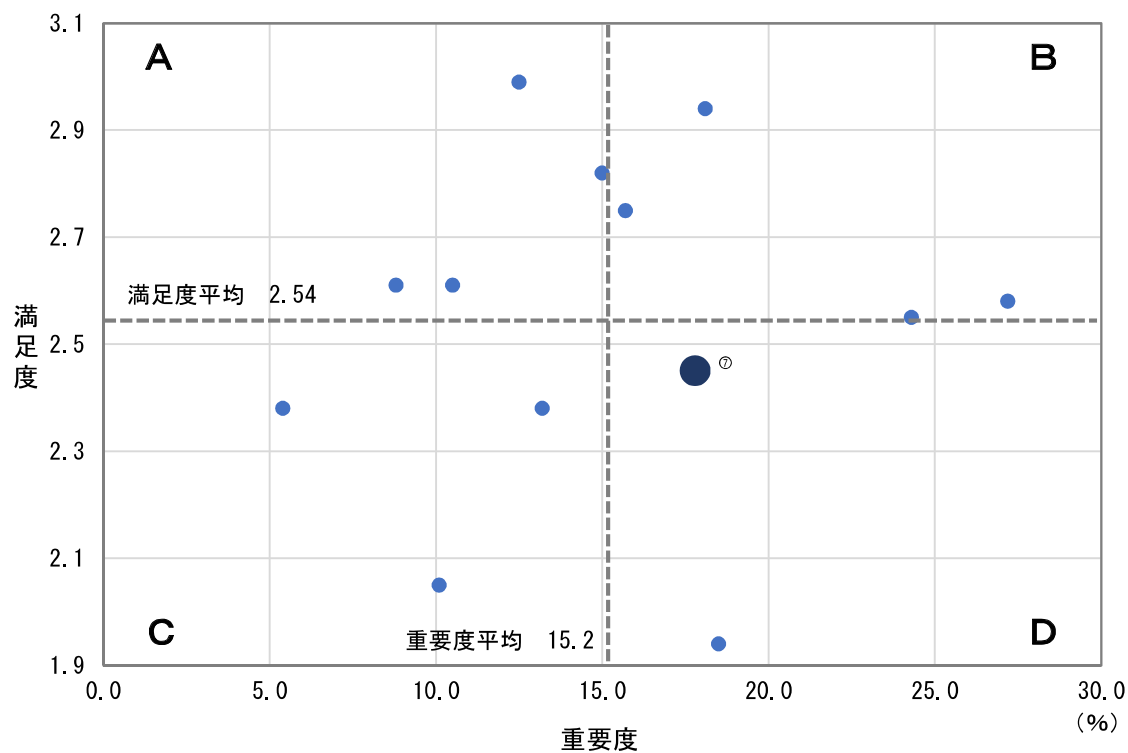
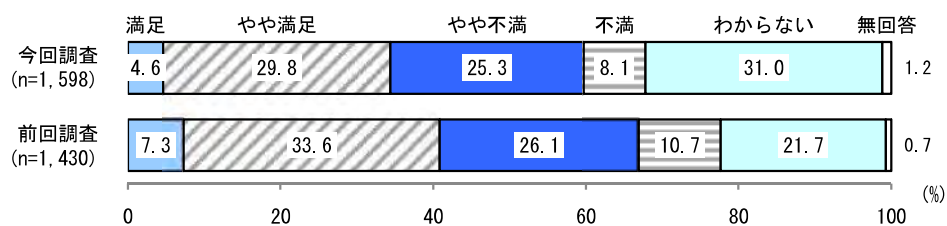
地区別では、「満足」が打出浜小学校区で1割未満となっているものの、「やや満足」と合わせた肯定的意見に大きな差はみられない。



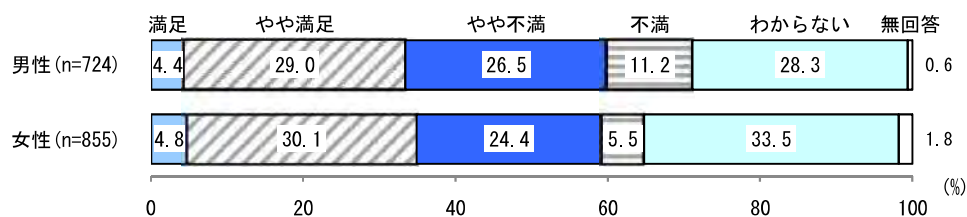
⑦ 災害に強いまちづくりが進んでいる

全体では、「わからない」が31.0%で最も高くなっている。「満足」4.6%、「やや満足」29.8%を合わせた肯定的意見は34.4%となっている一方で、「やや不満」25.3%、「不満」8.1%を合わせた否定的意見は33.4%となっている。

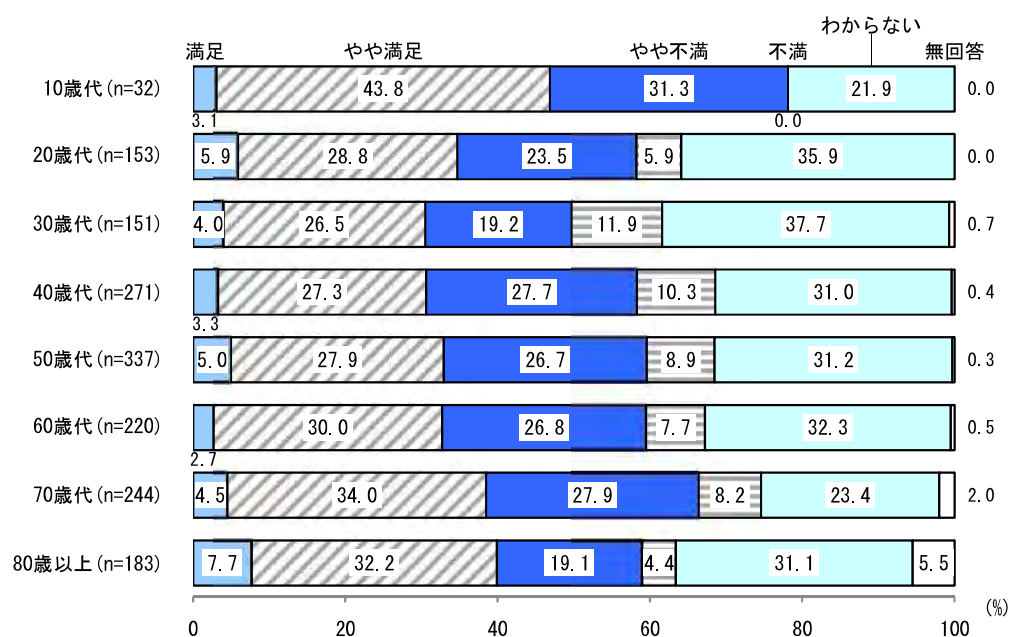
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より6.5ポイント低くなっている。



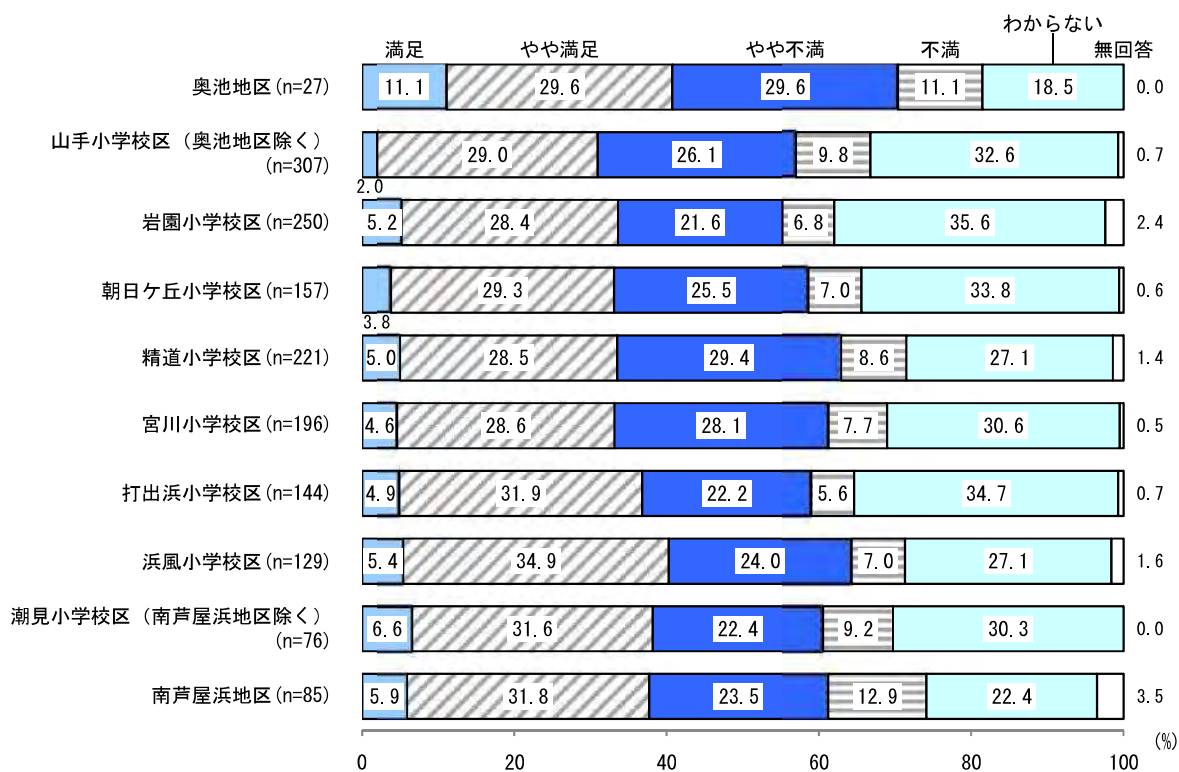
性別では、男性で「不満」が11.2%と女性より5.7ポイント高くなっている。



年代別では、10 歳代で肯定的意見が 46.9%と全体より 12.5 ポイント高くなっている。



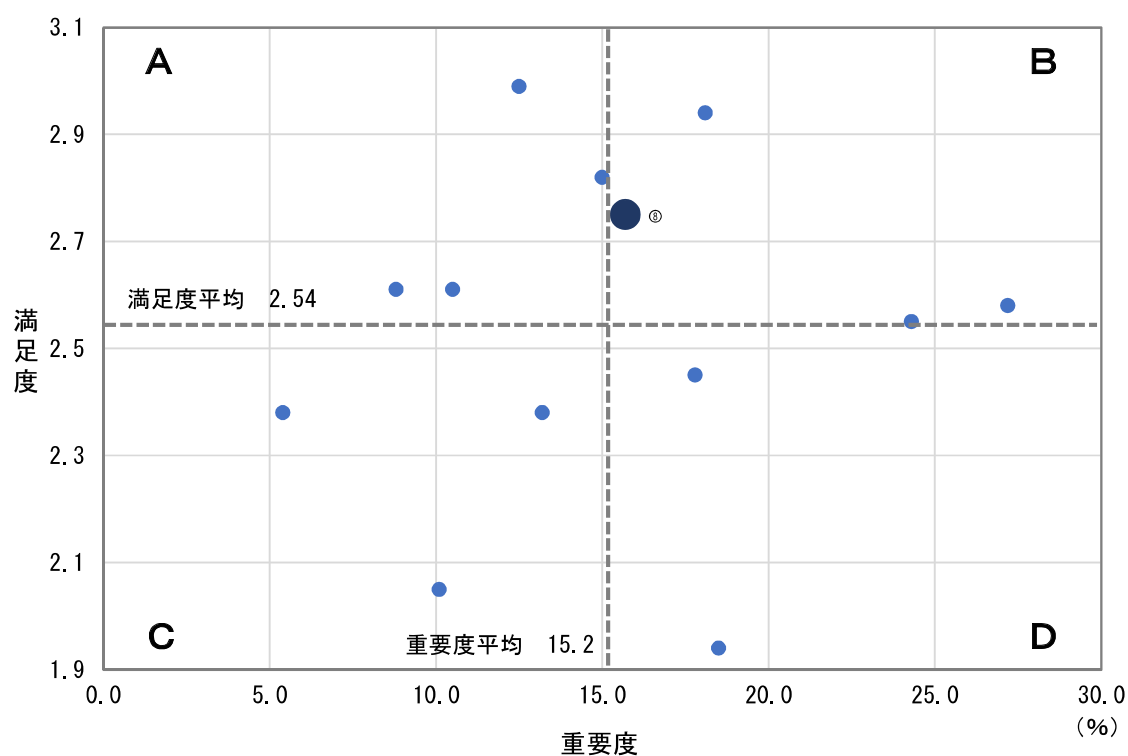
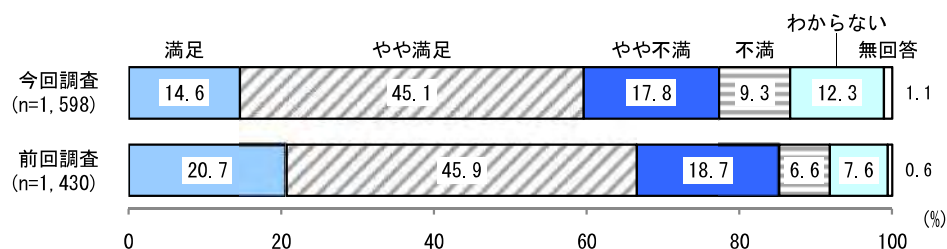
地区別では、「満足」が奥池地区で1割を超えているものの、「やや満足」と合わせた肯定的意見に大きな差はみられない。



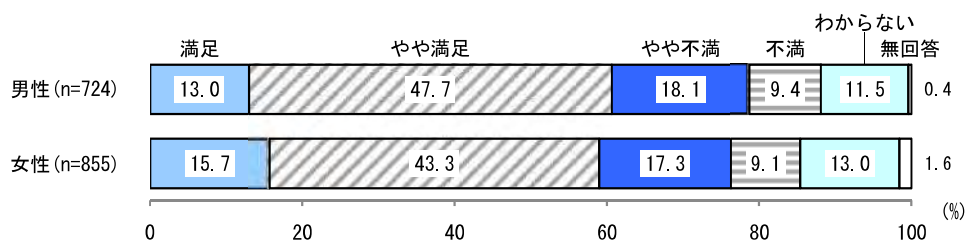
⑥ 日常の安全安心が確保されている

全体では、「やや満足」が45.1%で最も高く、「満足」14.6%と合わせた肯定的意見は59.7%となっている。一方で、「やや不満」17.8%、「不満」9.3%を合わせた否定的意見は27.1%となっている。

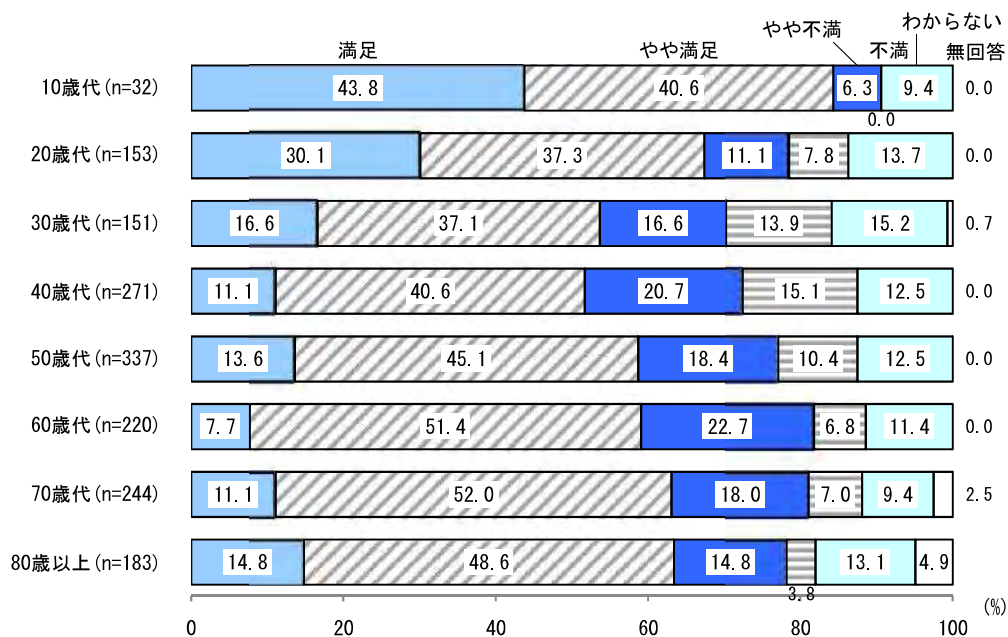
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より6.9ポイント低くなっている。



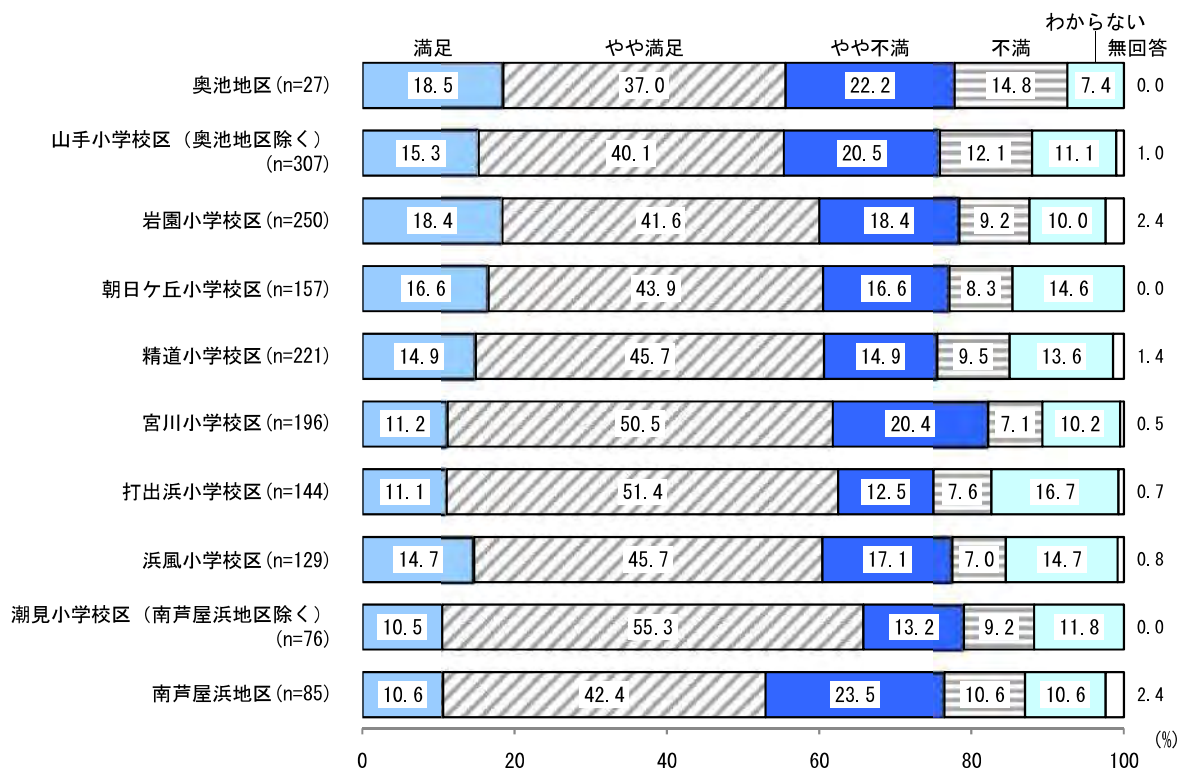
性別で大きな差はみられない。



年代別では、10歳代で肯定的意見が84.4%と全体より24.7ポイント高くなっている一方で、否定的意見については30歳代と40歳代で3割を超えている。



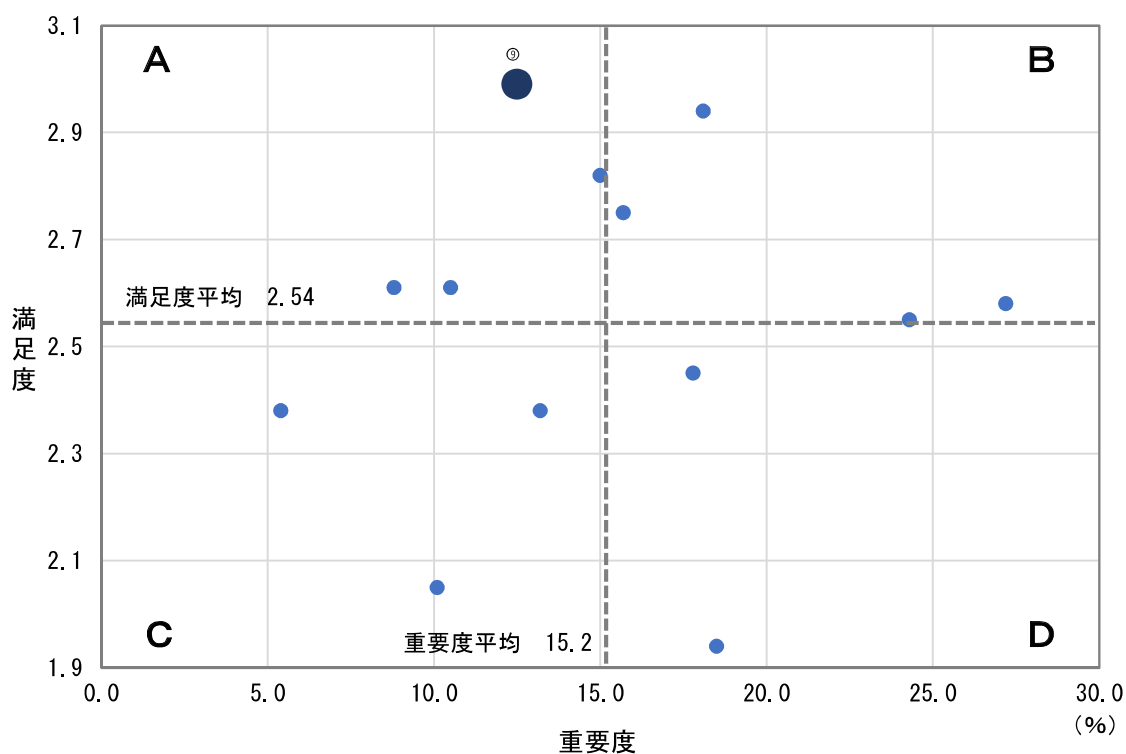
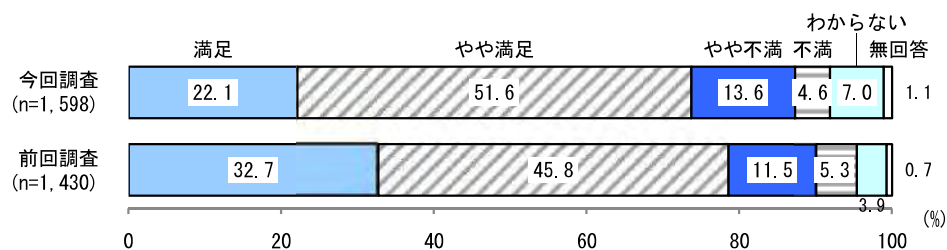
地区別では、肯定的意見について潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）が最も高く、南芦屋浜地区が最も低くなっている。



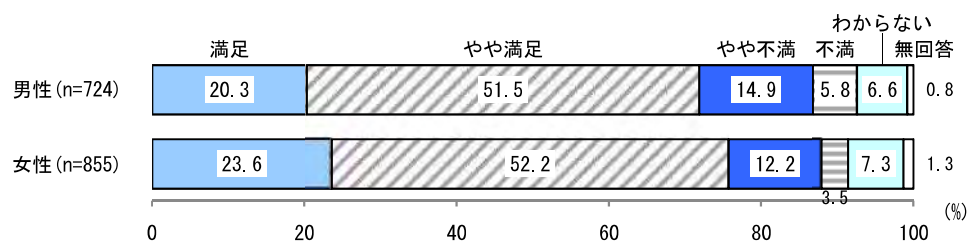
⑨ 住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている

全体では、「やや満足」が51.6%で最も高く、「満足」22.1%と合わせた肯定的意見は73.7%となっている。一方で、「やや不満」13.6%、「不満」4.6%を合わせた否定的意見は18.2%となっている。

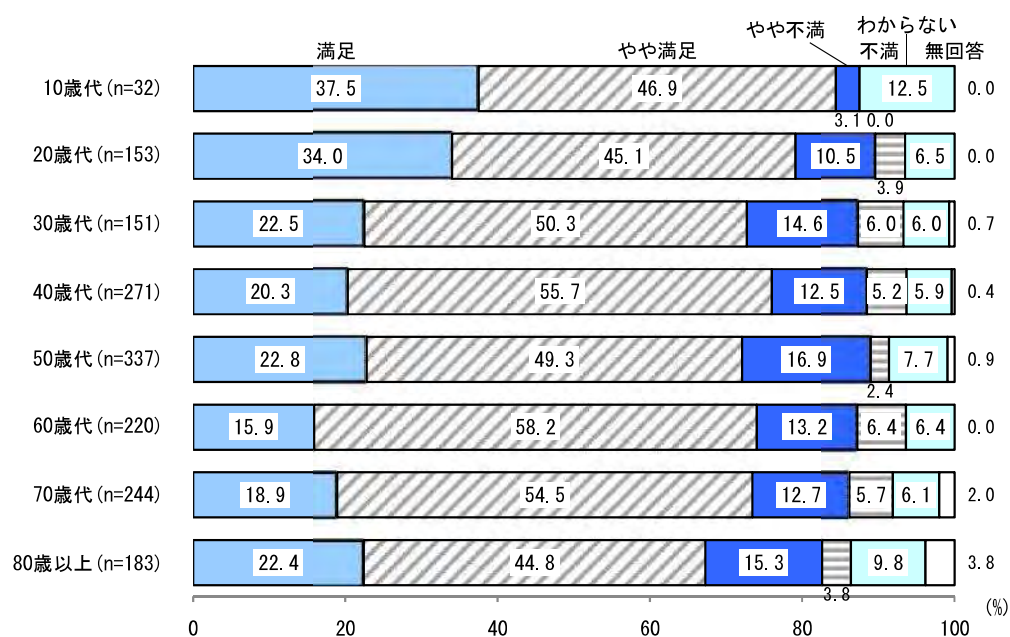
前回調査と比較すると、肯定的意見全体では大きな差はみられないものの、「満足」が前回調査より10.6ポイント低くなっている。



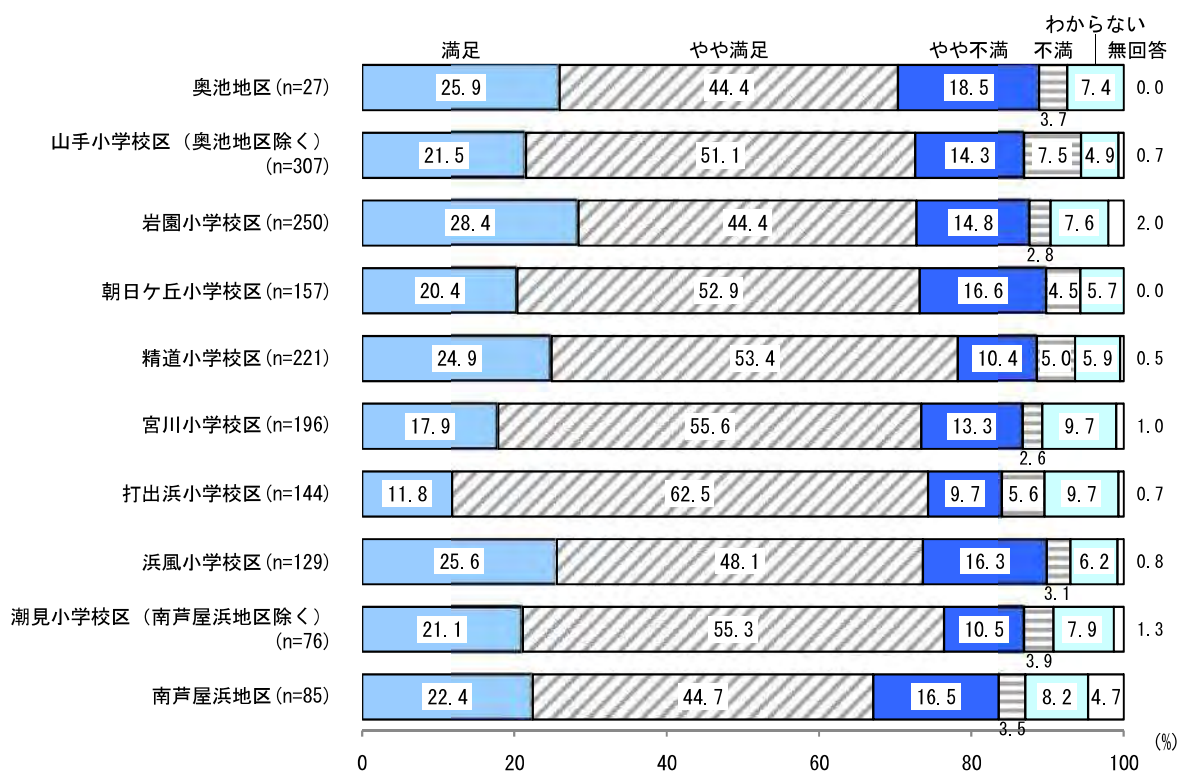
性別では、男性で否定的意見が20.7%と女性より5.0ポイント高くなっている。



年代別では、10 歳代で肯定的意見が 84.4%と全体より 10.7 ポイント高くなっている。



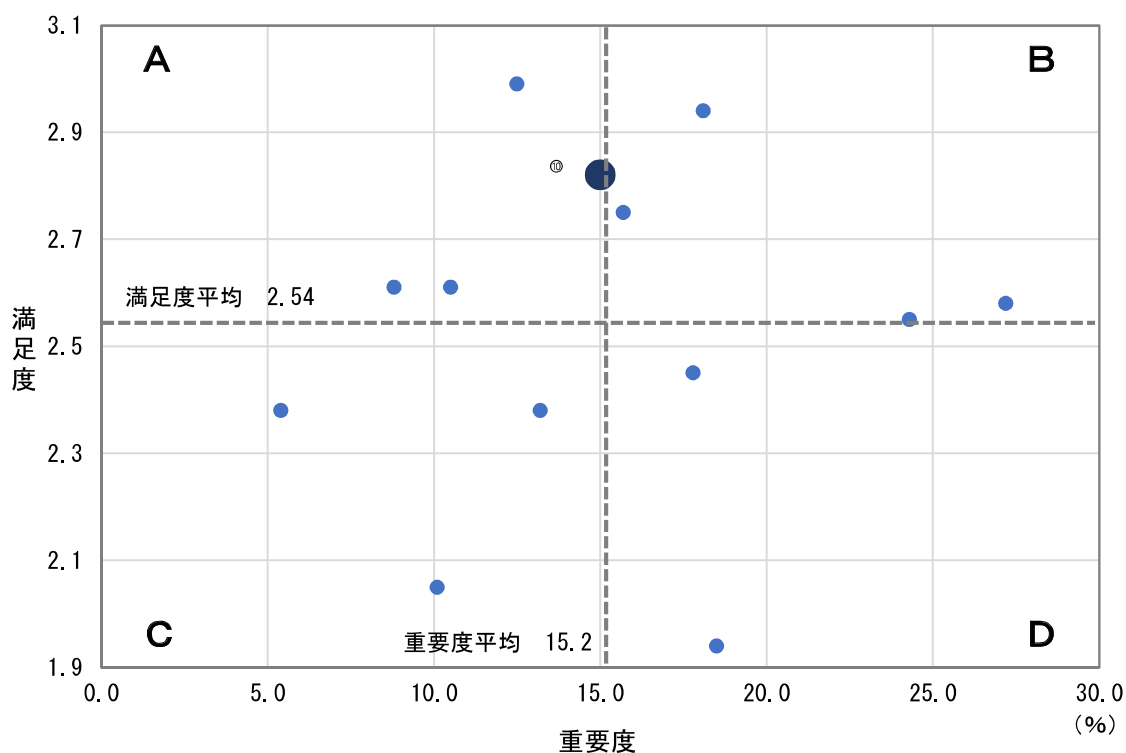
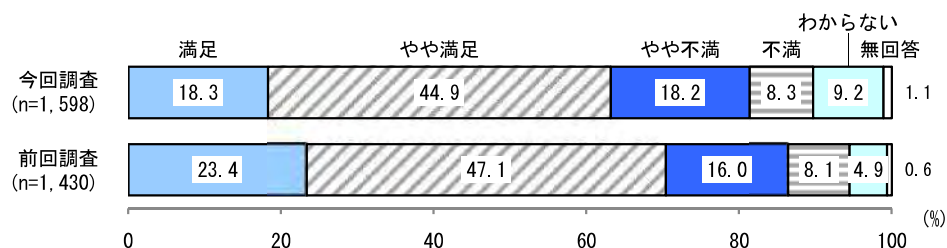
地区別では、肯定的意見が南芦屋浜地区で 67.1%と最も低くなっている。



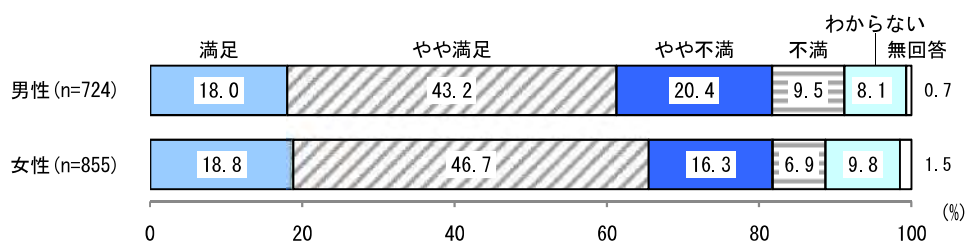
㊦ 持続可能なインフラ整備が進んでいる

全体では、「やや満足」が44.9%で最も高く、「満足」18.3%と合わせた肯定的意見は63.2%となっている。一方で、「やや不満」18.2%、「不満」8.3%を合わせた否定的意見は26.5%となっている。

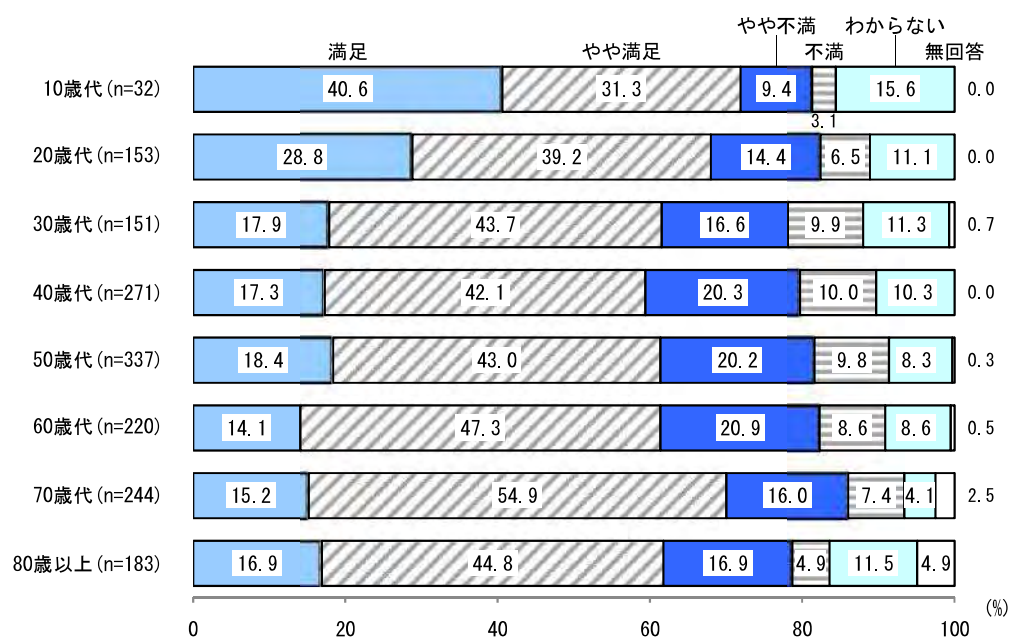
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より7.3ポイント低くなっている。



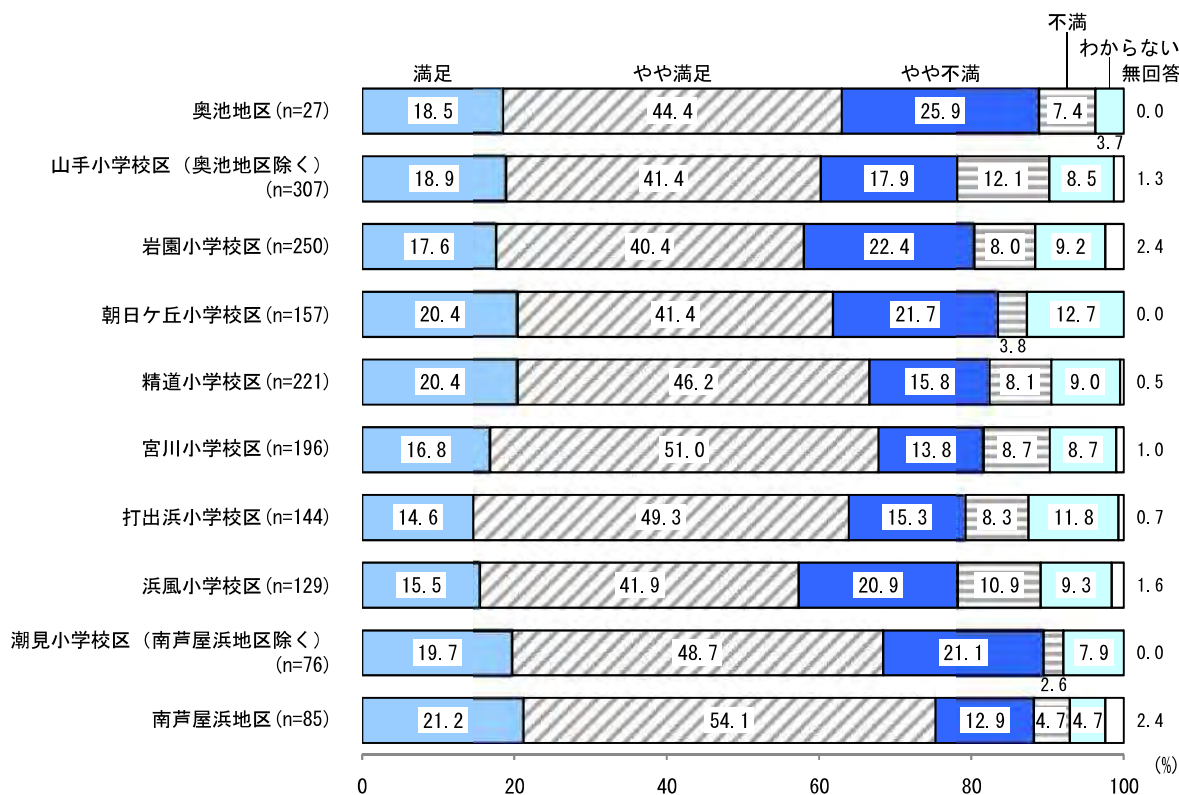
性別では、男性で否定的意見が29.9%と女性より6.7ポイント高くなっている。



年代別では、肯定的意見が10歳代と70歳代で7割を超えている。



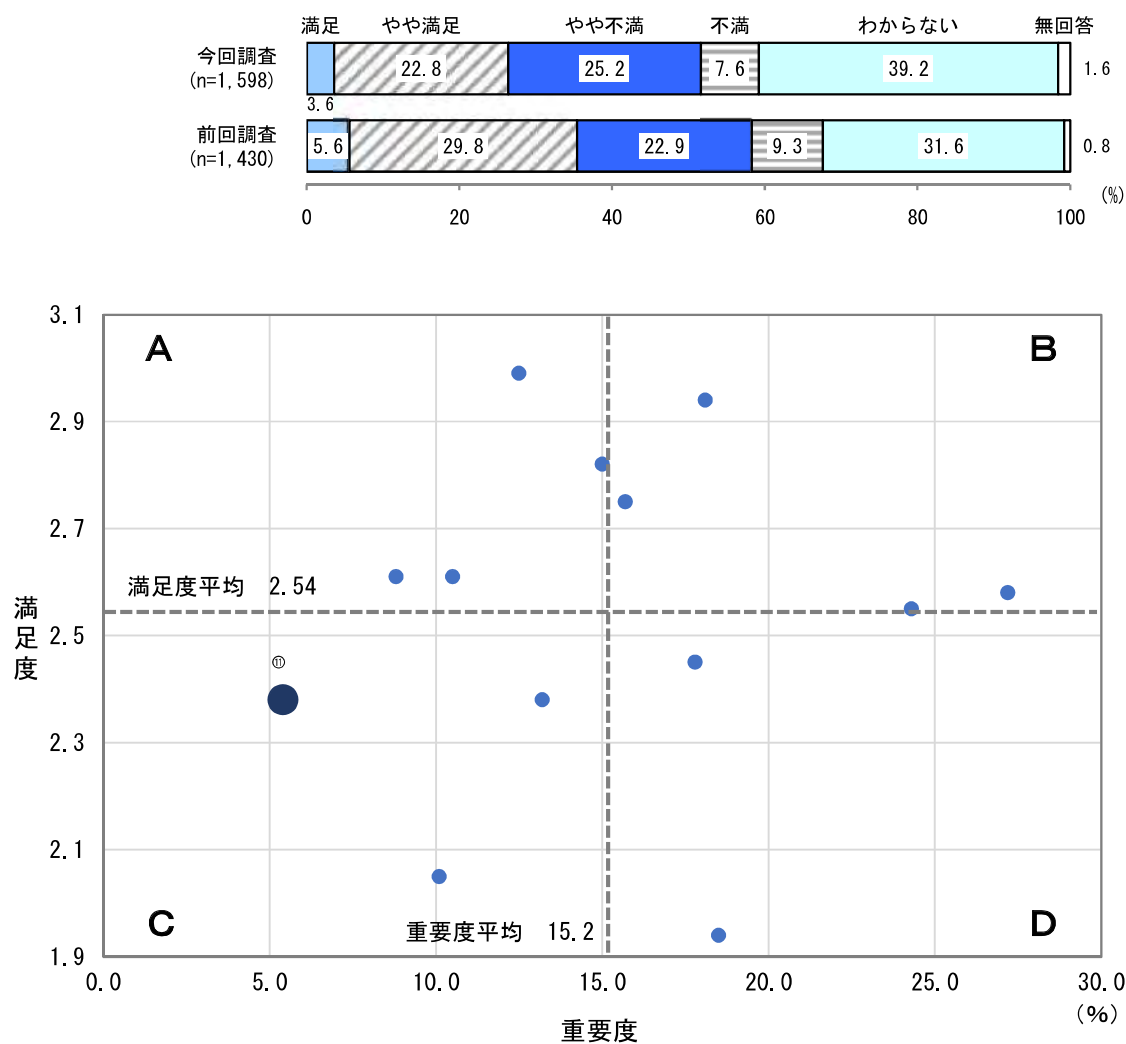
地区別では、肯定的意見について南芦屋浜地区が75.3%と最も高く、浜風小学校区で57.4%と最も低くなっている。



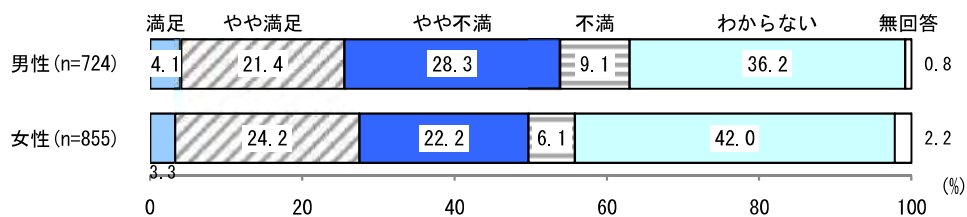
㊦ 協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる

全体では、「わからない」が39.2%で最も高くなっている。「満足」3.6%、「やや満足」22.8%を合わせた肯定的意見は26.4%となっている一方で、「やや不満」25.2%、「不満」7.6%を合わせた否定的意見は32.8%となっている。

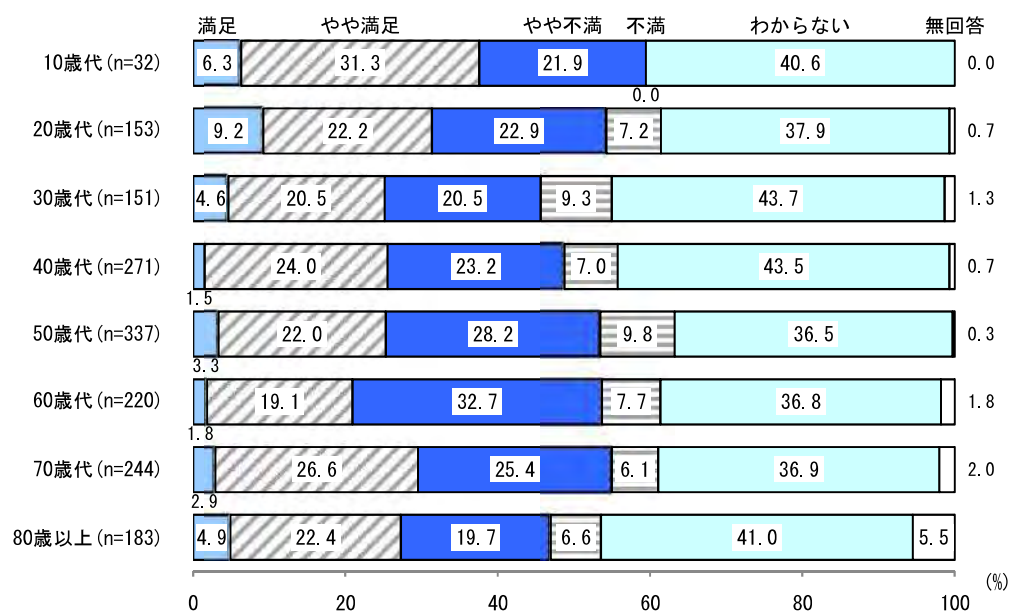
前回調査と比較すると、肯定的意見が前回調査より9.0ポイント低くなっている。



性別では、男性で否定的意見が37.4%と女性より9.1ポイント高くなっている。



年代別では、否定的意見が60歳代で40.4%と4割を超え最も高くなっている。



地区別では、否定的意見が山手小学校区（奥池地区除く）で40.4%と4割を超え最も高くなっている。

